2015
ANNUAL REPORT

札幌学院大学

総合研究所 年報

札幌学院大学 総合研究所

あいさつ

札幌学院大学　総合研究所長　中　村　永　友

札幌学院大学 総合研究所は，本学の学術研究活動に対する奨励・助成及び支援を行い，研究活動の活性化と，地域社会の学術研究発展に寄与する活動を行うことを目的として 2008 年に設置されました．また，北海道の文系総合大学として教育使命を果たすための教員が所属し，教員の様々な研究環境を整え，多様な形態の研究を支援する組織でもあります．研究促進奨励金，研究活動活性化事業，学会発表旅費助成，在外・国内研究員制度，各種運用の支援，外部資金獲得等の情報提供を常に行い，所員の研究活性化の下支えをし，様々な研究成果が教育の場に生かされていくよう，一層の研究活動支援を行っております．

本年報は，本学全教員が 2015（平成 27）年度に取り組んだ研究活動，外部資金獲得状況などの，あらゆる研究活動に関する概要を報告するものです．研究所員は５つの常設研究部会（経営，経済，人文，法政，社会情報学）と，３つの横断的研究部会（情報科学，社会意識・調査データベース，言語学談話会）のいずれかに所属しております．この多様性を強みとして学際的な研究活動を展開しております．また，各教員は各自の研究テーマの下で継続的な研究を行っていて，得られた研究成果は所属する学内外の学会で公表しております．各研究活動につきましては，本編をご覧いただき，その多様な研究分野とその成果をご確認いただければと存じます．

今後も総合文系大学の教育に資する研究の基礎を支える組織として，いっそうの環境整備を行って参りますので，いっそうのご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます．

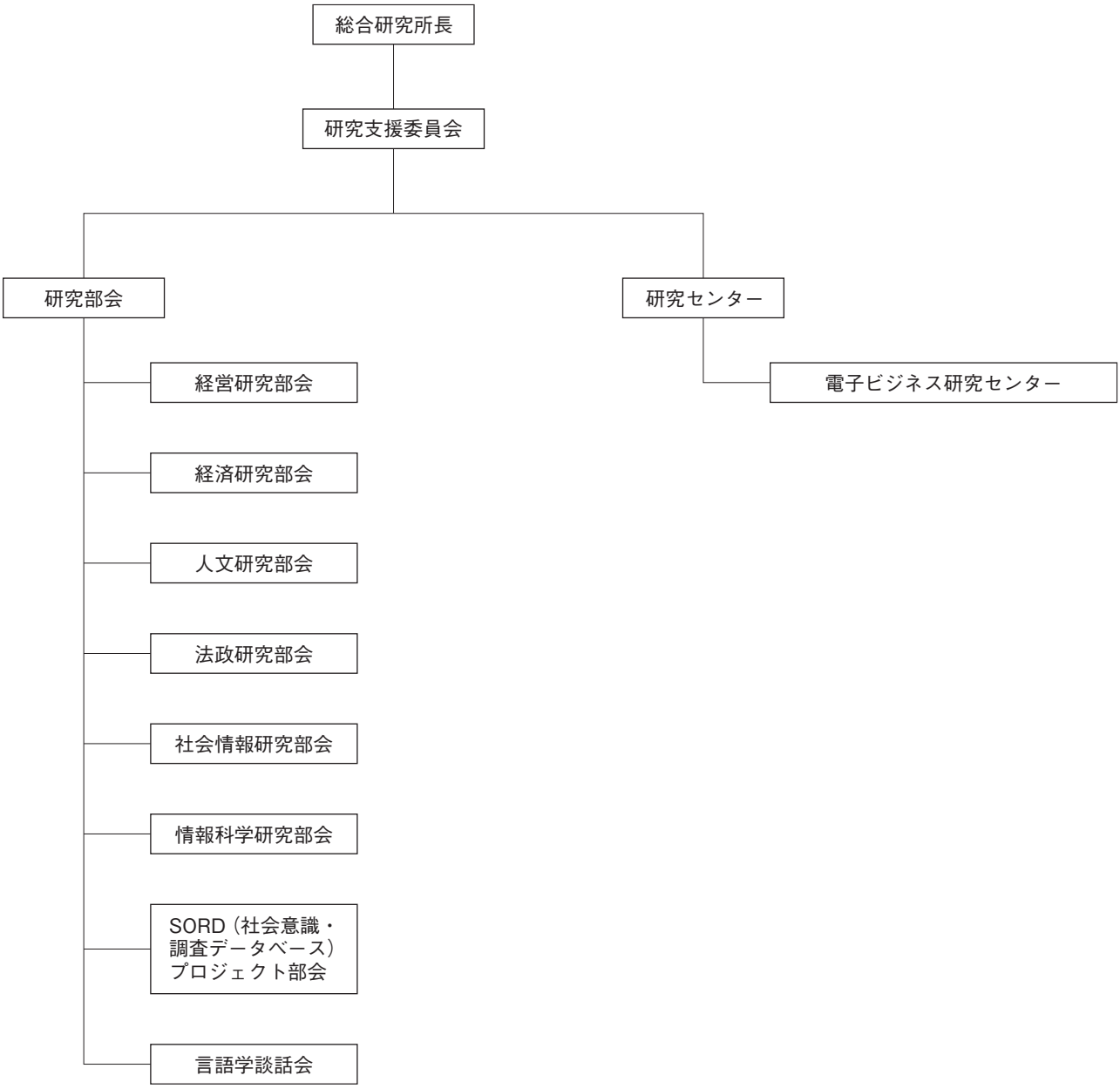
2015（平成 27）年度　札幌学院大学総合研究所年報

目次
Contents

組織図・事業概要
　札幌学院大学総合研究所組織図…… 3
研 究 活 動
　研究部会活動報告 …… 7
　研究促進奨励金採択一覧 …… 11
　研究員の研究促進奨励金による研究概要…… 12
　研究所員　研究活動報告 …… 17
　　研究報告および個人研究費の執行概要等 …… 17
　　著書・論文等の執筆 …… 47
　　学会発表・研究会等での発表…… 61
　科学研究費補助金間接経費研究活動活性化事業 …… 71
成 果 公 開
　シンポジウム …… 75
　総合研究所ブックレット　No.8…… 76
　研究紀要 …… 77
　札幌学院大学後援会自費出版助成対象図書一覧 …… 79
　著書買い上げ補助対象図書一覧…… 80
　学会発表旅費助成採択者一覧 …… 81
所員の動向
　新任・退職・在外・国内研究員…… 85
外部資金等概要
　科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金
　　助成金）一覧…… 89
　科学研究費助成事業　成果報告…… 91
　受託研究 …… 99
　その他の研究資金 ……100
国 際 交 流 ……101
運　　営
　研究支援委員会議題一覧 ……107

組織図・事業概要

札幌学院大学総合研究所組織図



研究活動

研究部会活動報告

経営研究部会研究会

6月4日㈭
3-310演習室（3号館3階）
報告者　原　　晴生（経営学部教授）
タイトル　「不正会計」最近の事例をもとに

経済学部研究会

6月4日㈭
経済学部研究資料センター（共同研究室3-408）
報告者　井上　　仁（経済学部准教授）
タイトル　Unviable Relationship and Bank Lending: Evidence from Loan-level Matched Data
（甲南大学・中島清貴氏，カリフォルニア大学サンディエゴ校・高橋耕史氏との共同論文）

7月9日㈭
経済学部研究資料センター（共同研究室3-408）
報告者　土居　直史（経済学部講師）
タイトル　Empirical Study of Per-passenger and Per-flight Airport Charges Lending: Evidence from Loan-level Matched Data

11月5日㈭
経済学部研究資料センター（共同研究室3-408）
発表者　浅川　雅己（経済学部准教授）
タイトル　本源的蓄積論と資本主義の現在

12月3日㈭
経済学部研究資料センター（共同研究室3-408）
発表者　平澤　亨輔（経済学部教授）
タイトル　地方中枢都市としての札幌市の成長～支店経済と産業構造の変化～

2月5日㈮
経済学部研究資料センター（共同研究室3-408）
発表者　鏡味　秋平（経済学部教授）
タイトル　「一帯・一路」「One Belt One Road Plan」
── 新シルクロード経済圏構想について ──

人文研究部会研究会

5月21日㈭
共同研究室（A-425，A館4階）
報告者　山本　　彩（人文学部准教授）
タイトル　発達障害支援を，ライフステージに沿って整える
～特に，青年期以降は，自分で自分に必要な援助を申し出るということを大切に～

6月18日㈭
共同研究室（A-425，A館4階）
報告者　望月　和代（人文学部教授）
タイトル　医療観察法と社会復帰調整官について

7月23日㈭
共同研究室（A-425，A館4階）
報告者　安木　尚博（人文学部教授）
タイトル　子どもの感性と造形活動

10月22日㈭
共同研究室（A-425，A館4階）
報告者　新國三千代（人文学部教授）
タイトル　高等教育おける障がい学生支援体制のあり方と地域ネットワークの形成

11月19日㈭
共同研究室（A-425，A館4階）
報告者　舛田　弘子（人文学部教授）
タイトル　説明的文章の「道徳的誤読」概念の再検討

12月17日㈭
共同研究室（A-425，A館4階）
報告者　Koch Junior，J．C．（人文学部講師）
タイトル　“Focus on students: how students' experiences changed my own views”

法政研究部会研究会

11月19日㈭
1号館4階会議室（1-408）
報告者　鈴木　敬夫（名誉教授）
タイトル　現代中国における国家主義について
── 中国のカール・シュミット（Carl Schmitt）旋風 ──

社会情報研究部会研究会

6月4日㈭
C-410会議室（C号館4階）

報 告 者　高田　　洋（社会情報学部教授）
タイトル　授業評価アンケートの分析と社会情報学部FDの取り組み

10月8日㈭
C-410会議室（C号館4階）
報 告 者　大國　充彦（社会情報学部教授）
タイトル　「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準　社会学分野」作成に携わって ── 作成者側の意図 ──

特設部会

情報科学研究部会

代 表 者　中村　永友
構 成 員　石川　千温，井上　　仁，大國　充彦，
奥田　統己，小内　純子，鏡味　秋平，
葛西　俊治，北田　雅子，小池　英勝，
小出　良幸，兒玉　敏一，小林　好和，
櫻井　道夫，佐藤　和洋，諸　　洪一，
白石　英才，杉本　　修，髙木　　清，
高田　　洋，土居　直史，中村　永友，
西尾　敬義，新國三千代，早田　和弥，
平澤　亨輔，皆川　雅章，宮町　誠一，
三好　　元，森田　　彦，山田　智哉，
湯本　　誠，渡邊　愼哉

本研究部会は研究紀要「情報科学」を発刊することが主たる研究活動で，2012 年度までは当該紀要を 33 巻にわたって発刊し続けてきた．2013 年度に総合研究所紀要が発行され，この中の 1 セクションとして「情報科学」が設けられた．関連論文はここに掲載することとなった．

言語学談話会

代 表 者　奥田　統己
構 成 員　奥田　統己，佐々木　冠，白石　英才，
中村　永友

札幌学院大学言語学談話会（2014 年度より総合研究所特設部会）は，今年度中に計 6 回の例会を，学内外の研究者・学生の参加を得て開催した．各回の発表者とタイトルは以下のとおりである．

第 71 回札幌学院大学言語学談話会 2015 年 6 月 11 日㈭
山田　敦士（日本医療大学）
ワ語（中国雲南省）における語形成とレトリック

第 72 回札幌学院大学言語学談話会 2015 年 7 月 30 日㈭
舛田　弘子（札幌学院大学）
「道徳的誤読」概念の再検討

第 73 回札幌学院大学言語学談話会 2015 年 10 月 23 日㈮
佐々木　冠（札幌学院大学）
波崎方言の促音：千葉的な形態法と茨城的な音韻構造のはざまで
古賀　弘毅（佐賀大学）
Harmonic Serialism-OT for apocope and compensatory lengthening in a Mora-respecting language（拍尊重言語における末尾母音消失と代償延長のための最適性理論・直列主義）

第 74 回札幌学院大学言語学談話会 2015 年 11 月 26 日㈭
白石　英才（札幌学院大学）
ニヴフ語母音調和の歴史的発展過程について

第 75 回札幌学院大学言語学談話会 2016 年 1 月 28 日㈭
Junior，J．C．Koch（札幌学院大学）
Changing my own perspectives through students' experiences

第 76 回札幌学院大学言語学談話会 2016 年 3 月 31 日㈭
Kate Sato（札幌学院大学）
S#*t my students are swearing! What's the big deal?

SORD 研究部会

代 表 者　大國　充彦
構 成 員　大國　充彦，小内　純子，高田　　洋，
新國三千代

2015 年度，SORD 研究部会では昨年度に引き続き次の活動を行った．

1．社会調査データの二次利用のための提供活動
2．H18-H21 科研費研究で収集・整理した資料の公開に向けての検討活動
3．H21-H25 科研費研究でサルベージした資料の取り扱いについての検討活動
4．H26-科研費研究の分担金により，資料整理・データ作成を行う．
5．SORD の課題に関する検討活動

具体的には次の通りである．

1．社会調査データの二次利用のための提供活動

例年通り，数件の利用申請があり，規程に従ってデータを提供した．

2．H18-H21 科研費研究で収集・整理した資料の公開に向けての検討活動

公開に向けてハードルとなるいくつかの課題を確認した．

㈠　プライバシー・ポリシーの検討を行った．

3．H21-H25 科研費研究でサルベージした資料の取り扱いについての検討活動

中大科研分担金を獲得し，次の作業をおこなった．

1）資料の内容についての検討作業（主として中大科研）．

4．H26-科研費研究の分担金により，資料整理・データ作成を行う．

1）H21-H25 科研費研究でサルベージした資料から，南助松関連の資料をピックアップし，整理した（主

として中大科研).

2）炭婦協元会長の講演記録の改訂版を作成した（主として中大科研).

5. SORD の課題に関する検討活動

データアーカイブス運営上の諸課題とデータアーカイブスの学術的諸課題とを整理した．これらの課題は，今度とも継続課題として検討していく.

・データアーカイブス運営上の諸課題

(ア) データ寄託者との関係を明確化する

(イ) データの利活用に関する課題

・データアーカイブスの学術的諸課題

1）資料・データについての研究

2）資料・データを用いた研究

研究促進奨励金採択一覧

区分	研究者氏名	研究課題	交付金額（円）
A（個人研究）	佐々木　冠	『増間の昔話』音声資料作成準備	200,000
	井上　　仁	国内銀行の貸出姿勢に関する実証分析：「追い貸し」か「貸し渋り」か	200,000
	木戸　　功	移住と再生産：移住生産者の家族形成をめぐって	200,000
	石井　和平	環境モデル都市における再生可能エネルギー政策の課題とその展開	200,000
	小内　純子	被災地および避難先における女性グループの活動とその意義についての実証	200,000
	小池　英勝	計算機リソースの効率的な活用に関する研究	200,000
B（個人研究）	土居　直史	航空産業における公租公課の定量分析	493,000
	小出　良幸	層状チャートの成層構造の成因と記録されている地質情報についての考察	500,000
	佐野　友泰	コラージュ作品の国際比較　── 留学生支援のための基礎資料構築 ──	489,830
B（共同研究）	★大塚　宜明 鶴丸　俊明	黒耀石産地推定分析に着目した先史時代の資源利用に関する研究　── 北海道東部を対象に ──	500,000
C（個人研究）	北田　雅子	ヘルスリテラシー向上のための効果的な介入プログラムの検討	1,000,000

★：研究代表者

研究員の研究促進奨励金による研究概要

◆研究者

佐々木　冠

◆研究課題名

『増間の昔話』音声資料作成準備

◆研究課題番号

SGU-AS15-201006-01

◆研究成果の概要

本奨励金により，2015 年 5 月 30 日，7 月 5 日，11 月 20 日，2016 年 3 月 22 日に南房総市三芳で，増間の昔話の音声資料を作成するための方言調査を行うことができた．調査では，地元の方に物語の音声を録音させていただいた．現在編集中の音声は下記の HP で確認できる．

佐々木冠のホームページ→「増間の昔話」音声資料作業用ウェブページ

上記ウェブページにはパスワードがかかっている．確認したい方は，研究代表者まで電子メールでパスワードを問い合わせてほしい．

編集後，本奨励金で収集した音声にグロスなどを付けた資料を CD とウェブの両方で公にする予定である．

◆研究者

井上　仁

◆研究課題名

国内銀行の貸出姿勢に関する実証分析：「追い貸し」か「貸し渋り」か

◆研究課題番号

SGU-AS15-212002-02

◆研究成果の概要

本研究は，1990 年代以降の国内銀行の貸出姿勢について実証的に明らかにすることを目的とした．先行研究では，90 年代後半の国内銀行の貸出姿勢に関して 2 つの主張が対立している．第 1 の主張は，いわゆる「追い貸し」である．追い貸しとは，本来であれば貸出が行われないはずの企業（業績が悪い企業，倒産が懸念される企業など）に追加的に資金を貸与する貸出姿勢を指す．第 2 の主張は，いわゆる「貸し渋り」である．貸し渋りとは，銀行の財務状況（特に自己資本比率）が悪化したために，本来であれば貸出が行われるはずの企業に追加的に資金を貸与しない，もしくは資金を引き揚げる貸出姿勢を指す．これら 2 つの貸出姿勢は正反対であるが，90 年代後半の国内銀行に関しては未だにコンセンサスが得られていない状況である．

本研究では，国内上場企業の借入先別借入残高データと銀行および企業の財務データをマッチさせた貸出レベルデータを使用して，1990 年代以降の国内銀行の貸出姿勢に関する実証分析を行った．その結果は学内外の研究会および学会で報告し，海外の学術研究雑誌に投稿するために準備中である．財務状態（自己資本比率）が芳しくない銀行と質の低い企業の間の貸借関係に着目した結果として以下の 2 点の結論を得た．1 点目として，90 年代中盤には自己資本比率が低い銀行からの追い貸しが観察され，その後 90 年代後半では貸し渋りに転じた．このように 90 年代は年度によって異なる貸出態度が観察されたことは先行研究において正反対の結果が報告されていることと整合的である．また，2000 年代中盤とリーマンショック直後の 2008 年度にも貸し渋りが観察された．2 点目として，貸し渋り期間においては自己資本比率が低い銀行はより質が高い企業に貸出を集中する行動（質への逃避）が観察された．

◆研究者

木戸　功

◆研究課題名

移住と再生産：移住生産者の家族形成をめぐって

◆研究課題番号

SGU-AS15-205008-04

◆研究成果の概要

オケクラフト移住生産者のライフコースをかれらの語りに則して明らかにすることを目的として 3 年目となる調査を継続して実施した．当初は 4 回の現地調査を計画したが，校務等の都合により 3 回にとどまった．本年度はとりわけ家族形成という面に着目しながら，未調査であった 1 名の移住生産者へのインタビューを実施することができた．また，参与観察の継続とともにすでに調査に協力していただいた方々を訪ね，その後の近況を含めて話を聞くことができた．

また，昨年度から再開された生産者育成のための研修制度についても，訪問時に情報収集を行い，今後の調査の進め方を検討することができた．新しい指導体制の下で，新たな移住者が加わり，育成が実施されている．その指導者である生産者へのインタビューと新しい研修生のその後の生活形成を追跡することが今後の課題として浮かび上がった．

今後は，まず，7 月に開催される学会にて成果の一部を報告しつつ（北海道社会学会と家族問題研究学会を予定），7 月締め切りの『人文学会紀要』に，論文を発表する予定でおり，そのための準備にとりかかっている．

◆研究者

石井　和平

◆研究課題名

環境モデル都市における再生可能エネルギー政策の課題

とその展開

◆研究課題番号

SGU-AS15-195005-05

◆研究成果の概要

北海道下川町と福岡県北九州市の2地区を対象地とし，低炭素化を目指して再生可能エネルギーへの転換を図る自治体の取り組みを調査研究した．まず下川町である．下川町では，森林バイオマスエネルギーの利活用等，地域が受益者となる地産地消型エネルギーの生産と消費を目標に，売電を目的とした他の自治体とは明らかに異なる自立分散型のエネルギー政策を取っている．特に下川町の過疎集落であった一の橋地区に作られた集合施設は，エネルギー自立を目指した下川町における先端的なモデル事業である．下川町内でも，もっとも深刻な人口減少と高齢化が進んでいた当該地域の再生を目的として，森林未来都市（森林総合産業の創造，エネルギー完全自給，少子高齢化社会への対応を目標とする）を目指した先端の試みと言えよう．一方，北九州市においては，再生可能エネルギーを生産し効率的に利用するまちづくりに加えて，都市インフラの海外展開を含めた再生可能エネルギーをベースに幅広い環境ビジネスを展開していて，その多くがエコタウンの中核事業として集積されている．エコタウン事業は，公害問題を克服した北九州市が，廃棄物をさらに他の産業分野の原料として活用できるような資源循環型の社会の構築を目指した取組みであり，その中心が，北九州市北西部の若松区にある総合環境コンビナートである．さらに北九州市は，公害問題の解決を契機に環境技術を発展させ，環境産業の拠点づくりを目指す一方で，ごみを出さない資源循環の仕組みづくりを行い，市民を巻き込んだ環境行政を築き上げてきた．また，この環境に関わる知識と経験を次世代に伝えるために，環境ミュージアムなどのエコスポットを巡る環境学習コースを設置し，人材育成も行っている．下川町と北九州市では，自治体の規模も産業構造も大きく異なるが，「ゼロ・エミッション」の理念のもと，再生可能エネルギーに関して最先端の試みを行っていることでは同様である．再生可能エネルギーの売電に留まっている他の自治体のエネルギー政策とは全く異なっていることは，調査から明らかになった大きな点である．

◆研究者

小内　純子

◆研究課題名

被災地および避難先における女性グループの活動とその意義についての実証的研究

◆研究課題番号

SGU-AS15-192004-06

◆研究成果の概要

本研究では，避難先と被災地の両方における女性グループの活動を調査対象とし，それぞれの場所で女性（母親）たちがどのような活動を展開しているのか，その実態と意義を明らかにすることを目指した．

まず，避難先に関しては，札幌市への避難者自助組織“チーム☆OK”と“みちのく会”に関して参与観察を続けるとともに避難者の母親に対するインタビューを実施した．震災後4年以上が経過するなかで，彼女たちが帰還圧力や世間の関心の希薄化で孤立感を深めており，住宅問題，経済的問題，教育問題，夫婦間の問題等，多様な問題に直面していることが明らかとなった．また，5年目を迎えるにあたり，住宅支援の打ち切りが決定するなど，国や被災県の方針が転換する中で，その問題への対応の仕方をめぐりグループ内に対立が生じ，それぞれの団体が新しい方針を打ち出し活動を継続することになった．この方針転換をどのように分析・評価していくかが今後の大きな研究課題である．

一方，被災地で活動する女性グループの活動については，「3.11受入全国協議会」という全国の支援団体に協力する「送り出しチーム」に参加する団体を対象に調査を進めた．「3.11受入全国協議会」とは，全国で被災者の保養を受け入れる全国組織であるが，そこが年3回，福島で開催する相談会の現地受入スタッフとして協力するのが「送り出しチーム」である．様々な理由で福島に留まった人たちや一時避難後に帰還した母親たちであるが，「福島は大丈夫」というキャンペーンが強まるなかで運動を続ける困難な状況が明らかとなった．また，5年を経過する中で「保養」を必要とする家族も変化しており，活動の転換を迫られている状況にある．今後は，「3.11受入全国協議会」の活動に参加しつつ，引き続き現地の状況を把握・分析していく予定である．

最終的には，避難先と被災地の母親たちの活動が共振する部分を明らかにすることを目指したい．

◆研究者

小池　英勝

◆研究課題名

計算機リソースの効率的な活用に関する研究

◆研究課題番号

SGU-AS15-198023-07

◆研究成果の概要

巡回セールスマン問題に代表される組み合わせ最適化問題は，NP困難な問題クラスに属することが知られている．流通の混雑問題など我々の生活に大きく影響する未解決の問題の多くがこの問題クラスに属し，実用的な規模の問題の解が現実的な時間で得られないことがしばしば起こる．申請者がこれまで上記のような問題に取り組み，実際にプログラムを開発しながら実験を行う過程で，問題を解くための効率的なアルゴリズムの開発の重要性に加え，そのアルゴリズムに従い動作するプログラ

ムをいかに効率的に記述するかが重要であることを実感した．プログラムの効率は，計算機のリソースの活用の仕方に大きく依存する．現状の計算機の効率化技術はCPUのマルチコア化と，高度化した3Dグラフィックス用の機能を一般的な計算に用いるGPGPU（General Purpose Graphics Processing Unit）による並列処理に大別される．平成27年度は，Maxwellアーキテクチャの GPGPUを導入し，それを用いた並列計算のためのプログラミング技術を研究した．その結果，このGPGPUを用いることによりDynamic Parallelismに代表される柔軟な並列処理の実現が可能で，申請者が2013年度から取り組んでいるNP困難問題にも適用できる見通しが立った．GPUとCPUのスペックを考慮すると理論的に約10倍から20倍の性能改善が見込めた．しかし，上記のGPGPUでは，CPU，GPGPU，そして主記憶装置の3つの装置間のデータ転送速度に制限があるため，高速な並列計算は行えてもデータ通信がボトルネックになり，結果的に全体の処理速度は期待したよりも改善しなかった．平成28年度には，この問題を解決する技術が適用された製品がリリースされるため，これを用いて並列計算を行うことにより，大きく効率を改善出来る可能性が高まった．平成27年度の研究成果を用いて次世代GPGPUを効率的に活用するための準備を行い，次年度には説得力ある実験結果を得ることを目標としたい．

◆研究者

土居　直史

◆研究課題名

航空産業における公租公課の定量分析

◆研究課題番号

SGU-BS15-212004-01

◆研究成果の概要

航空産業では，着陸料や燃料税など多様な公租公課が課されている．それらは運賃や便数等へ影響を与えるため，あらゆる航空政策課題と関連すると考えられる．しかし，その料金体系は複雑であり，影響の実態については不明な点が多い．本研究では，公租公課による運賃等への影響を定量的に明らかにし，どのような料金体系が効率的であるかを考察することを目指す．

当該年度には，以下を行った．第1に，データセットを拡張した．各路線で利用されている機材の情報を時刻表から得た．このような費用面の情報は構造モデルを正しく推定するために役立つため，入手し，データセットに接合した．第2に，拡張したデータセットを基に，路線別･航空会社別の需要と供給の構造モデルを推定した．第3に，推定した構造モデルを用いて，公租公課による運賃やフライト頻度（1日の便数）への影響を推定した．今年度は，特に，課金対象の違いによる影響の差異に注目した．主な公租公課は，旅客毎に課されるもの（旅客施設利用料など）とフライト毎に課されるもの（着陸料など）に分かれる．それらの影響の違いを定量的に分析した．

本年度の分析から得られた主な結果は以下のとおりである．まず，旅客毎に課される料金は，運賃を上昇させ，フライト頻度を減少させると推計された．一方，フライト毎に課される料金は，フライト頻度を減少させるものの，運賃に対しては有意な影響を与えないことが明らかにされた．また，運賃やフライト頻度を固定して空港使用料変更による空港収入への影響を推計した場合，その影響を過大推計することも明らかになった．

以上について，当該年度中に経済学部研究会における報告を行い，参加者から有意義なコメントを得た．次年度以降に，それらを基に分析を深め，その成果を順次本学紀要（経済論集）や国際学術専門誌等で発表することを目指している．

◆研究者

小出　良幸

◆研究課題名

層状チャートの成層構造の成因と記録されている地質情報についての考察

◆研究課題番号

SGU-BS15-202005-03

◆研究成果の概要

申請者は，地層に過去の時間がどのように記録されているのかをテーマに，最初は典型的な地層としてタービダイトを解析し（小出，2014），特異だが顕生代を特徴づける地層として層状チャート（小出，2015）を対象として検討してきた．

チャートは，海洋の珪質殻をもった微生物の死骸が深海底に堆積して形成されたと考えられている．微生物の生産が長期間停止し，その間少量の陸源物質が堆積して境界層となることによって，層状チャートが形成されると，従来から考えられてきた（大量絶滅によるハイエイタス説）．だが，層状チャートには，タービダイト様の堆積構造がみられたり，境界部に微小な隕石由来物質が大量に見出されたり，無生物起源（生物誕生以前の層状チャートの存在），深海底を移動して再堆積，などいくつもの成因が唱えられ，それぞれに根拠が示されており，決着をみていない．

申請者はこれまで，地層に保存されている時間の記録様式について，層状チャートは従来の考え（ハイエイタスという大量絶滅説）で議論を進めてきた．しかし，成因によって層状チャートの時間記録の様式が大きく変わることが予想された．他の層状チャートの成因では，どのような時間の記録様式なるかを十分検討していく必要があることが判明してきた．

本研究費では，層状チャートの成因説を整理するため

に，野外調査を中心におこなってきた．まずは大分県に分布する秩父帯（ジュラ紀）の層状チャート（隕石衝突による大量絶滅）を調べ，高知県に分布するより新しい四万十層群（白亜紀前期）中のもの（従来の定説であるハイエイタス説）を比較して調べ，野外での詳細な産状解析，岩相分析による検証をおこなった．その結果，陸上の層状チャートと深海底堆積物との成因関係にはいくつかの整理するべき課題があることをまとめることができた（小出，2016）．

◆研究者

佐野　友泰

◆研究課題名

コラージュ作品の国際比較 ── 留学生支援のための基礎資料構築 ──

◆研究課題番号

SGU-BS15-204006-04

◆研究成果の概要

本研究では，増加する学外国人留学生の精神的問題に対応するため，彼らの内面へのアプローチとして，またコミュニケーションの媒介として重要な役割を果たすと考えられるコラージュ療法に着目した．

留学生の心理的支援のためにコラージュ療法を適応するためには，各国の学生における特徴的な表現傾向を把握する必要がある．そこで本研究では，主としてアジア圏の学生のコラージュ作品を収集し，国別・宗教別・文化別の特徴的な表現傾向を捉えることを目的とした．本目的のため，本研究ではフィリピン・モンゴルにおける学生のコラージュ作品を収集・分析した．

2015 年度には，東フィリピン大学・モンゴル人文大学にて各 35 のデータを収集することができた．これにより，本研究テーマについては，日本・タイ・インドネシア・マレーシア・フィリピン・モンゴルという 6 カ国のデータを得たこととなる．

これらのデータを分析した結果，①マレーシア群は日本群，タイ群，インドネシア群，フィリピン群に比して，「自然風景に関する切抜き」の割合が低いこと，②インドネシア群は他の 5 群すべてに比して，「文字に関する切抜き」の割合が高いこと，③マレーシア群とインドネシア群は日本群，タイ群，モンゴル群，フィリピン群に比して「アクセサリーに関する切抜き」の割合が高い，ということが明らかとなった．今後，東ティモール・カンボジア等のデータを加え，宗教・気候別の相違についても探求したい．

◆研究者

大塚　宜明，鶴丸　俊明

◆研究課題名

黒耀石原産地推定分析に着目した先史時代の資源利用に関する研究 ── 北海道東部を対象に ──

◆研究課題番号

SGU-BG15-210160-02

◆研究成果の概要

本研究の目的は，北海道東部を対象に黒耀石製資料の原産地推定分析を実施し，先史時代における資源の利用を考察するための基礎情報を整備することである．道東部の置戸黒耀石原産地と，消費地にあたる常呂川流域を対象に上記課題に取り組んだ．

原産地を対象とする研究では，調査未了箇所を残すものの，置戸黒耀石原産地を構成する所山・置戸山における黒耀石の分布範囲と特徴を明らかにすることができた．加えて，人類活動については，所山で採集されたと考えられる置戸後藤資料と，申請者らが新たに発見した置戸山に位置する置戸山 2 遺跡の分析を実施し，それぞれの黒耀石原産地の人類の利用を具体的に明らかにした（2016『北海道考古学』52 輯，2016『石器文化研究』21 号）．

消費地の研究では，本学が所蔵する水口遺跡，北上台地遺跡の原産地推定分析を実施し，常呂川流域遺跡群における黒耀石原産地分析事例を追加することができた．これらの成果は，考古学的な分析を加え，2016 年度中に学会誌に投稿予定である．

上記したように，本研究により，原産地の黒耀石資源情報および人類活動，消費地での黒耀石の利用を明らかにすることができた．今後は，これらの研究成果を発展的に統合することで，原産地の開発の様相と消費地の状況を一体的に捉え，置戸産黒耀石を観点とした先史時代における資源利用を解明していく．

◆研究者

北田　雅子

◆研究課題名

ヘルスリテラシー向上のための効果的な介入プログラムの検討

◆研究課題番号

SGU-CS15-204008-01

◆研究成果の概要

多くの国民が慢性疾患を予防し健康寿命を延伸するためには，健康行動を獲得することが必要である．その健康行動の獲得のためには，ヘルスリテラシーの向上が欠かせない．しかし，その能力の獲得には，情報を受け取る側の情報処理能力の向上と合わせて，情報を提供する側（専門職および対人援助職）のコミュニケーションスキル（ヘルスコミュニケーション）の改善が必要不可欠である．そこで本研究では，専門職のヘルスコミュニケーションの土台となる面談スキルの向上のために，動機づけ面接法（以下 MI）という面談スタイルを取り入れた．この面談スタイルは，ワークショップ参加者にト

レーニングプログラムとして提供した．継続指導を希望する 12 名を対象に，個別に面談指導を行った上で，各自の面談を録音してもらい，治療者およびクライアントの言語行動を分析した．MI スタイル前後（2016 年 2 月と 10 月）のクライアントの言語行動を分析するために，「動機づけ面接治療整合性尺度」という尺度で面談を評価した．その結果，10 月に録音した MI による面談後の方が，クライアントからより行動変容に向かう言語が多く抽出された．さらに，9 月に総合ワークショップへの参加者（約 130 名）へ質問紙調査を行った．その結果，MI スタイルで面談している治療者の方が，他のスタイルで面談している治療者よりも面談負担度が低いとともに，面談への充実感を持っており，さらに面談が効率的に行われている，という感想を持つものが多かった．

研究所員　研究活動報告

研究報告および個人研究費の執行概要等

【学長】

鶴 丸 俊 明

◆研究報告

Ⅰ．黒曜石打割実験

黒曜石の力学的特性を観察するための打割実験は4年目を迎えた．内容は手動による直接打撃と間接打撃による剥片をそれぞれ1000点作出して形状と計測値を記録する実験であり，それによって先史時代，特に旧石器時代における剥片剥離技術の成立過程にアプローチしようとする試みである．今年度の実験により剥片の作出を直接打撃で65%，間接打撃で47%に伸ばした．昨年度の53%，36%からの微増であるが，この実験が天然ガラスである黒曜石の飛散を伴うことから，場所が限定され（網走市の持家），年間で数日しか実施できないためである．なんとかして，次のステップである，油圧式剥片剥離機械を利用しての実験へと，進めるために努力したい．

Ⅱ．日本列島における細石刃技術の研究

ライフワークでもある標記のテーマについては，特に考古学発掘実習でお世話になっている置戸町が保管する「藤川尚位コレクション」と称される膨大な考古学資料の整理・分析・記載の継続を中心に行った．その中の「置戸町文化財」に指定された126点の図録刊行の準備がほぼ出来上がり，現在校正を実施している段階である．

Ⅲ．「小さな博物館のたくさんある街」創り構想

札幌学院大学と連携協定を締結している置戸町の「郷土資料館」再生の相談を受けたことをきっかけに，昨年秋，表題の構想を置戸町に提出して，町長・副町長および教育長に説明をした．内容は，郷土資料館をリニューアルして核とし，工業デザイナー秋岡芳夫が寄贈した「秋吉コレクション」を大工道具館，町民である佐藤健一氏の所有するボンネットバス，オートバイのコレクションを「佐藤乗り物館」，同じく町民の前田氏の黒曜石ナイフの作品集を「前田石製ナイフコレクション館」として博物館化し，それに現存の「ぽっぽの美術館」，「お金の博物館」，「森林工芸館」を整備して加え，さらに子供向けに「えぞシマリス交流館」を新設するというものである．小さいけれど8つの博物館を用意して，半日から1日かけてのんびりと巡回・観覧できる博物館の街をつくろうとする計画である．28年度夏～秋には地元で，ワークショップを開催する予定である．

◆個人研究費の執行概要

〈旅費〉

実験・試料採取旅費　6.32万円

博物館見学・巡検旅費　6.59万円

研究会旅費　5.55万円

〈謝金〉

藤川コレクション図版作成　10万円

〈学会費〉

日本考古学協会　1.0万円

〈備品〉

デスクトップPC　5.94万円

〈ライセンス費・PCソフト費〉

Office Professional等　5.96万円

〈他文具等〉

◆社会的貢献

2015年7月～2020年6月　公益財団法人　北海道埋蔵文化財センター評議員

【経営学部】

赤 羽 幸 雄

◆研究報告

・中小企業におけるIT利活用による経営革新
・自治体におけるIT利活用による地域振興

◆個人研究費の執行概要

消耗品／コピーカード　4,530
消耗品／キャノン　インクカートリッジ　5,810
プロジェクトマネジメント学会　2015年度会費　8,000

◆社会的貢献

・総務省　電子政府推進員（任期：2013年～）
・独立行政法人中小企業基盤整備機構　CIO育成支援アドバイザー（任期：2014年～2015年度）
・北海道プライバシーマーク付与適格性審査会　委員（任期：2014年～2016年度）
・特定非営利活動法人ITコーディネータ協会　理事（任期：2014年～2017年度）
・戦略経営ネットワーク協同組合　理事長（任期：2003年～）
・北海道ITコーディネータ協議会　相談役（任期：2014年～）
・札幌市IT利活用補助金審査会　委員長（任期：2013年～）
・札幌市ITビジネス創造アドバイザー（任期：2013年～）

石 垣　　巧

◆研究報告

・2015年4月1日，日本商工会議所は「日商簿記検定の試験範囲の変更」について発表した．これを受け今年度の受験生への対応を含め，27年度から30年度までの取扱いについて，資料収集，情報交換，研究の必要性が生じた．その結果，おおよそ年次ごとの対応策を概観するにいたった．
・上記の変化に対応し，すべての講義内容の見直しを行うとともに，教材の改訂を行った．

◆個人研究費の執行概要

日商簿記検定の試験範囲の変更についての発表を受け，急遽，資料収集，研究，教材の改訂等に執行した．

石 川 千 温

◆研究報告

今年度はFD関係，特にアクティブラーニングに関する学会への参加，研究会での実践報告がメインとなった．6月には定例のe-Learningのクラウドサービスを提供するTIESの理事会およびシンポジウムに参加し，国内におけるJMOOC（Japan Massive Open Online Courses）の動向を調査した．3月にもTIESの理事会に参加した．また，8月に北海道・東北地区大学共通教育学会へ参加し，グループ学習で有用なジグソー法についての知見を得，後期の授業から実践し一定の効果があった．その効果検証は次年度学内もしくは学外の学会等で発表する予定である．また12月には大学ICT推進協議会（名古屋）に参加し，他大学のICT教育の現状，新たな取組について知見を得た．合わせて名古屋学院大学のFDの現状，とくにルーブリック評価の導入のノウハウについて示唆を受けた．12月にはさらに小樽商科大学のアクティブラーニングの取組（スマホを活用したクリッカーrespon）の授業見学を行った．それ以外には，FDに関する講演依頼に応じ，10月に関西地区私立大学のキャンパスシステム研究会第6分科会の基調講演において，「クラウド時代のアクティブラーニング―アクティブラーニングにICTは役に立つか―」，および，12月に金沢大学第5回機械工学類FD研究会において，「理工系座学におけるアクティブラーニング導入について」，さらには3月に広島大学「大学等におけるクラウドサービス利用シンポジウム2016」にて，「大学のクラウドサービス利用の問題点（仮称）」の3件の講演を行った．これら講演を通じて，関係者および参加者から他大学のアクティブラーニングの状況，施設設備の状況を詳しく知ることができ，今後の本学の適用について検討する予定である．

◆個人研究費の執行概要

今年度は，研究費の大半を学会等の出張旅費に使用した．それ以外には，研究維持のためのプリンタインク，ドラムカートリッジなどの消耗品の購入，古くなったネットワーク機器の更新，パソコンディスプレイの更新，および学会参加費である．

◆社会的貢献

NPO法人CCC-TIES理事

碓 井 和 弘

◆研究報告

1．札幌学院大学総合研究所シンポジウム「マーケティングと行動経済学のコラボレーション」において，講演「マーケティング研究と行動観察」を行い，報告書であるブックレット（No.8）にその内容が掲載された．
2．「小売業界における革新的経営者のマーケティング発想と経営戦略」をテーマに，文献研究を継続している．具体的には，プライベート・ブランドでの広報戦略について研究を進めてきた．
3．マーケティングにおける脳科学の活用について文献収集を継続しながら，研究ノートを作成してきた．こ

の研究成果は,「札幌学院大学教員免許状更新講習」での講習「社会で生きていくためのマーケティング力」において活用された.

◆個人研究費の執行概要

個人研究費の主な使途は，学会年会費，日本商業教育学会全国大会の出張旅費，マーケティングに関連する書籍の購入，PC の消耗品（主としてプリンタのトナー）である.

◆社会的貢献

札幌学院大学教員免許状更新講習『社会に出てから必要とされるマーケティング力』, 平成 27 年 8 月 1 日開催.

河 西 邦 人

◆研究報告

2012 年度より続けて行っている社会起業の調査を引き続き行った．しかし，校務との関係で十分に時間を取れず，聞き取り調査へ行った事業者数が 2 事業者と計画を下回った．こうした研究成果を札幌市経済局と本学地域社会マネジメント研究科が共催する「さっぽろソーシャルビジネス・スクール」の講座や日本政策金融公庫のセミナーで報告した.

◆個人研究費の執行概要

おおよその内訳は所属する 4 学会の年会費 4.4 万円，日経ビジネス 2.3 万円，ダイヤモンドハーバードビジネス 2.1 万円，日経エンタテイメント 5,400 円，日本経済新聞購読料 3.7 万円といった経常的に発生する費用約 13 万円を支出している.

1 の研究報告で必要とした調査謝金と調査のため 1.6 万円を研究費から支出をしている．また，調査と研究に関わるパソコンを更新するため，パソコン 19 万円，ハードディスク 1.7 万円，PC ソフト 2 万円，タブレット端末 7.1 万円の支出をしている.

◆社会的貢献

北海道公益認定等審議会会長（任期：2014 年度～2015 年度）

北海道道州制特区提案検討委員会委員長（任期：2015 年 11 月～2017 年 11 月）

浦河町創生推進会議座長（任期：2015 年 10 月～2017 年 3 月）

北広島市商工業新興審議会会長（任期：2016 年 1 月～2018 年 1 月）

特定非営利活動法人北海道 NPO バンク理事長（任期：2015 年 8 月～2017 年 7 月）

北 林 雅 志

◆研究報告

19 世紀後半に広く機能したロンドン金融市場を中心とするポンド体制が，第 1 次世界大戦期から両大戦間期にかけて国際通貨，国際金融の分野で大きな変容を見せる．今年度の研究の課題は，この時期における決済通貨および準備通貨のあり方を，イギリス国際銀行の活動を通してその実態を明らかにすることである．とりわけ史料が豊富に残されているチャータード銀行を取り上げ，そのロンドン本店をはじめとするニューヨーク支店，アジア各支店の計算書類の分析を中心に研究を行っている.

◆個人研究費の執行概要

上記研究テーマにかかわる文献史料の購入，および学会報告の旅費など.

兒 玉 敏 一

◆研究報告

今年度は,「持続可能な動物園改革」というテーマで研究活動を行ってきたこれまでの資料，訪問先の動物園・水族館のデータ・写真・動画を整理するとともに論文執筆に専念した.

◆個人研究費の執行概要

個人研究費の主な使途は学会出張費，学会費，PC ソフト購入費，画像および動画収録用の大容量記憶媒体，コピーカードである.

坂 口 勝 幸

◆研究報告

今年度は，昨年からの引き続きで「簿記会計の基礎基本を踏まえた会計記録の活用」をテーマとして，2 つの視点で取り組んだ．1 点目は，基礎基本の定着におおける資格取得について，次年度以降の日本商工会議所主催簿記検定 2 級における大幅な範囲改定について研究を行い，実務で求められている能力の理解とオリジナル教材の作成に取り組んだ．2 点目は，農業簿記について取り組み，農業問題の理解と農業における原価意識の重要性の理解に努め，学生の指導においては，農業簿記検定を初めて取り入れた.

◆個人研究費の執行概要

個人研究費の主な使途は，PC 周辺機器（プリンタ）や付随消耗品購入，簿記会計に関する書籍の購入，学会出張費や日本商工会議所主催のセミナーへの参加費用とした.

佐 々 木 冠

◆研究報告

2015 年度は，日本語方言における自動詞化に関する調査と方言による昔話の録音と公開の準備のための作業を

中心に研究活動を行った．自動詞化に関する研究では自ら代表となり科研費を新たに獲得し，本学の研究室にインターネット上の語形収集のためのサーバを設置した．日本語文法学会のチューリアルで講演を依頼されこの研究に関する解説を行った．昔話の録音に関しては，本学の研究奨励金を獲得し，千葉県南房総市で録音を行った．年度内に8つの物語の録音を終え，2016年度には公開できる見込みである．

2015年度の後半から日本言語学会の大会運営委員長を務めることになったため，後半は調査に時間をあまり割くことができなかった．大会運営委員長としての仕事は2016年12月で終わる予定である．

◆個人研究費の執行概要

個人研究費は主に学会出張，学会費，文房具で使った．

◆社会的貢献

2016年1月21日，札幌市厚別区青葉町の白樺町内会福祉部が主催した「ふれあいいきいきサロン」で「『北海道の方言』の特性を探る」と題する講演を行った．

邵　藍蘭

◆研究報告

今年は主に，近年関心を持っている昭和初期における日中の会計交渉について，その資料の収集と文献の解読に当たっている．とりわけ有本邦造（大正2年山口高等商業学校卒業）という人物について，1927年から1933年まで簿記・会計の教授として民国時の上海に滞在した頃の研究活動を解明することと，氏が日本の『会計』誌に投稿した数多くの中国会計に関する論文を検討すること．

◆個人研究費の執行概要

資料収集やワークショップ参加などの旅費，関連図書の購入，消耗品の購入，等々．

杉本　修

◆研究報告

今年度は，昨年度に引き続き，沖縄の商業に関する文献，論文，統計，調査報告書の収集を行った．

◆個人研究費の執行概要

若干の消耗品（印刷用紙，USBメモリーなど）を購入した以外は，国立国会図書館での資料検索・複写のための旅費に充てた．

◆社会的貢献

江別市都市計画審議会の委員として，審議会に出席，大型店出店に関わる審議事項について，意見を表明した．

髙木　清

◆研究報告

昨年度に続き「持続的発展可能性を持つ経営」をテーマに，沖縄（主に奥部落），東京墨田区の事業所において，これとかかわる要素にいかなるものがあるのかを主に聞取り調査によって調査研究を行った．2015年6月に「共同店と『新しい共同体』を求める動き」を『労働総研ニュース』No.303に寄稿した．16年2月に沖縄県与那国の比川集落の地域共同店が2011年に新設された経緯や経営の実情などについて，その後奥の共同店ならびに奥部落のシマおこしとして取り組まれている事業＝農業と観光の融合の事業の進捗状況などについて調査を行った．また，国頭村役場村史編集室で新版『村史』を本学図書館に寄贈されるようにお願いをした．同様に2015年7月と16年3月に墨田区の企業での自前技術，工芸品づくりのコラボレーションおよび技術的継承などについて，調査を行った．16年度においてもこうしたテーマで調査研究を行う予定である．

◆個人研究費の執行概要

個人研究費の主な使途の過半は，上記調査研究の旅費などに使用した．また，レコーダーなど研究教育用機材，消耗品，学会年会費および研究資料の購入に研究費を使用した．

玉山和夫

◆研究報告

1．貨幣らしさを「測定」する方法論の一つを発見した．日次の価格変動率のうち2σ以上の動きが，価格変動の趨勢を決定するものは，より貨幣に近く，日次変動率のうち1σ未満の動きが趨勢を決定するものは，貨幣らしさからは遠い．

2．日本企業は過剰な資本調達を行っている．そのため投資家の資金は株価を押し上げる前に，この増資または新規発行に吸収されてしまっている．こうしたことの背景には，日本社会が安心を求める傾向があげられる．企業はリスクをとるよりも既存の事業を存続させることに専念し設備は廃棄されるのではなく，更新・拡張されてきた．しかもこの安心社会は戦後70年変化していない．日本の資本市場は日本人株主に安心を提供してきたわけだが，海外の投資家が市場の主役となったからには，彼らの信頼を勝ち得るべく，リスクをとる企業のみが資本市場で評価されることになろう．

◆個人研究費の執行概要

今年は，予定外にパソコンの不具合があり，新規にこれを購入することとなった．その費用と学会参加費が今年の研究費執行額の太宗を占める．

津 田 雅 彰

◆研究報告

次の２つのテーマで研究を進めている．

◎　高校教育におけるキャリア教育の現状と課題について

高校教育におけるキャリア教育の現状と今後の在り方について資料を収集しながら研究を進めている．

◎　高等学校における商業教育の方向について

高等学校の商業教育の現状と今後の在り方について資料を収集しながら研究を進めている．

◆個人研究費の執行概要

日本商業教育学会への出張旅費（千葉，東京の２回）及び必要な資料や消耗品等の購入に使用した．

長 岡　　正

◆研究報告

荷主企業の物流費について理論的および実証的な研究を行った．

◆個人研究費の執行概要

学会参加費（旅費）や学会年会費に使用した．

原　　晴 生

◆研究報告

本年度は，特に東芝問題を始め企業不祥事についてと近年話題となっている統合報告，とりわけ「統合報告に関する保証」についての研究であった．東芝問題はまだ完全には終了してはいないため今後の課題としたい．また統合報告に関しては，次年度より日本会計研究学会スタディーグループ報告のメンバーとなり，約３年間の事業として「統合報告に関する保証」を担当することとなった．

◆個人研究費の執行概要

個人研究費の主な使途は，学会，研究会出席の旅費と年会費，書籍，PC 関係の消耗品（プリンター用紙，インクなど）．

三 好　　元

◆研究報告

⑴　60～70 年代の韓国と台湾における中小企業金融政策と中小企業の地位の変化を考察し，中小企業金融政策（政府の役割）の評価の国際比較研究を行っている．

⑵　経営環境が厳しい協同組織金融機関の今後の方向性について，特徴ある経営を行っている協同組織金融機関の調査および外国の事例をもとに，研究を行っている（委託研究）．

◆個人研究費の執行概要

個人研究費の主な使途は，洋図書，ソフトウェア，学会年会費（４件），学会出張旅費，研究出張費（信用組合およびその振興先など）である．

山 本　　純

◆研究報告

昨年からの継続課題であった今日の交通・物流問題と社会との関連についての考察を引き続き行ったが，「買い物難民」問題に加えて，ローカル地域におけるコミュニティ・バス輸送の問題について検討した．これらの課題について，これまで検討してきた自身の理論展開としての「交通と社会」研究に加え，今後は別な観点での理論基盤として「新しい公共」概念の検討も進める必要がある．行政の対応や市民参加また NPO の進出などローカル地域においても多様な形で「新しい公共」が地域社会で展開されている．その実証研究の一つとして，買い物難民対策における道内複数地域の実態調査を行い比較研究する予定であったが，諸般の事情により実施に至らなかった．2016 年度，改めて実施したいと考えている．

継続して行っている地域連携によるプロジェクト型実践教育の開発研究，また実践は一定の成果を見ることができた．CBL（コミュニティ・ベースド・ラーニング）という概念に基づき，コミュニティとより深い連携教育を模索した．新冠，厚田，浜益，白石（札幌），大麻（江別）の５地域との連携事業を実施し，その教育手法の意義と教育効果について検討した．また，その基盤として今日の大学教育をめぐる高等教育論，教育学との関連についての検討も行った．一定のとりまとめを社会情報学部 2015 年度シンポジウム（SGU 調査計科目の現状と課題）にて報告した．

◆個人研究費の執行概要

社会科学系図書の購入．第 21 回 FD フォーラム（大学コンソーシアム京都主催）への出席などの旅費．地域貢献プロジェクトのためのビデオ撮影機材，ソフト，その他 PC 関連消耗品費，雑誌購読費，フォーラム参加費など．予定していた買い物難民に関する実態調査が諸般の事情で実施できなかったので，予定していた調査旅費分は未執行となった．

吉 川 哲 生

◆研究報告

アメリカの為替政策の研究を行っている．FRB や財務省為替安定基金（ESF）による金融政策，為替政策の歴史分析が中心である．近年は，主要中央銀行による金融緩和が大規模に行われており，これによる為替への影響が大きく，各国の金融政策，金融操作の分析も必要と

なる．また，日本経済のほか，アメリカ経済，欧州経済，中国など新興国経済の為替への影響も注視しなければならない．さらに，日本では財政赤字やアベノミクスによる金融緩和などの問題もある．

◆個人研究費の執行概要

研究図書の購入，PC 購入，日本金融学会参加への旅費，日本金融学会費により執行した．

渡 邊 愼 哉

◆研究報告

今年度は江別市からの受託研究を実施した．また，農業の総合的 IT 化をテーマとして企業や道内の農家と合同で打合せをおこない，特に農業エキスパートシステムの実現にむけて研究を継続中である．

◆個人研究費の執行概要

個人研究費の主な使途は，フィールド用ノート PC の購入，フィールド用小型ビデオカメラの購入，学会年会費，調査出張旅費，office365 のライセンス料，その他消耗品である．

◆社会的貢献

江別経済ネットワーク　副代表理事，任期：不定．

【経済学部】

浅 川 雅 己

◆研究報告

15 年度は，まず，マルクスの理論形成過程（資本グローバリゼーションに関する理論，物象化に関する理論）に関する研究の一環として，書評を 2 本執筆した．並行して，活性化事業によるシンポジウムに向けて再生可能エネルギーを核とした地域づくりについての研究を行った．また，学会報告のために，資本主義の歴史的性格について研究を行った．

◆個人研究費の執行概要

個人研究費の主な使途は，図書費，学会出張旅費である．

井 上　　仁

◆研究報告

1，研究促進奨励金の採択課題である「国内銀行の貸出姿勢に関する実証分析：「追い貸し」か「貸し渋り」か」について研究を行った．国内上場企業の借入先別借入残高データと銀行および企業の財務データをマッチさせた貸出レベルデータを使用して，1990 年代後半以降の国内銀行の貸出姿勢に関する実証分析を行った．その結果は学内外の研究会および学会で報告し，学術研究雑誌に投稿中である．

2，昨年に引き続き，円ドルの名目為替レートの決定要因について，3 つの仮説の妥当性を実証的に検証した．3 つの仮説とはすなわち，購買力平価仮説，カバーなし金利平価仮説，経常収支仮説である．1985 年から直近までの月次データおよび四半期データを用いて実証分析を行い，3 つの仮説を検証した上で，名目為替レートと金融政策および実体経済との関係を考察した．その結果は大阪大学大学院経済学研究科のディスカッションペーパーで公表し，学術研究雑誌に投稿中である．

3，内閣府経済社会総合研究所からの受託研究である「経済の好循環と日本経済再生に向けた国際共同研究」について研究を行った．2000 年以後の日本において採用されてきた量的緩和金融政策が銀行の資産選択に与えた効果を，銀行財務パネルデータを用いて実証的に検証した．2001 年から 2006 年までは量的緩和政策が採られた．2010 年から 2013 年までは包括的金融緩和政策が採られた．2013 年以降は量的・質的金融緩和政策が採られている．以上の各期間について，銀行の貸出行動を詳細に分析した．その結果は内閣府の報告会で報告され，大阪府立大学経済学研究科のディス

カッションペーパーで公表された.

4，非線形回帰モデルにおける説明変数の交差項係数推定値を解釈する際に生じる問題について研究を行った．具体的には，非線形回帰モデルであるランダム効果パネルプロビットモデルにおける説明変数の交差項係数の解釈について，先行研究の問題を指摘した上で正しい解釈方法を提案した．非線形回帰モデルの交差項係数推定値は，値そのものが説明変数の被説明変数に対する限界効果を意味しない．推定結果を正しく解釈するためには正しい限界効果を推定する必要があり，その方法を提示した．その結果は次年度の学会で報告する予定である.

◆個人研究費の執行概要

個人研究費の主な使途は，ノート PC 購入費，学会発表と研究打ち合わせのための旅費，日本経済新聞電子版購読料である.

大 場 隆 広

◆研究報告

今年度は，「戦後復興期から高度成長期にかけての養成工の労働組合への影響」というテーマを中心に研究活動を行った.

まず，トヨタ自動車・日立製作所の企業内学校，養成工，労働組合についての資料及びデータ収集に努め，「養成工が労働組合にどのように関わり，どのような活動をしたのか」を検討した．今後は，明らかとなった知見を，口頭発表や論文発表の形で研究成果を公表する予定である.

◆個人研究費の執行概要

個人研究費の主な使途は，書籍代，消耗品（プリンターインク，用紙，ボールペンなど），セキュリティソフトウェアなどである.

鏡 味 秋 平

◆研究報告

中国の「一帯・一路（One Belt One Road Plan）」新シルクロード経済圏構想について，経済部会研究会で報告しました.

今年度は体調不良のため調査に行くことができませんでした．2016 年度は，新シルクロード構想が，所得格差の縮小にどのように貢献しているか調査してみたい.

◆個人研究費の執行概要

図書と消耗品及び研究上必要な中国語の修得のための教材に使用しました．今年度は調査を予定していた旅費の分が未執行になりました.

片 山 一 義

◆研究報告

研究テーマ　戦前期北海道・樺太労働史研究，及び 19 世紀末～20 世紀初頭における在米日本人労働史

以下の 3 点で研究を進めた.

1．戦前期日本における労務供給請負事業に関する研究.

特に，戦前期小樽港にのみに実在した特殊な港湾労働者である「木材積取人夫」を対象とし，艀業者と積取下宿屋を中心とした請負業者の階層構造，人夫供給と労務請負システムの内実，朝鮮人労働者の調達システムとの関連，他産業との制度の違い等について資料を蒐集しつつ分析を進めた.

2．樺太労働史研究

樺太の産業史（鑛山業，パルプ・木材業）に関する文献及資料の収集，また特に樺太における「タコ部屋」の実態，および戦時労働動員と朝鮮人労働者の使役の実態の解明などを進めている.

3．19 世紀末～20 世紀初頭における在米日本人労働史

この課題は，2016 年度海外留研の準備を念頭において研究している.

アメリカにおける労務供給請負制度に関連して，主として 19 世紀末から 20 世紀初頭のアメリカ鉄道と日本人移民労働者を対象に，日本人の労務供給請負制度に関する文献を蒐集し，分析を進めた.

◆個人研究費の執行概要

1．研究用機器（パソコン，プリンタ）で約 33 万円.

2．研究・授業用の新刊書籍，研究用中古図書で，約 8 万円.

3．定期雑誌，学会会費で，約 4 万円.

久保田義弘

◆研究報告

(1)　マクロ経済（学）の研究

生産物市場と金融市場（あるいは貨幣市場）との関係を，生産物市場の不完全を想定して研究を進めている．2015 年度には，貨幣市場における貨幣数量の増加と市場利子率の関係，日本経済の 2000 年代はじめの金融市場や労働市場の現状をデータ等で調べた.

2016 年度には，生産物市場が不完全競争下にあるマクロ経済における金融（金融政策）の働きを分析し，不完全競争下にある生産物市場と金融（貨幣）市場から構成されるマクロモデルを想定し，貨幣数量の増加が市場利子率ならびに生産数量（GDP），さらに，労働市場も加えて，労働需要需要や給与・賃金水準にどの様に影響するかにつて考察を深める．マクロ経済のモデル分析を展開

する.

⑵　政府部門の活動の研究

日本政府あるいは一般に政府部門の活動の経済活動に与える効果の研究も進めている．財政債務問題の国民生活に与える影響の深刻さとその債務解消方法の探求.

また，同時に，スコットランド政府部門の活動，また中世から近代にかけてのスコットランド王国における政府部門（王財政）の活動を通じて，王制下の政府部門の活動と国民生活の関連性につても研究している.

⑶　民族，宗教，倫理観と経済活動の関連性の研究：萌芽的研究

消費者としての人間の気質（民族，宗教あるいは倫理観）についても研究の触手を広げ，効用関数あるいは生産関数の背後に潜む基礎研究に乗り出した．ギリシャ時代あるいはローマ時代の資料や作品から読み解ける人々の経済活動，フランク王国の宗教観と人々の社会・経済行動，イングランド人やスコットランド人の経済行動とその宗教性について，膨大な文献と資料に目を通すことにしている.（ただ，この道を究めるにはギリシャ語やラテン語の壁が気掛かりな点である.）

◆個人研究費の執行概要

2015 年度において，

⑴　プリンターなどの研究備品関係に支出した.

⑵「日本経済学会」や「ファイナンス学会」や「環境経済・政策学会」などの研究旅費の執行に活用した.

⑶　PC ソフト，PC トナーカートリッジ，ファイルなど備品補助への支出を行った.

⑷　雑誌「財政金融統計月報」と「金融経済統計月報」などの雑誌年講読費であった.

佐 々 木 達

◆研究報告

研究テーマと進捗状況

1．日本農業の構造変化と地域経済の再編プロセスに関する研究

今年度は，秋田県湯沢市および北海道沼田町をフィールドに農産物の生産・流通・消費に関する研究を行った．本研究の成果は，次年度の経済論集に掲載予定である.

2．中国内モンゴルにおける農牧業の発展と自然資源の変容プロセスに関する研究

本研究は，2000 年代後半以降に展開し始めた企業や農民専業合作社による農畜業生産の組織化・集約化が農業的環境利用にもたらすインパクトに注目している．本研究の成果は，次年度の季刊地理学（査読誌）に掲載が決定している.

◆個人研究費の執行概要

以下を個人研究費，科研費分担金，研究促進奨励金から執行した.

1．学会への参加・報告のための出張旅費

2．研究遂行上，必要な雑誌等の消耗品の購入費用

3．学会の年会費及び学会の参加費

等である.

白 石 英 才

◆研究報告

科研費プロジェクト「サハリン・アムール地域の言語地図」2 年目にあたり，昨年度に引き続きロシア極東ハバロフスク管区およびサハリン州において現地調査を行った．採録したデータは音響分析プログラム Praat により分析し，その成果を 12 月の歴史音韻論学会（エジンバラ大学，スコットランド）ほかにて発表した.

また『ニヴフ語音声資料（シュミット方言）』12 号を公刊した．ニヴフ語シュミット方言の音声資料公開はおそらく世界初であり，研究上の意義は大きい.

◆個人研究費の執行概要

『ニヴフ語音声資料（シュミット方言）』12 号の公刊に大半をあてた．また English Linguistics 投稿書評論文の英訳校正費を支出した．12 月のエジンバラ大学への出張旅費を支出したところで打ち切りになった.

◆社会的貢献

一般財団法人アイヌ民族博物館：象徴空間におけるアイヌの伝統等に係る体験交流等活動基本計画策定業務の有識者委員会委員.

高 橋 寛 人

◆研究報告

これまでに引き続き，国際資本移動と経済成長の理論研究を行った．国際資本移動が一国内の生産性や制度の質に及ぼすと考えられる影響や，長期的に一国経済が達成すると考えられる国民所得水準の国際資本移動を伴う場合とそうでない場合との比較，さらに経済成長のプロセスと資本流入・流出のパターンとの関係，といった問題について，理論的なメカニズムを検討しているところである.

◆個人研究費の執行概要

主に学会費の納入と，研究備品（ソフトウェア，周辺機器など），消耗品，研究図書の購入に充てた.

土 居 直 史

◆研究報告

今年度は，主に，航空政策や貿易政策にかかわる実証研究に取り組んだ.

航空政策に関しては，主にふたつのテーマの研究を進

めた．第1は航空会社の合併の分析であり，その結果をまとめた論文をディスカッションペーパーとして発表した．近いうちに専門誌へ投稿することを予定している．第2は着陸料等の空港使用料に係わる研究であり，必要なデータの収集，需要と供給の構造モデルの推定，それに基づくシミュレーション分析などを行った．

貿易政策に係わる研究としては，内国民待遇違反が争点となった日本の酒税に関するWTO紛争についての論文の改訂を行った．近いうちに専門誌に投稿する予定である．

◆個人研究費の執行概要

研究打ち合わせや資料収集のための旅費，学会の年会費，研究上必要な書籍代，PC周辺機器や文具等の消耗品代，英文校正費として利用した．

中 村 永 友

◆研究報告

継続した研究テーマは「統計的モデリング・情報量規準・混合分布モデルに関する研究」である．⑴特種な状況下における離散型確率分布の導出，⑵欠測データに関するモデリング，⑶混合分布モデルにおける推測，について研究をした．さらに，科学研究費補助金に関する研究課題として，非正則かつ非典型的なデータに対するモデリングの研究を進めている．江別市との継続研究として，地理情報システムに関する研究も行っている．一方，本学での担当科目において収集される学習履歴データの解析を継続して進めており，授業中の指導のための基礎資料としてするために分析を進めている．

◆個人研究費の執行概要

主として次の経費を支出した．⑴学会・研究会等での報告・参加のための出張旅費，⑵学会・研究会の年会費，⑶雑誌の購入，⑷パーソナルコンピュータの周辺機器．

◆社会的貢献

平成27年度，オープンデータ利用に関する今後の展開，江別市．

応用統計学会　理事（庶務（文書担当），2014.5～2016.4）

計算機統計学会　理事・評議員（和文誌編集担当理事，2015.1～2016.12）

日本行動計量学会　大会担当委員会委員（2015.6～2016.9）

◆受賞歴

日本統計学会出版賞受賞2015年度対象図書：「Rで学ぶデータサイエンス」シリーズ，受賞者：シリーズ全20巻の編者と著者および出版社，シリーズ中第2巻「多次元データ解析法」を執筆，2009年刊．

平 澤 亨 輔

◆研究報告

現在は，三つのテーマを持って研究を行っている．一つは，都市の人口と商業の関係を明らかにする理論的な研究を行っている．現在，クリスタラーの中心地理論を考慮しながら，商業施設の立地，都市間の人口配分の問題に取り組んでいる．第二に，産業構造と都市の成長についての研究を進めており，1980年代から始まったサービス化やその後の経済変動が東京や地方中枢都市の集積，地域の人口減少にどのような影響があるかを研究している．またこれと関連して地域間の所得格差が人口移動にどのような影響があるかも資料を集め，分析を始めている団塊である．第3に，北海道の産業である農業や林業についても関心を持っている．今年度はゼミ生と北海道の農協の調査に行ったり，関連する研究者へのヒアリングを行っている．具体的な研究成果は来年度出す予定である．

◆個人研究費の執行概要

書籍類に11万円，学会費に6万円，学会や調査などの出張旅費に15万円，日経テレコンや民力などのデータベースの購入に10万円

山 田 昭 夫

山 田 智 哉

◆研究報告

主成分分析においてmonotone incomplete dataを用いる効果についての論文について再投稿した．さらに，重根がある場合の効果について検討した．

◆個人研究費の執行概要

日本統計学会への参加のための旅費，ノートPCおよびその周辺機器の購入，その他消耗品の購入．

湯 川 郁 子

◆研究報告

研究テーマ：北海道における「村落」の形成とその展開

①野幌をフィールドとする小作大農場制と「村落」に関する研究　北越殖民社の成立（1886年1月）から，野幌地区への集団移住，定着に至る過程について，とくにその移住開墾規定と「独立移住民」に焦点をあてて，論文執筆を目途として，既収集資料の整理をおこなっている．

②十勝清水をフィールドとする研究　十勝開墾社（1898年2月設立）とその移住開墾規定を手がかりに，資料調査を始めた．

③戦前北海道の基礎的研究　①②の研究課題との関連で，戦前北海道の行財政と土地制度の基礎的検討を続行中.

◆個人研究費の執行概要

おもに教育・研究にかかわる文献の購入と研究調査出張など資料収集にかかわる経費，その他，文房具・パソコン関連消耗品などに費消した.

【人文学部】

井 手 正 吾

◆研究報告

「ロールシャッハ，MMPI を主とした心理診断に関する研究」としては，MMPI に関する研究を共同研究者たちとまとめた．心理検査の臨床的活用におけるコンピュータ援用と，コンピュータ援用に関連したさらなる有用な臨床的解釈に関する検討を継続している．MMPI のコンピュータ援用については，Project MI として，MMPI 総合処理プログラムソフトの MiW の開発・試用を中心に継続・発展を続けている．ロールシャッハや MMPI の臨床的活用については，病院等の検査事例や心理療法継続事例などについての検討会などを地道に行っている.

心理的治療に関する研究としては，スーパーヴィジョンも含めた臨床的活動をできる範囲で精力的に継続し，基礎的な資料を蓄積と検討を継続している.

◆個人研究費の執行概要

個人研究費の主な使途は，学会年会費，研修会出張旅費，研究整理のための消耗品，等で研究費の半分近くを執行できなかった.（公務等の多忙さのため執行期限を失念したため，予定していた PC 関連機器やソフトを購入できなかった）

伊 藤 克 実

◆研究報告

「臨床」をキー概念として文献的研究をおこなっていた．また，キャリア（10 年以上経験者）のある保育士が仕事を継続している要因について質的な考察を進めている.

◆個人研究費の執行概要

戦後における幼児教育・保育実践に関する文献を購入した.

◆社会的貢献

北海道社会福祉協議会社会福祉研修所主催，主任保育士等研修講師，平成 27 年 7 月 16 日･11 月 11 日（かでる２・７）.

札幌市こども未来局主催，保育士職場復帰セミナー講師平成 27 年 9 月 16 日・1 月 20 日（かでる２・７）.

臼 井　　博

◆研究報告

昨年までに収集したデータの分析（学習動機と読書動機を中心としたもの）とそれについての執筆を行った.

一つは，これまで日本教育心理学会および本学の人文学部紀要に報告してきた学習動機の研究である．今年度は，人文学部紀要 98 号と 99 号に投稿し，掲載された．また，小学校高学年の児童の読書動機に関する短期間の縦断研究のデータについては，日本パーソナリティ心理学会第 24 回大会で発表を行った．さらに，大学の授業効果の研究については，本学の総合研究所紀要第 3 巻に投稿した．

◆個人研究費の執行概要

上記の研究に関連する図書の購入，資料の整理のための事務用品やパソコンの周辺用品(消耗品)の購入を行った．また，備品としては，研究文献と資料の整理のためにスキャナーを購入した．

◆社会的貢献

札幌市教育委員（委員長職務代理者），任期：2006 年 10 月～2016 年 3 月．

北海道教育大学附属札幌小学校・学校評議員，任期：2014 年 5 月～2016 年 4 月．

臼杵　勲

◆研究報告

今年度は，科研費研究の計画に応じて，モンゴルでの現地調査，ロシア連邦での関連資料調査を実施した．また，研究参加者らとの打ち合わせを行い，進捗状況の確認と次年度計画・研究成果公表について協議した．その他に，学術会議史学委員会部会での高校歴史教育の在り方に関わる資料収集と学会・研究会参加により，減少認識に関わる知見を深めた．また，文化遺産のデジタル化に関する資料の収集，3D 関連資料作成・実験（ドローンを用いた写真測量等）を進め，活用方法を検討した．

◆個人研究費の執行概要

個人研究費は学会費・学会参加旅費・外国雑誌購入・研究室消耗品の他に，文化財のデジタル化関連資料の作成，関連データベース作成の人件費に使用した．

◆社会的貢献

北海道文化財保護審議会・会長，～2017 年 8 月

小樽市文化財保護審議会・委員．

斜里町チャシコツ岬上遺跡調査検討委員会・会長，2015 年 10 月～2018 年 3 月．

日本学術会議　連携会員，2014 年 10 月～2020 年 9 月．

日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員会・委員，～2016 年 3 月．

文部科学省　大学設置・学校法人審議会　専門委員，～2015 年 10 月．

内田　司

◆研究報告

本年度は，厳しい状況に直面している地域社会の再生に果たす移住者の役割について，インタビュー調査を中心にフィールドワークを行ってきた．とくに，その中で，移住者と地域住民との出会いと交流の意義の解明に焦点を当ててきた．

◆個人研究費の執行概要

私の場合，研究方法がフィールドワーク中心であり，そのための旅費および資料の記録のための消耗品に使用した．また，現代社会の動きを把握するため，テレビの録画のため，DVD の購入に使用した．

大澤真平

◆研究報告

今年度は 2 つの科研費研究に主に取り組んだ．「地方都市における貧困の世代的差生産の構造と政策的対応に関する実証的研究」(研究代表:松本伊智朗(北海道大学))（基盤研究 B）においては，オックスフォード大学のフラン・ベネット先生をお招きし，ジェンダー視点からの貧困理解について 2 日間に渡る研究会を行った．研究会の議論から子どもの貧困とジェンダーに関する書籍の刊行の話が立ち上がり，その後，2 度にわたる研究会で報告・議論を行い，出版へ向けた準備を進めた．「子ども・若者の貧困とその経験」（研究代表：大澤真平）（基盤研究 C）においては，継続して行っている若者ライフコース調査の追加調査を行った．

◆個人研究費の執行概要

今年度は主には新しい研究の方向性の検討のため，書籍購入に研究費を使用した．ほか，学会費，学会参加費，消耗品費等に使用した．

◆社会的貢献

北海道いじめ調査委員会委員．

大瀬　隆

◆研究報告

継続研究の「スキーの技術指導」は，旭岳オフピステの 2012-14 シーズンの解説 DVD を編集・作成中である．2013 シーズンは荒天の為，資料映像が少なく，14-15 シーズンをも含めて検討中である．

◆個人研究費の執行概要

山岳夏季ルート調査に関わる装備の補填（バックパック，トレッキングポール等），冬季山岳ルート調査に関わる装備の補填（登山靴，スノーシュー等）に 80%，PC 周辺機器の補填等に 20%を活用した．

◆社会的貢献

北海道合同教育研究集会：保健・体育科教育分科会共同研究者（於：2015 年 11 月 7，8 日，札幌学院大学）.

大 塚 宜 明

◆研究報告

今年度は，旧石器時代における黒耀石原産地の利用解明を目的として，北海道東部の主要石材である置戸産黒耀石の原産地調査を実施し，未知の原産地遺跡を新たに発見することができた．今後は，より詳細な原産地調査を継続的に実施し，研究のさらなる発展を目指す．また，これまでの研究成果を取りまとめる形で学位論文としてまとめた.

◆個人研究費の執行概要

個人研究費の主な使途は，関連書籍，PC 周辺機器，調査機材（GPS の地図データ）の購入，学会年会費，研究出張，学会出張である.

◆社会的貢献

北海道常呂郡置戸町に位置する勝山 2 遺跡の発掘調査の実施.

岡 崎　　清

◆研究報告

本年度もアメリカ自然主義小説の研究を継続した．具体的にはアメリカ文学翻訳研究会で年に 4 回の例会（於中央大）に出席し，うち 1 回はアメリカ自然主義作家セオドア・ドライサーの短篇「結婚の一形式」を訳出し，研究発表した．ここ数年取り組んだジャック・ロンドンの伝記，クラリス・スタッズ著『アメリカン・ドリーマーズ』の共同翻訳の原稿が完成した．5 月，日本英文学会（立正大），11 月，日本英文学会北海道支部大会（北大），12 月，日本アメリカ文学会北海道支部大会（北海学園大）に出席し，11 月の大会では個人研究発表者の司会を務めた.

◆個人研究費の執行概要

学会，研究会の出張（日本英文学会：東京，日本スタインベック学会：東京，アメリカ文学翻訳研究会：東京）のための旅費．消耗品扱の図書，コピーカード，プリンターインク等．大判図書用スキャナー等.

奥 田 統 己

◆研究報告

これまでと同様・アイヌ語学・アイヌ文学についての研究を継続した．具体的なテーマは，これまでの研究者が残した未公刊のアイヌ語資料の整理，アイヌ語の諸方言間の方言差，アイヌ語の韻文の構成原理，またアイヌ語の人称の記述と歴史的考察などであった.

◆個人研究費の執行概要

これまでの研究者が残した未公刊のアイヌ語資料の整理を中心に，おもに旅費・消耗品費などを執行した.

◆社会的貢献

2015 年 4 月～2016 年 3 月　北海道博物館研究職員（非常勤）.

葛 西 俊 治

◆研究報告

主にダンスムーブメント・セラピーに関わる身体心理療法の研究を中心に行った．また，大学院研究科での「心理学研究法特論」では，数量的分析とともに質的分析の比重が増しているため，数量化理論 3 類を利用する「関連性評定質的分析」に関わる研究を深めた.

◆個人研究費の執行概要

研究に関わる事務的な経費の他では，主に PC 用ソフトの購入・PC の整備及び学会発表の経費が中心となるが，今年度は国外での学会発表時の運賃の比重が大きい.

◆社会的貢献

札幌ダンスムーブメント・セラピー研究所代表，及び同研究所主催「ダンスセラピー・リーダー資格取得講習会」指導.

「関連性評定質的分析」講習会指導.

川合増太郎

◆研究報告

東欧のイデッシュ劇，19 世紀末から 20 世紀初頭にかけてのプラハで発行されていた雑誌や新聞（日刊紙，週刊誌）を調べていたが，カフカその人と彼の作品に結びつく確たる証拠を見つけられずに，論文を書くにまでは至らなかった．しかし，プラハのユダヤ人が発行していた雑誌「自衛」にカフカ及び彼の友人たちが投稿していた内容から，〈自衛〉とは，反ユダヤ主義からのユダヤ人の自衛ではなく，カフカの父親の世代の代表される内容の無いユダヤ性から，東欧のユダヤ性に目覚めた自分たちを「自衛」することであることまでは，ほぼ明らかにできた.

◆個人研究費の執行概要

学会出張費が約 15 万円，図書が約 20 万円，その他，学会費，学会参加費，雑費が約 4 万円で，定年前最後の年なので，使い残しが発生した.

◆社会的貢献

2015 年 12 月 6 日，公益財団法人　ドイツ語学文学振興会主催の「独検試験（ドイツ語技能検定試験）の会場校総責任者として当該試験を運営・実施した.（北海道の会場は本学だけで，全国では 9 千人，本学では

139 名の受験者数であった.）

川 原 茂 雄

◆研究報告

今年度は「生活指導」概念の歴史的形成過程についての研究を行った．特に，我が国の戦前の民間教育研究運動の中で，どのように形成されていったかを，文献を中心に調査研究をすすめた．今後は，戦後における「生活指導」概念が歴史的にどのように変化していったかについての研究をすすめていきたい.

◆個人研究費の執行概要

個人研究費の主な使途は，PC の購入，研究のための書籍・定期刊行物の購入，学会年会費，学会と研究会出席のための旅費などである.

北 田 雅 子

◆研究報告

今年度は，ヘルスリテラシーの向上に関する介入的研究と対人援助職の面談ストレスと面談スタイル（動機づけ面接法）との関係について実施した.

ヘルスリテラシーの向上に関しては，来年度以降さらに,教育スタイルを変えて検討を加えて行くこととする.また,動機づけ面接法に関する面談スタイルに関しては,対人援助職のストレスマネージメントの関連からさらに調査対象数を増やして継続的に調査を実施していく事にしている.

◆個人研究費の執行概要

個人研究費の主な使用は，学会年会費，国内学会出張費,プリンターおよびカートリッジの購入,およびコピーカードである.

◆社会的貢献

日本動機づけ面接学会　常任理事　2015 年～
日本禁煙学会　評議員　2014 年～
日本禁煙学会北海道支部　幹事　2014 年～
日本禁煙医師歯科医師連盟北海道支部　幹事　2014 年～

木 戸　　功

◆研究報告

家族の質的研究の方法論をめぐる文献研究を継続して進めた．ライフコース研究，ライフストーリー研究に示唆をえつつ，構築主義的なナラティブ・リアリティ分析の知見にもとづいて，インタビューを通じて収集した人々の語りを分析するためのアイデアを検討した．時間の経過とともに形成される個々人のライフコースにおける移住経験に着目し，そうした経験をめぐる語りの分析方法を検討した.

また，上記の方法論的検討を具体化するための題材として，移住者を対象としたインタビュー調査を含むエスノグラフィックなフィールドワークを継続して実施した．これについては研究促進奨励金による課題として，また担当科目（「フィールドワーク」）とも関連させながら調査を行った.

さらに，所属学会の一つである日本家族社会学会が実施する全国家族調査（NFRJ）において，質的調査班を立ち上げることに参画し，2018 年度に予定している実査に向けた準備を開始した．これについては，９月に開催された学会大会におけるテーマセッションにおいて報告を行った．また，研究分担者の一人として科学研究費補助金の申請を行った．なお，２月に開催される NFRJ18 準備研究会において，質的調査の構想を報告する.

◆個人研究費の執行概要

図書の購入，所属学会年会費および大会参加費，大会参加のための旅費，インタビューデータ（音声）の文書化の業者への委託，文具やプリンタトナー等の消耗品，研究室のパソコンのハードディスクの交換やメモリの増設等に使用した.

◆社会的貢献

家族問題研究学会編集委員会委員長（継続），日本社会学会編集委員（本年度より），日本社会学会奨励賞推薦委員（本年度より），北海道社会学会理事，研究活動委員（本年度より）.

小 出 良 幸

◆研究報告

「地質的時間記録」と「岩石の多様性形成」の２つのテーマで研究を進めてきた.「地質的時間記録」は，層状チャートで成因の異なるとされる露頭（高知県，大分県）で野外調査し，次年度にその結果をまとめ，さらに違う成因の地域での調査する予定である.「岩石の多様性形成」については，火成岩を取り上げ，マグマの形成過程と分化過程で，多様性を生む素過程と重要な要因についてまとめた.

◆個人研究費の執行概要

主に野外調査に用いる画像処理能力に秀でたノートパソコンと，パソコン周辺機器およびソフロウエアにあてた.

◆社会的貢献

公益財団法人日本科学協会商議員
西予市ジオパーク推進協議会アドバイザー
江別市廃棄物減量等推進審議会委員

児 島 恭 子

◆研究報告

今年度は,科研費を獲得したためそのテーマである「イチョウ巨樹の乳信仰に関する歴史研究」を中心に研究活動を行った．実地調査が主であった．５月には照葉樹林文化研究会で前年の四国での巨樹イチョウ調査の報告を行った．また，８月に以前から報告の準備を行ってきた国際歴史学会議が開催されたため報告原稿の完成に意を注いだ．アイヌ関係の分野については地名研究をとくに行ったが，全般的な研究は前年度から継続の『日本民俗辞典』（朝倉書店）のアイヌ項目の編集を通じて行った．

◆個人研究費の執行概要

PC とモニターの購入，学会・研究会のための旅費，研究図書の購入，学会年会費等に使用した．

◆社会的貢献

北海道立総合博物館協議会委員

北海道立総合博物館協議会アイヌ民族文化研究センター専門部会委員

小 林 好 和

◆研究報告

研究のテーマは，かつてピアジェが主張してきた人間発達における構成主義，及び近年の認知科学において強調される初期発達の生得主義の論争を整理し，今後の認知発達研究を展望しうるような一つの方向を提案することである．近年，急速に焦点が当てられてきた人間の初期発達に関する研究を概観するなら，「人間は発達初期からいかにしてモノ・人を含む外界と相互交渉を成立させているか」の問題に焦点を当て，その解明を進めようとしている．なかでも「人間が誕生時から有能に振舞うことのできる局面としていかなる具体的行為が想定されるか」，同時に「その行為の生成を説明しうる理論を仮説的であれいかに想定しうるか」について検討を進めている．現在の段階で有力な概念として「認知のモジュール性」及び「生得性」，一方でこれらと相反する理論的位置にある「認知の構成的側面」の独自性を認めた上で両者を相互に結びつける新たな試みが散見されるに至っている．そこで，これまで「領域普遍性と領域固有性」の問題，「乳幼児における行為のカプセル性から柔軟な行為の生成」に関して，北米を中心とする研究成果を収集・検討し，「構成的モジュール」として概念化しながらその妥当性について検討を進めてきた．「日本発達心理学会（第 22 回大会，及び 23 回大会）」において，その成果を発表したが，引き続いて欧米における新たな研究動向や成果を組み込みながら発表する予定で作業を進めている．

同時に，認知発達に関わる上記の基本的な問題を踏まえ，具体的な研究課題をして検討が進められている「乳幼児の理論構成」について，「素朴生物学」を認知発達の中核領域として位置づけながら，「素朴生物学」と科学的生物学との関連，初期発達における「素朴生物学」をいかなる基準・内容として想定するのかについての検討を進めた．また「表象書き換えのモデル」に照らした場合，言語レベルのデータを収集できない年少児について「言語報告が可能となる以前に素朴理論をもつか」の問題，すなわち「暗黙的な表象」「意識的に接近できない表象」の視点を組み込みながら，その様相を明らかにする試みを継続している．

◆個人研究費の執行概要

認知発達研究を中心とする文献をコピーするためのカードに約５万円，同研究を進めるために収集したデータの整理に必要な消耗品として約８万５千円，学会費として約６万円を当てた．

◆社会的貢献

平成 27 年度　北海道教科用図書選定審議委員（北海道教育委員会）

眞 田 敬 介

◆研究報告

2015 年度の研究テーマは次の二つに大別される．

(A)「英語認識的法助動詞 have to の使用依拠的考察」．現代アメリカ英語の電子コーパスを用いて，2010～2012 年度の英語から認識的 have to を検索した．そうして収集したデータを，「（主語や動詞など）どのような言語環境で使用されやすいか」を認知言語学の使用依拠モデルの観点から調査した．次いで，この調査結果が，認知文法と機能文法におけるモダリティの主観性分析に対しどのような貢献をもたらすか，考察した．2015 年度前半でこの調査に一区切りをつけ，７月４日に北海道大学の「認知言語学フォーラム」にて日本語で発表し，７月 21 日に「国際認知言語学会第 13 回大会」（イギリス・ノーザンブリア大学）にて英語で発表した．さらに最近のデータを収集・分析すべきところだが，現段階での研究成果として，2016 年度内に論文として投稿することを検討している．

(B)「英語法助動詞の認知歴史言語学的研究」．義務を表わす英語根源的法助動詞 must の意味変化を題材に，認知言語学と歴史語用論の融合を図る試みを行なっている．具体的なテーマは①「英語の must がいかにして義務用法を持つに至ったのかの再検討」と②「英語の must がいかにして主観的な義務用法（話し手が自らの願望や意志に基づいて義務を課す用法）を持つに至ったのかの解明」である．主に古英語・中英語の文学作品からデータを収集し，「文法化」「主観化」「メトニミー」「百科事典的意味観」の観点から検討を続けて

いる．①は 2013 年度に投稿した論文をベースに検討を続け，2016 年度内に，研究書への投稿を目指している．②は 2013 年度に行なった口頭発表をベースに，さらに検討を続け，2016 年度内に外部研究プロジェクト（成蹊大学「認知言語学の新領域開拓研究」，代表・森雄一成蹊大学教授）での研究発表を目指している．また，このテーマ（B）は，2016 年 10 月からの留研における主要テーマと位置付けている．

◆個人研究費の執行概要

学会や研究会に参加するための旅費，プリンタのインク・コピー用紙・コピーカードの消耗品の購入，学会の年会費に執行した．

佐 野 友 泰

◆研究報告

コラージュ技法の国際比較研究のため海外二カ国でのデータ収集，および就職活動のつまずきに関する分析のため大学生よりインタビュー調査を行った．

◆個人研究費の執行概要

上記研究のため，学会費，学会発表旅費，データ収集に関する謝礼を執行した．

諸　　洪 一

◆研究報告

幕末の朝鮮政策と外交について調べている．途中で中止となった慶応二年平山図書頭古賀筑後守渡韓奉報命一件について基礎資料を広く集め，幕府の朝鮮政策の基本路線を再検証する．東アジア外交の基本原理は，維新後どの程度まで継続され，あるいは断絶され，やがて欧米流のパワーポリティックスに移行していったかを検証する．

◆個人研究費の執行概要

①書籍費，学会費など　30%，②パソコンおよび周辺機器　15%，③出張旅費，資料調査および学会旅費など　50%．

④残りは，文具，コピー代，その他の購入に当てた．

塩 見 啓 一

◆研究報告

特別支援教育に関わる，障害概念，知的障害概念，脳機能，障害者の心理等について，文献研究を中心に研究を行った．

特別支援教育に関わる諸課題について実践的研究を行った．特に，特別支援学校を訪問しながら実態を調査し，現状と課題について研究を行った．

特別支援学級の現状と課題について，現場の教員と学習会を 10 回開催し，現状と課題，今後の方向性について実践的に研究を行った．

特別支援学級の授業の在り方と教材について研究し，特に理科を中心とし他教科指導の在り方について研究を行った．

◆個人研究費の執行概要

パソコン周辺機器と消耗品の購入
研究に必要と思われる関係書籍の購入
学会費

菅 原 秀 二

◆研究報告

1．2014 年度の日本におけるイギリス近代前半（近世）の学会動向を執筆し，『史学雑誌』2015 年の 5 月号「2014 年の歴史学会―回顧と展望―」に掲載された．

2．「近世における複合国家イギリス」に関する研究は，2015 年度も研究分担者として「近世イギリスの複合国家と地域連鎖」というプロジェクトを組み，科学研究費の申請を行った．

3．「近世ウェストミンスターにおける救貧と政治文化（政治参加）」に関する研究は，今年も資料収集の段階にとどまった．

◆個人研究費の執行概要

2015 年 5 月に富山大学で開催された「日本西洋史学会」第 65 回大会への参加に伴う出張旅費以外は，すべて洋書の購入に充てた．

杉 山 四 郎

◆研究報告

教職課程を取る学生の基礎学力向上をはかるため，また授業実践の体験を積ませるため，1 つの教育法について 2 回（A・B 合わせて 4 回）は模擬授業をおこなうよう，カリキュラムを作成し，実践した．レポート提出（2 回）・小テスト（3 回）も引き続きおこなった．

◆個人研究費の執行概要

研究活動のため，教職課程用の教科書（中学校・高等学校）・ノート・文房具などを購入した．

鈴木健太郎

◆研究報告

「人の行為発達」をテーマに研究を行っており，この人間行動に対する分析枠組みを言語発達に適用した研究を進めた．生態心理学における「人の行為発達」を，知覚システムと行為システムの共発達過程ととらえている．また，その発達は，行為に関する多様な資源のある生活環境を基盤としていると考える．この視点と同様の枠組

みを言語に適用する場合，基盤となる環境が，他者の存在する言語環境であること，さらには，養育者や特別な物・出来事で構成された乳児－養育者領域と呼ばれる特別な発達の場であることを考慮する必要がある．2011～2013 年度の調査で取得した家庭での乳児と母親とのやりとり場面の生後 6 ～24 カ月にわたる縦断的データをもとに分析をすすめた．前年度に引き続き，母子の相互行為過程を分析し，乳児の発声・発語を促進する展開パターンの抽出を試み，検討した．

◆個人研究費の執行概要

2015 年度の個人研究費の主な使途は，1)データ管理用の PC 機器（ハードディスク）の購入，2)観察記録用のビデオカメラ・デジタルカメラの購入，3)乳幼児の発達と教育に関わる書籍の購入，および，4)所属学会への年会費である．

土渕美知子

◆研究報告

1．社会的養護のもとで生活する子どもの自立支援について，児童養護施設や自立援助ホーム，子どものシェルター，里親等の関係者からの聴き取りや，関連する講演会・研修会に参加して情報収集し，今後のあり方について考察している．

2．高校福祉科教育の現状と課題について，学会等に参加して情報収集するとともに，道内福祉系高校の授業見学や福祉科教育法での出前授業等をとおして，福祉科教育法の教授方法について研究している．

◆個人研究費の執行概要

学会や研究会等出席のための旅費，参考図書の購入等

◆社会的貢献

江別市社会福祉審議会委員　2011 年度～

江別市子ども子育て会議委員　2013 年度～

『季刊　児童養護』（全国児童養護施設協議会発行）編集委員　2013 年度～

児童養護施設「札幌南藻園」第三者委員　2013 年度～

児童養護施設「旭川育児院」監事　2014 年度～

自立援助ホーム「MaAya の家」理事　2012 年度～

子どもシェルター「レラピリカ」理事　2013 年度～

釣　晴彦

◆研究報告

1　江別市立文京台小学校の「外国語活動」授業支援のボランティア活動に学生と参加して取り組んだ．

2　羽幌高校で模擬授業実践として学生と共に参加．中学校の先生を招いての模擬授業実践，本学 OB 英語教員の模擬授業等を実施した．

3　英語を聞く・話すための手で作る発音として，ボイスワーク・トレーナーを東京から招待して学生と共に研修する．

4　実用英語教育学会の運用に取り組んだ．実際に「英語を使う」という視点に立って，小学校から中学校，高校，さらには大学にいたるまでの幅広いレベルで，学習内容の継続性に配慮しながら，それぞれが対象とする学習者の英語運用力の教育実践の研究に取り組んだ．

5　「コミュニケーション活動」の研究に取り組んだ．表現教育としてプレゼンテーションやスピーチ等を積極的に授業に取り入れた．
活動の DVD を作成．絵本を作成する．5 カ国語の言語にすべて字幕をつけ，それを一般公開して共有出来る教材を作成した．

◆個人研究費の執行概要

実用英語教育学会の会費，講師謝礼，書籍，雑誌，DVD，文房具等の消耗品の購入，研究に関しての DVD 製作費

◆社会的貢献

千歳市社会教育委員長（任期 2015 年～2017 年）

千歳市市民協働推進委員長（任期 2015 年～2017 年）

千歳市公民館運営委員長（任期 2015 年～2017 年）

実用英語教育学会会長（任期 2013 年～）

鹿追町文部科学省調査研究事業運営指導委員（任期 2015 年～2017 年）

寺岡眞知子

◆研究報告

全国保育士養成協議会のブロック助成を受け，「子どもとのかかわりから見る文化財としての絵本の魅力・価値の検証について」の共同研究成果を札幌で開催された全国大会においてパネル報告した．この研究は再び，全国保育士養成協議会北海道ブロックの助成を受け，現在継続中である．今後はさらに保育環境としての絵本コーナーに着目し，研究を進めたい．また，琉球舞踊，八重山舞踊の雑踊りや民俗舞踊の研究についても深めたい．

◆個人研究費の執行概要

個人研究費の主な使途は，PC 周辺機器の購入，学会出張費，学会年会費などである．

中野英子

◆研究報告

①　精神障害者の社会復帰のためには精神科リハビリテーションが重要な役割を果たしている．精神保健福祉士の実践研究として，援助技術に家族療法の考え方を用い，「家族療法を活用したリハビリテーションのあり方に関する研究」に継続して取り組んでいる．フィールドを精神科デイケア機関として，今後も，当

事者・家族の体験からリハビリテーションの手がかりと援助のあり方，精神障害者の生活の再構成について考える．

② 次に，北海道が行っている「精神障害者地域生活支援事業・地域移行研修事業」に関わり，受け入れ先があれば退院可能な長期入院中の精神障害者（社会的入院者）が，地域でくらすための地域での受け皿づくりと精神障害者を支援する現場の職員の資質の向上と研修について考え，より良い実践につなげるため事例検討を通しての研究を継続する．

③ 大学教員として，これまで精神保健福祉の教育をし，精神保健福祉士の国家資格を取って，現場で働く卒業生への技術支援の在り方に関する研究を継続する．当大学では，平成20年度から，精神保健福祉士の養成を行ってきて7年目を迎え，全道各地に卒業生が就職している．苦労して得た国家資格のもとに，この仕事を継続実践していくためには，日々の実践に加えて，スーパービィジョンや研修が不可欠となる．地方にいて研修の機会に恵まれず，またベテランの先輩のいない中での実践はともすると，士気を失いがちになるが，大学で学んだ知識・技術をより向上させ，充実した実践が出来るように支援している．

このことから，第一回目の卒業生がでた平成22年度から，年3回の勉強会を継続，実施している．毎年，新しい卒業生を迎え，次第に卒業生の先輩が，中心となって，この勉強会を維持できるようになってきている．今後も，札幌学院大学の卒業生が精神保健福祉士として活躍していくためにも，更なる技術の向上の場として機能できるようにあり方を検討し，有意義なものとしていきたい．日常の実務に役に立つ研修のあり方の研究を模索している．

◆個人研究費の執行概要

・日本家族研究・家族療法学会，日本デイケア学会出席の旅費．
・所属学会会費．
・書籍，雑誌の購入．
・文房具費等の購入．

◆社会的貢献

公益財団法人北海道家庭生活総合カウンセリングセンター　理事
社会福祉法人英寿会　地域密着型介護老人福祉施設かっこうの杜　理事
公益財団法人北海道精神保健推進協会　理事
白石警察署協議会　委員
NPO法人　すみれ会　理事
NPO法人　オーク会　副理事長
日本家族研究・家族療法学会　評議員
日本デイケア学会　理事・評議員，学会誌「デイケア実践研究」編集委員

中 村 敦 志

◆研究報告

マーク・ストランドの詩では「不在」特に自己の消失が一貫したテーマであるが，その描写には時代を経るにつれて変化が見られる．近作，特に詩集 *AlmostInvisible*（2012）を中心に，テーマと表現上の変化と関連性に着目し，ストランド詩についての考察を継続している．

◆個人研究費の執行概要

研究図書，学会出席のための旅費，パソコン周辺機器，DVDプレーヤーの購入．

西　真木子

◆研究報告

主に2001～2010年に発表されたイギリス小説に関して特に研究分野であるポストコロニアル文学との関連で概観した．現代のイギリス文学の動向において，かつてのイギリス自治領の出身者の多くが作品を発表しており，その国際化の動きはさらに進んでいることを確認した．作者の出身地を描く作品に関しては，変わらず多数発表されており，Rohinton Mistry による *Family Matters*（2002），Hisham Matar による *In the Country of Men*（2006），Indra Shinha による *Animal's People*（2007），Andrea Levy による *The Long Song*（2010）など多くの作品が評価されている．一方，欧米都心部における人種的マイノリティーの人々の様相を描くものに関しても，Monica Ali による *Brick Lane*（2003），Mohsin Hamid による *The Reluctant Fundamentalist*（2007）など多く発表され，英語圏における多様な価値観の共存の様子が描かれている．以上のように，多様な作家が受け入れられ国際化はさらに進行しているように見受けられるイギリスの現代の小説の動向であるが，今後は旧植民地と旧宗主国といういわゆる「周縁と中心」という複雑な移動の力学の関係にからめて，さらに考察を深める予定である．

◆個人研究費の執行概要

個人研究費の主な使途は，書籍の購入，PCの購入，学会年会費，文房具等消耗品である．

二 通　　諭

◆研究報告

「特別支援教育における教育学的実践モデルの構築―人格形成を展望して」

進捗状況：特別支援教育の展開において課題として認識されているのは，社会性の障害と社会性の発達に対応する教育実践である．このことについて，7つの教育実践課題として提起しているところである．今年度は，実

践的研究課題として，発達障害のある学生の教育実習に焦点を当てて，その困難性と可能性について探究した．このことについては，「発達障害や精神的な困難を抱える学生が教育実習に取り組む際の課題と支援」としてまとめ，『教師教育研究第 29 号』（全私教協）に投稿した．特別支援教育についての学生及び一般向けテキストとして単著『特別支援教育時代の光り輝く映画たち』を刊行した．これは，発達障害や愛着障害等の困難や課題，さらには可能性が大衆的文化媒体である映画にどうように反映しているかについて論究したものである．特別支援教育のキーワード書において，特別支援教育の現下の重要論点である「個別の教育支援計画」および「個別の指導計画」について概括した．ひきこもり問題の一般書である『ひきこもる心のケア』の分担執筆者として，現代的課題であるひきこもりと発達障害の関係について実践的に論じた．札幌学院大学の発達障害や精神的な困難を抱える学生の自助グループ『雑談会』および保護者のミーティングである『ランチ会』の活動に継続して取り組み，発達障害やセイン的な困難を抱える学生への支援のあり方を実践的に探究した．

◆個人研究費の執行概要

学会と研究会出席のための旅費，PC の周辺機器の購入，データー入力のための人件費等々．

◆社会的貢献

千歳市特別支援教育専門家チーム委員
千歳市教育支援委員会委員
石狩市教育支援委員会委員
特定非営利活動法人北海道学習障害児・者親の会クローバー顧問
特定非営利活動法人ハーモニー♪（高機能自閉症児をもつ親のサークル）理事
財団公益法人ふきのとう文庫評議員
特定非営利活動法人ネクステージ副理事長
2015 年子どもの発達集中講座世話人代表

新國三千代

◆研究報告

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PENNet-Japan）遠隔情報保障事業の平成 27 年度ワーキンググループ委員として，聴覚に障がいのある学生に対する遠隔地からの情報保障について本学の実施状況および北海道大学における遠隔情報保障実施のサポート事例に基づき，そのあり方を追究した．今年度の取り組みについては，３月発行予定の PENNet-Japan 遠隔情報保障事業成果報告書にまとめている．今後は，遠隔情報保障についての地域連携についても考察する．

◆個人研究費の執行概要

主な使途は，学会年会費，PC 消耗品，ソフト，調査出張旅費である．

◆社会的貢献

・北海道障がい者施策推進審議会意思疎通支援部会委員（2016 年 2 月～）
・筑波技術大学日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク運営委員会運営委員（2015 年 4 月～2016 年 3 月）
・日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PENNet-Japan）遠隔情報保障事業の平成 27 年度ワーキンググループ委員（2015 年 4 月～2016 年 3 月）

新 田 雅 子

◆研究報告

科研費による「北海道農村地域における低所得高齢者の生活史と生活困難に関する調査研究」の最終年度にあたり，６月に置戸町，８月に標茶町と釧路町，８月と２月に清水町，10 月と 11 月，１月に足寄町と，精力的にフィールドワークを行ない，農村部の独居高齢者に対するインタビューを年間を通して継続的に実施した．その一部は８月刊行の雑誌に寄稿することができた．一方で，在宅医療に関する政策動向を保健医療社会学の立場から批判的にレビューした．高齢者保健福祉政策の批判的考察と農村部高齢化集落で単身生活を続ける高齢者自身の生活と生活史上に浮かび上がる課題とを「老いの社会学」および「福祉社会学」の視点で結びつけることが当面の大きな研究課題である．

◆個人研究費の執行概要

国内外の雑誌の定期購読料（約 60%），図書費（15%），学会年会費（15%），文具等消耗品（10%）

◆社会的貢献

・2014 年 4 月～現在：北海道福祉サービス運営適正化委員会委員
・2015 年 7 月～2016 年 3 月　江別市地域密着型サービス（介護保険）事業者選定委員会委員長

畠山なよ子

◆研究報告

〈研究テーマ〉

「音楽を専門としていない小学校の学級担任が音楽科の授業を行う上で必要とする，音楽の基礎・基本及び授業づくりの土台となる考え方や指導の在り方について」

○音楽の美しさや楽しさを体感する活動を通して，課題をもって追求し他とのかかわりから，そのよさにふれて意味や仕組みに気付いていく授業のつくり方
○バイエルの教則本を使用して時短でピアノの技術を向上させて，最終的に発表会で発表するまでに至る計画的な練習の進め方

○表現活動における小学校の教員として最低限身に付けておきたい「読譜力」の育み方
○器楽合奏を通して,「子どもの側」に身をおいて指導の必要感を感じ取りながら,「指導する側」に立った具体的なかかわり方

個人的に音楽鑑賞をしたり音楽活動をしたりして音楽に親しんでいたとしても，学校音楽（読譜や演奏技能）に対して苦手意識や劣等感をもっている学生は少なくない.

一方，全国で音楽科が専科制になっている学校は少なく，全体のおよそ８割は音楽を専門としていない学級担任が音楽科の授業を行っているのが実状であり，むしろ音を発することによって技能などの優劣が目立ちやすい教科においては，深い子ども理解の上に立って担任が授業をするメリットは大きいと考える.

よって，音楽を専門としていない学級担任が，ある程度の音楽的な能力を身に付けて自信をもって授業づくりに向かうことのできる姿勢をつくることこそ，教員養成科目における小学校音楽科で重要なことと考える.

◆個人研究費の執行概要

図書費, 旅費等, 学会年会費及び学会参加費等, コピーカード，文具等に利用.

◆社会的貢献

●審議会委員　札幌市教科用図書選定審議会（中学校）2015 年 5 ～ 7 月
●出前授業 「小学校の先生は学びのタネをまく仕事」札幌龍谷学園高等学校　2016 年 2 月 12 日

久 蔵 孝 幸

◆研究報告

1　新入生の大学適応のプロセスについて～大学生活の中で発見した自身の成長の自覚の順序や関係性について論文執筆中
2　児童自立支援施設のベテラン施設長の遺稿より，自立支援の理念の推移と，それに影響を与える施設長としての思考の変遷と熟達のプロセスについて～当該資料のデータベース化の途中
3　自立援助ホームの理念についての研究～データ収集中
4　里親の里親としての熟達化のプロセスについて～インタビュー調査

◆個人研究費の執行概要

上記研究に関わる資料として書籍購入

その他，必要な事務用品及び事務機器ならびにソフトウェア等購入

◆社会的貢献

長沼町総合保健福祉センターにおける講演活動
江別市教育委員会での特別支援専門家チーム
北海道里親養育研究会での研究活動
NPO 法人パーチェ理事長

平 体 由 美

◆研究報告

昨年度に引き続き，アメリカの医療史・公衆衛生史の研究を行った．２回の学会発表で得た知見を踏まえて，論文を作成し投稿したが，まだ掲載には至っていない.

◆個人研究費の執行概要

学会・研究会参加のための交通費（東京，京都），PC 関連消耗品／文房具／書籍購入費, データベース使用料, 他館借用資料コピー代／送料など.

D.W.ヒンクルマン

◆研究報告

In 2015, my main theme of group research was video assessment of English presentations by students. This year we focused on how to do whole-class simultaneous assessment of speeches--also called ‘synchronous assessement’ using iPads. We did programming of the blended learning module and testing in classrooms at SGU. A second theme of research was content sharing of online e-learning materials. We continued to improve a course-sharing hub for Moodle LMS courseware in Japan.

◆個人研究費の執行概要

The main expense was for for programming a custom plugin module for the Moodle learning management system (LMS). This plugin was a question type called “Ordering”. Other equipment expenses included a scanner for archiving paper documents into digital ones, a computer screen, and an iPod for classroom-based blended learning research. Travel expenses were for attending conferences and presenting results of this work. I also obtained outside funding for programming a open courseware sharing site for the Moodle learning management system (LMS).

◆社会的貢献

Board Member, Institute of Cultural Affairs Japan (Community Development NGO)
Officer, Japan Association of Language Teaching-Hokkaido Chapter
Officer, Moodle Association of Japan, Hokkaido Chapter
Vice-President: Moodle Association of Japan, National Officers Committee
Co-chair, CALL-Plus Workshop, Sapporo Gakuin University, Department of English and British-American Studies

藤 野 友 紀

◆研究報告

今年度は２つのテーマを中心に研究活動を行った．１つめは「教育実践と発達の関係についての概念的整理」で，現在は書籍の分担執筆を進めているところである．２つめの「障害のある乳幼児の言語とコミュニケーションの発達」については，近年の先行研究を収集して通読した．次年度は前期にレビュー論文をまとめるとともに，実践現場での予備観察を開始する予定である．

◆個人研究費の執行概要

個人研究費の主な使途は，発達検査用具，学会年会費，書籍，消耗品等である．

◆社会的貢献

・NPO 法人コロポックルさっぽろ　理事
・札幌市立小学校及び中学校通学区域審議会委員（平成 25 年 8 月 1 日～平成 27 年 7 月 31 日）

牧 野 誠 一

◆研究報告

今年度は，２つのテーマを中心に研究を行った．１つ目のテーマは：「知的障害者の高等支援学校卒業後における学びの場の保障」についてである．わが国において，知的障害のある人が高等支援学校を卒業した後に，学べる機関は極めて少ない．知的障害者を公式に受け入れる公認の大学はない．しかし，知的障害者の中には学ぶ機会を求めている人たちは大勢存在する．その人たちの希望をかなえるべく，細々とではあるが学ぶ場を工夫して生み出し，運営を続けてきた学校や組織などがある．今年度の研究では，そうした工夫によって生み出された後期中等教育卒業後の学びの場である「オープンカレッジ」「特別支援学校専攻科」「学びの作業所」についての現状を分析し，これから知的障害のある人にとって豊かに学ぶ場がどのように準備されることが望ましいのかを展望した．２つ目のテーマは：「北海道における自閉症の子どもたちへの対応の歴史」に関するものである．1960 年に，北海道大学医学部付属病院の奥村晶子によって，北海道における初の自閉症児の症例が発表されてから，どのような対応がなされてきたのかを主に教育の視点から追ってまとめた．

◆個人研究費の執行概要

個人研究費の主な使途は，学会年会費，学会出席のための出張旅費，資料購入費，消耗品費などである．

◆社会的貢献

・日本自閉症スペクトラム学会第 14 回研究大会　実行委員会事務局長　大会は 2015 年 8 月 22 日-23 日　札幌学院大学で開催
・第 21 回北海道障害者フライングディスク大会　北海道障害者フライングディスク連盟副会長として運営にあたる　2015 年 9 月 6 日

舛 田 弘 子

◆研究報告

従来からの研究テーマである，説明的文章の理解に関する研究について，留学研修の成果を踏まえて考察し，研究会での発表を行った．

また，国語科の授業研究のプロジェクトに参加した．

◆個人研究費の執行概要

学会及び研究会に出席するための旅費，PC 関連消耗品の購入，文具・コピーカードの購入など

松 川 敏 道

◆研究報告

・北海道知的障がい福祉協会と継続して実施している施設内虐待の調査研究の準備を行った．これは 2012 年度に実施した「全道知的障がい児・者入所施設利用者権利意識調査」との比較を目的に計画され，今年度中に実施予定であったが諸事情により次年度にもち越されることになった．
・障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律の実施に関する調査研究協力者会議において，「大学における障害のある学生支援の取り組み」について報告を行った．
・今年度，札幌市において「手話・障がい者コミュニケーション条例（仮称）」の制定に向けた検討委員会が設置され，この委員会の座長になるとともに手話とそれ以外のコミュニケーションの方法を含んだ条例のあり方について検討するために，現在当事者からのヒアリングを実施している．

◆個人研究費の執行概要

個人研究費の主な使途は，学会年会費，学会出張旅費，図書・資料の購入費，消耗品などである．

◆社会的貢献

・札幌市福祉のまちづくり推進会議会長（現在に至る）
・北海道障がい者就労支援推進委員会会長（現在に至る）
・北海道障害者介護給付費等不服審査会委員（現在に至る）
・北海道知的障がい福祉協会権利擁護委員（現在に至る）
・社会福祉法人あむ理事長（現在に至る）
・札幌市手話・障がい者コミュニケーション検討委員会会長（任期：2016 年 1 月～2017 年 3 月 31 日）

水 島 梨 紗

◆研究報告

今年度は，前年度に引き続き，日本人英語学習者の語用論的能力の育成にどのような可能性があるのかを論じてきた．主に高校英語教科書の分析を通じて，日本の英語教育の現状について考察を行い，国際学会で様々な国の研究者と意見や情報の交換を行った．

◆個人研究費の執行概要

国際学会・国内学会への参加，海外でのアンケート調査などを中心に個人研究費の執行を行った．

宮 町 誠 一

◆研究報告

英国詩人ウィリアム・ブレイクの研究書の翻訳を継続しております．近年ブレイク研究に新たな視点が導入され，詩人の知的背景の拡大の伴い，その研究成果を翻訳の仲介に導入すべく最新の研究成果の検証に時間をかけております．

◆個人研究費の執行概要

国内外のブレイク研究の最新情報の収集に努め，東京出張，および文献の購入に個人研究費を使用しました．また，研究室のデスクコンピュータが旧式になったので，新しいものに更新しました．

村澤和多里

◆研究報告

今年度は，北海道の地方部における若者自立支援の実態調査を行った．調査からは，貧困問題を背景にした不登校が広がりつつあるという知見を，後者からはコミュニティにおける若者支援枠組みの必要性について知見を得られた．

◆個人研究費の執行概要

個人研究費の主な使途は，PC の購入，プリンターおよび印刷用インク，調査出張旅費，調査謝金，調査音声データの文字おこしアルバイト謝金，学会年会費，学会出張旅費，消耗品購入費である．

◆社会的貢献

北海道いのちの電話研修委員

望 月 和 代

◆研究報告

今年度は，２つのテーマを中心に研究活動を行った．１つめは「司法領域におけるソーシャルワークの価値について」，２つめは「精神障害者を家族にもつ人々の支援について」の研究である．前者は，保護観察所の社会復帰調整官の困難事例の検討を行う等して，今後の具体的な研究方法を検討している．後者は，医療観察法終了後の家族支援の会の運営等を行う中で，経験を蓄積して，その現場での支援方法を探っている．今後は，その２つのテーマを相互に関連させた研究を行う．

◆個人研究費の執行概要

個人研究費の主な使途は，PC 及びプリンターの購入，学会年会費，学会参加費である．

森　　直 久

◆研究報告

科学研究費による研究テーマに沿って三つ，研究活動を行なった．一つ目は「適切な被疑者取調べの方法に関する研究」（研究分担者：青山学院大学）で，我が国の刑事司法文化に則しつつ，供述弱者に不利益をもたらさない発問方法が追求された．この成果は共著の形で出版し，また実際の取調べに活用できないか，検察官と議論する素材として活用する予定である．二つ目は「法と人間科学」（研究分担者：北海道大学）である．法学者や裁判実務に携わる弁護士，検察官らとの意見交換や協同を通して，現実に適用可能な心理学を目指す試みを展開した．三つ目は「記憶の伝承に関する生態心理学的研究」（研究分担者：立教大学）である．戦争や災害の被害者へのインタビューや記念施設の見学を通して，他者の経験の移植可能性について議論した．この成果は，来年度の国際学会で発表予定である．本学の学会旅費助成を利用して，想起への生態心理学的アプローチについて，国際学会で発表を行なった．

◆個人研究費の執行概要

国際学会の参加費，渡航費，複数の国内学会への出張費，学会費が主たる用途であった．他に，研究に必要な消耗品の購入に使用した．

山 添 秀 剛

◆研究報告

2015 年度に取り組んだ研究テーマは，大きくふたつ．ひとつは，昨年度に引き続き，認知言語学に関する書籍，『認知言語学大問題集―探求のヒント―』（仮名）の原稿執筆に従事した．共著者２名とは，昨年９月にこれで最後となる第６回執筆者会議を佛教大学の瀬戸研究室で開催し，原稿内容の最終チェックを行った．出版は来年度の予定．なお，筆者の担当箇所の一部は，今年度も英語学 A の講義資料として実際に使用した．学生からの貴重なコメントに基づき原稿を修正している．

もうひとつは，札幌学院大学人文学会紀要第 97 号（2015 年３月）にまとめた「水平を垂直で理解する上下のメタファー」について日本英文学会北海道支部第 60

回大会（2015年11月）で口頭発表し，会場から貴重なご意見を頂いた．

◆個人研究費の執行概要

研究図書購入費，小学館コーパスネットワークBNC Online利用料，研究会出張旅費，学会年会費，インクカートリッジやファイルなどの事務用品購入費など．

安木尚博

◆研究報告

今年度，「子どもの造形感覚の発達について」「小学校教育における造形挙育指導法について」の2つテーマに研究活動を行った．これまでの実践を整理，修正した．今後は，教育現場の現状から問題点を明確にし，改善に向けての取り組みについて提言していくことを視野に入れ研究を進めていきたい．

◆個人研究費の執行概要

・PC及びソフトウエアーの購入費
・全国研究大会出席のための旅費
・資料作成のための消耗品費

山本　彩

◆研究報告

①発達特性が背景にある不適応行動への介入について：不適応行動を呈している本人自身が支援機関を利用したがらないということは地域の相談支援で多く報告されている．その際には家族を含めたコミュニティを整え，本人自身の支援への動機付けを高めることが重要と指摘されている．今年度，このことに関わる厚生労働省班研究による調査，厚生労働省班研究による介入研究，札幌市国庫補助事業による専門家養成研修の実施と効果測定，に携わった．次年度は，介入研究の結果をふまえてプログラムをよりわかりやすく，シンプルなものに改訂し，研究者自身で再度介入研究等をおこなう予定である．また次年度このことに関わる非定型的アセスメントの開発について協力依頼を受けている．

②強度行動障害支援を行う支援者のメンタルヘルスについて：知的障害重度でかつ自閉症度が重度であり，著しい行動障害がある場合を強度行動障害とよび，国は強度行動障害支援をできる専門家の養成に昨年度から着手した．背景には施設職員による障害者虐待の実態や，どんなに障害が重くとも地域で当たり前の生活をというノーマライゼーションの理念がある．一方，福祉職員の離職やメンタルヘルスが課題となっており，支援方法の伝達だけでは解決しないことが予測される．そこで今年度強度行動障害支援者養成研修のフォローアップ研修を受講した専門家立たちにアンケートをとり，現場で日々困ること，虐待との関連などを分析した．

◆個人研究費の執行概要

上記①②の研究のためにプリンター，シュレッダー，ビデオ，ファイル用品，関連著書，等を購入した．

◆社会的貢献

①厚生労働科学研究費補助金ひきこもり状態を伴う広汎性発達障害者の家族に対する認知行動療法の効果：CRAFTプログラムの適用協力

②厚生労働科学研究費補助金青年期・成人期発達障がいの対応困難ケースへの危機介入と治療・支援に関する研究（内山班）「精神保健福祉分野における予防と介入方法の検討」分担研究班協力

湯本　誠

◆研究報告

戦後における第2の自殺急増期の雇用動向や企業倒産に関する新聞記事，官庁統計，また研究論文等の基礎資料を収集し整理した．第3の自殺急増期についても，同様の作業を継続中である．いずれも，自殺は増加していないという主張の誤りを裏づける基礎資料の整理という性格をもっている．

◆個人研究費の執行概要

学会費および研究会費，学会と研究会出席の旅費，図書・雑誌等の消耗品の購入，など

◆社会的貢献

江別市社会教育委員，任期：2015～2016年

横山登志子

◆研究報告

主な研究テーマは以下のとおり．研究のキーワードは「ソーシャルワーク」「母子福祉」「精神保健福祉」．

1．生活困難を抱えた母子へのソーシャルワークに関する研究

① 2014年度に札幌学院大学研究促進奨励金の助成をうけて試行した，母子生活支援施設における母親を対象とした「当事者研究」グループを2015年度も8回開催し，実践成果を蓄積した．

② 2015年度から2年間の予定で取得した科研費（挑戦的萌芽）をうけて，DV被害と虐待問題を抱える母子の母親にインタビューを複数回実施し，データ分析を開始した．あわせて，その母子への支援記録の分析も開始した．

2．スクールソーシャルワーカー関連

北海道教育委員会のスクールソーシャルワーカー活用事業エリアスーパーバイザーとして担当エリアの事例検討会や，協議会等に参加し，助言を行った．このほか，

スクールソーシャルワークに関する調査研究の文献収集や，研究会での報告，大阪府立大学研究プロジェクトの研修会参加を行った．

◆個人研究費の執行概要

上記テーマに関する研究活動において，図書費，研究会出張旅費，インタビューへの謝金，実践活動の運営に関する費用（託児等）の謝金，PC 周辺機器の購入，消耗品などで予算執行した．

◆社会的貢献

「平成 27 年度生徒指導研究協議会（スクールソーシャルワーカーの役割と活用のあり方について：講義と演習）」，北海道スクールソーシャルワーカー活用事業，北海道教育庁胆振教育局，2015 年 6 月 10 日，室蘭市．

「平成 27 年度第 1 回スクールソーシャルワーカー連絡協議会」，北海道スクールソーシャルワーカー活用事業，助言者，北海道教育委員会，2015 年 6 月 22 日，札幌市．

「児童会館におけるケーススタディー：ストレングスの視点を用いた支援（講義と演習）1 回目」，さっぽろ青少年女性活動協会，2015 年 7 月 23 日，札幌市．

「平成 27 年度第 2 回苫小牧市不登校問題支援会議」，北海道スクールソーシャルワーカー活用事業，座長，苫小牧市教育委員会，2015 年 8 月 10 日，苫小牧市．

「児童会館におけるケーススタディー：ストレングスの視点を用いた支援（講義と演習）2 回目」，さっぽろ青少年女性活動協会，2015 年 10 月 29 日，札幌市．

「平成 27 年度スクールソーシャルワーカー活用事業地域別研修会」，北海道教育委員会，助言者　2015 年 11 月 2 日，室蘭市．

「平成 27 年度スクールソーシャルワーカー活用事業地域別研修会」北海道教育委員会，助言者　2015 年 11 月 16 日，札幌市．

「ソーシャルワーク実践モデル・アプローチに基づく事例検討会―エンパワメント・アプローチ―」，北海道医療ソーシャルワーカー協会平成 27 年度中央 A 支部事例検討会，2015 年 11 月 20 日，札幌市．

渡 邊 憲 介

◆研究報告

「児童養護施設における短期子育て支援事業」のテーマで，北広島市にある 2 か所の児童養護施設での短期子育て支援事業のショートステイについてまとめたところ，12 月末現在のショートステイの利用件数は，T 園が 3 件 4 名，F 園が 2 件 2 名であった．ちなみに T 園だけでの石狩管内の契約市町村（江別・千歳・恵庭・北広島）のショートステイ利用人数は 24 名・138 日であった．

◆個人研究費の執行概要

通信モバイル WiFi ルーター，PC ソフト（ノートンセキュリティー），シュレッター，レーザーポインターを執行させていただきました．

◆社会的貢献

北広島市子どもの権利条例推進会議委員長・社会福祉法人きたひろしま福祉会理事・社会福祉法人羊ケ丘養護園評議員

渡 邊 知 樹

◆研究報告

・学習指導要領で提唱される「生きる力」を基盤にしたアクティブラーニングのあり方を，小学校国語教育でどのように具現化するのか「国語科指導法」「国語概説」を通して授業の具体を検討した．指導技術のマニュアルに依存しがちな指導法に対し，JJ. ギブソンの提唱する「アフォーダンス」の概念を重視し，教材研究を通した文章構造図作成と学習者研究から子どもの学ぶ過程を明らかにし，教師自らが子どもの理解過程を想定して授業をつくり上げる手続きを明らかにしようとした．そのために，子どもの思考活動を喚起する「板書構造」と子どもの活動を誘発する「教具作成」を学生とともに取り組んだ．

・学校教育現場で抱える諸問題を検討し，将来教員を目指す学生に対して的確な情報を与えられるよう情報収集にあたった．新任教師に「教育的実践力」が強く求められている現在，特に地域に生きる大学として教職に関する知識を伝達するだけではなく，人間的な行動力を身につけるよう学生への指導にあたった．校長，教頭，養護教諭，栄養士，用務員，PTA 会長等の職種の方とともに教育現場の諸課題を学生に伝えた．

・認知行動療法の考え方を「コミュニケーションと子ども発達」の講義に活かすべく取り組んだ．コミュニケーションの基本には学習者研究としての子ども理解が重要と考える．今後も認知行動療法への理解を深め，コミュニケーションのあり方について提言していきたい．

◆個人研究費の執行概要

国語科におけるアクティブラーニング及び認知行動療法の研究会に参加のための旅費，コピー用紙・事務用品などの消耗品に執行した．

◆社会的貢献

・新年度教科書「中学校国語」「美術」採択のための基礎資料作成業務（北海道教育委員会より学識経験者として委嘱）

・札幌市立大倉山小学校学校　学校評議委員

【法学部】

家 田 愛 子

◆研究報告

今年度は①航空自由化と労働者の健康問題，②低賃金労働者と多世帯家族，③大学授業における国際性の学生への涵養のためのスキルの向上研究，の３つのテーマで研究を行った．今後も以上の３つのテーマで研究を継続発展させる．

◆個人研究費の執行概要

学会・研究会への出席のための旅費に主として支出した．他には学会年会費，デジタルカメラ等である．

◆社会的貢献

内閣官房内閣人事局退職手当審査会委員（2016 年度末まで）

北海道労働局労働関係紛争担当参与（H27 年 4 月 1 日～H29 年 3 月 31 日）

伊 藤 雅 康

◆研究報告

①民法の婚外子相続分差別規定に関して 2014 年 1 月に開催された法学部特別講演会での発表をベースに，その後の判例評釈なども参照しながら，同規定に関する 2013 年 9 月の最高裁大法廷決定を検討する論文を完成させ，『札幌学院法学』32 巻 1 号に掲載した．

②大学院在学中からテーマとしている労働者の経営参加については，比較対象国のフランスの現在の制度と理論を研究し，かつ，労働者参加に関する EU 法との相互関係を含めた現代的展開の検討を課題としているが，フランスの労働法・社会保障法専門雑誌の 12 月号に労働者の経営参加の特集が組まれているのに接し，読み進めているところである．

③フランスにおける社会権保障をめぐって，かねてより「諸法の憲法化」という論題のもとでの「労働法の憲法化」の検討を課題としているが，今年度においてはそれに関する作業には取り組めなかった．

④近年，あらたに「立法過程における議会外勢力の関与」，「スポーツ団体の自律と国家」という課題を設定したが，それらについても進捗はなかった．

◆個人研究費の執行概要

①憲法学に関連する各学会の研究総会では，学界における現在の主要な関心に基づいてテーマ設定が行われるので，それへの参加は，学界における理論動向を考えるうえで重要な機会である．またスポーツ法分野については，日本スポーツ法学会の総会ではシンポジウムのほか自由報告として多彩な報告が行われるので，学会員の研究関心を知るうえで重要な機会であるので，それらに今年度も参加した．今年度はそれらのほかに，安全保障関連法案に関するシンポジウム，ヘイトスピーチ規制に関するシンポジウム，ファウルボール訴訟に関する研究会への参加にあたって個人研究費を支出した．

②フランスにおける公法，社会法分野での研究動向を知るための３種類の洋雑誌の購入，および日本の研究動向を知るための和雑誌の購入のために個人研究費を支出した．

③憲法学，スポーツ法学に関連する重要な図書を購入するために，個人研究費を支出した．

◆社会的貢献

・江別市情報公開審査会委員（任期：2014 年 12 月～2016 年 11 月）

・江別市個人情報保護審査会委員（任期：2014 年 12 月～2016 年 11 月）

岡田久美子

◆研究報告

日本の強姦罪等性犯罪に関する規定のあり方について，2014 年に設けられた「性犯罪の罰則に関する検討会」報告書が提出されたため，各論点の検討状況を確認し，評価を行った．これに関連し，各国の性犯罪規定に関し公表された論文等を収集した．

◆個人研究費の執行概要

執行した個人研究費のうち，約 1 割を学会費の支払い，約 2 割を文具およびパソコン備品の購入，約 4 割を洋書の購入，ほかを国内雑誌および図書の購入に充てた．

小 澤 隆 司

◆研究報告

今年度は大正期の法人処罰法制に関する研究成果として法人の役員処罰に関する法律についての研究ノートを札幌学院法学誌上で発表した．今後は大正期の刑事訴訟法改正における法人処罰関連規定の立法過程を実証的に明らかにするとともに，植民地法制を含む同時代の法人処罰法制の展開過程をたどることによって，法人処罰を一つの切り口として，大正期における日本刑事法の再法典化のあり方を検証していく．

◆個人研究費の執行概要

学会・研究会出席のためならびに国会図書館等における調査研究のための旅費，研究上必要な専門文献の購入，その他コピーカード代など．

神 谷 章 生

◆研究報告

先進国における政治・行政比較

◆個人研究費の執行概要

主に旅費に使用した.

小 杉 伸 次

笹 川 敏 彦

◆研究報告

今年度は，次の3つのテーマを中心に研究した．第1に，基準日後株主と株式買取請求権に関して，裁判所が初めて判断を示したセレブリックス事件（東京地決平成25年9月17日）の判例研究を行った．さらに，このテーマについて，従来の学説および後続の裁判例を検討し，論文を執筆した.

第2に，従来から継続中のフランス会社法の全訳作業であるが，第7回の連載では，「会社資本の変更および従業員持株制度」を対象とし，さらに第8回の連載では，「株式会社の監査」,「株式会社の組織変更」,「民事会社」,「労働者参加株式会社」,「株式合資会社」および「簡易株式発行会社」を対象に，法律の部と規則の部を各々翻訳した.

第3に，平成26年の会社法改正に併せて，会社法の教科書を改訂した．報告者の担当部分である組織再編（第5章）については，組織再編一般の差止請求制度の導入，株式買取請求権，詐害的分割における残存債権者の保護等について大幅な改正が行われたので，それらの点を中心に加筆修正した.

今後は，第1のテーマの延長で，公表日後株主の株式買取請求権について検討し，さらに第2のテーマとの関連で，フランスにおける企業結合法制についても研究を進めたい.

◆個人研究費の執行概要

個人研究費の主な使途は，学会・研究会への参加旅費，図書・雑誌の購入費，コピーカード代，インクカートリッジ代などである.

佐 々 木 健

佐藤眞紀世

◆研究報告

今年度は，法学と社会とのつながりを中心に研究活動を行った．今後も引き続き研究を継続したい.

◆個人研究費の執行概要

主な使途は，PC周辺機器，文具購入費用などである.

嶋 田 佳 広

◆研究報告

ドイツ社会保障法における給付構造の研究

◆個人研究費の執行概要

洋書，洋雑誌，加除式など，取得難度の高いものを中心に執行した.

◆社会的貢献

・余市町自治基本条例策定委員会アドバイザー（2013年8月～）

・地方公務員災害補償基金札幌市支部審査会委員（2014年10月～）

清 水 敏 行

◆研究報告

1．韓国政治について．ここ10年ほどの市民社会の変化について研究しており，今後も継続する．またこれから2年ほど韓国は選挙の年になるので，政党再編と選挙結果についても，地域主義の持続と変化を中心に調査研究する.

2．民主化以降における台湾における市民社会，政治について調査し，韓国との比較研究を試みる．そのために2015年度に台湾に調査に出向いた.

＊上記1と2については，科学研究費基盤研究Cの助成も受けている.

3．沖縄の政治について，基地問題（普天間移転）をめぐる知事と住民の対立の政治的可能性を中心に研究する．2015年度に沖縄に調査に出向いた.

4．韓国，台湾，沖縄の三つの地域の政治について共通するテーマを見出し比較研究できる視点を作ること.

◆個人研究費の執行概要

沖縄，中標津の出張旅費．台湾の出張旅費．図書の購入．タブレットの購入．PCソフトの購入.

田 處 博 之

◆研究報告

生活妨害の差止めや損害賠償の請求での違法性判断において先住後住関係に意味をもたせるべきかどうかまたそのあり方について，ドイツ・イミッシオーン法を参考に取りまとめを進めるとともに，過失による詐欺の問題についても引き続き検討を進めている.

◆個人研究費の執行概要

雑誌，図書やパソコンサプライ品の購入，資料収集などにあてた.

千 葉 寛 樹

◆研究報告

相続税の課税範囲拡大に関して，社会の関心が高く，各所にて講演等の依頼があったので独自レジュメを各種統計と基に作成し講演等を行った．

西 尾 敬 義

◆研究報告

研究テーマ：①一般的長期的テーマとしては，現代民主政治の阻害要因および促進要因についての研究，②個別的中期的テーマとしては，国民投票および住民投票の研究，③個別的短期的テーマとして，地方自治の諸問題，特に地方議会政治の課題と展望について．

進捗状況：①の現代民主政治の阻害要因および促進要因の研究についても，②の国民投票および住民投票の研究についても，資料収集に力点を置いて研究継続中である．③については関連資料の収集に努めるとともに，地方政治の諸相を観察してきたが，残念ながらまだ準備段階で執筆までに至っていない．

今後の計画としては，①に関連する膨大な書籍・論文の読み込みに力点を置く．また，古代の民主政治に立ち返って，プラトンの政治思想にも取り組んでみたい．

◆個人研究費の執行概要

今年度の個人研究費については，ほぼ例年と同じく，主に，①現代民主政治・民主主義理論・地方政治行政などの政治学の専門領域および法学・経済学・社会学などの政治学の周辺領域の書籍・雑誌文献の購入，②研究活動を継続させたり，その効率化を図ったりするうえで必要な電子機器類，各種消耗品の購入，③その他：学会出張旅費宿泊費，学会年会費，に充当した．

松 本 祥 志

◆研究報告

国際法の視点から西サハラ紛争を研究することを柱に，そこから，ティンドゥフ・キャンプにおける難民への人道援助がアルジェリア高官やポリサリオ戦線幹部によって長期間にわたり横領されていた問題について，UNHCR の監査報告書や EU の調査報告書を基に研究した．また，「イスラム国」機構によるテロに対する対策について研究した．

◆個人研究費の執行概要

海外出張のために執行したのがほとんどである．

向　　裕 加

◆研究報告

対人関係療法や動機づけ面接法，認知行動療法など，学生相談場面における活用が期待できる心理療法についてのトレーニングを行い，実際の心理面接場面での有用性とその効果について検討した．また，産業場面における労働者のメンタルヘルスやカウンセリング効果についての研究も継続中である．

◆個人研究費の執行概要

個人研究費の主な使途は，研修会出席のための旅費，研修会費，学会年会費，PC の周辺機器や消耗品等の購入である．

【社会情報学部】

石 井 和 平

◆研究報告

今年度は，従来からの研究の継続で，「再生可能エネルギーと地域発展に関する研究」及び「商店街の再生に関する研究」をベースに，現地調査を行った．今年度は，九州北部（福岡県等）へと調査地を拡大したが，次年度は，地域に学ぶという視点から教育と地域発展についての理論的考察も併せて行う予定でいる．

◆個人研究費の執行概要

個人研究費の主たる使途は，研究調査およびシンポジウム参加に関わる旅費と PC の周辺機器の購入である．

◆社会的貢献

・シンポジウム「北海道におけるバイオ村の可能性」主催
・北海道自治体学会運営委員
・江別シティプロモート推進協議会メンバー

大 國 充 彦

◆研究報告

科研費分担金（中大科研）による炭鉱主婦会・炭婦協幹部の方の聞き取り調査，夕張資料の整理を継続した．

並行して，地域活性化の一環としてのまち活動の調査を行い，北海道岩見沢地区の地域形成史のための予備調査を行った．

◆個人研究費の執行概要

夕張資料整理のための謝金，まち活動調査の出張旅費を中心に，学会参加費等に執行した．

◆社会的貢献

キャンパス･セクシュアル･ハラスメント全国ネットワーク北海道ブロック講演会「大学のセクシュアル・ハラスメントはなぜなくならないのか？～問題の現状と解決への課題」2015 年 11 月 14 日，札幌市男女共同参画センター，開催．

太 田 清 澄

◆研究報告

理論と実践の有機的な融合を基軸として，研究・地域貢献・教育を担ってきた．具体的には，①大麻団地において積み上げてきた構想を具現化させる為に，（一社）まちづくり会社の設立を誘導．②産炭地域の地域再生実践プロジェクトの継続的展開の主軸として機能　等の活動を展開してきた．

◆個人研究費の執行概要

地域再生（活性化）の事例研究のため，国内外のフィールド踏査に支弁した．

◆社会的貢献

日本都市計画学会・北海道支部・支部長（～5 月末）現在同学会・会長アドバイザリー会議委員
北海道都市地域学会・監事
北海道住宅公社・理事
北広島市・都市計画審議会・会長
江別市・安心生活まちづくり推進事業運営協議会・会長
NPO 法人　FIT 北海道会議・理事長

小 内 純 子

◆研究報告

①先住民族メディアに関する調査とまとめ作業を行った．フィンランドのサーミ・メディアに対する調査を実施し，報告書にまとめた．アイヌ民族のメディアに関しては，新ひだか町，伊達市，白糠町の調査結果について比較検討し報告書にまとめた．
② 2015 年度の札幌学院大学研究促進奨励金を得て「被災地および避難先における女性グループの活動とその意義ついての実証的研究」に取り組んだ．
③ 2015 年度から科研費を得て「農山村における新しいソーシャル・サポート・システム構築に関する研究」に着手し，北海道十勝地方，および秋田県横手市の調査に着手した．

◆個人研究費の執行概要

個人研究費の主な使途は，調査旅費，学会出張旅費，学会費，書籍購入である．

◆社会的貢献

北海道開発局河川協力団体委員会　委員　2014 年度から
札幌市市民まちづくり活動促進テーブル委員会　委員　2014 年度から
北海道女性・高齢者チャレンジ活動審査委員会　委員長　2014 年度から
北海道住宅対策審議会　専門部会委員　2015 年度から
江別市男女共同参画審議会　委員長　2015 年度から

◆受賞歴（参考）

地域社会学会賞，対象図書：「スウェーデン北部の住民組織と地域再生」，受賞者：小内純子・大野　晃，東信堂，2012 年 3 月刊，2013 年 5 月受賞．

小 池 英 勝

◆研究報告

学内の 2015 年度「FD を推進するための活動補助」を獲得し，携帯情報端末を利用した FD 推進する手段とし

て，携帯端末アプリケーション（以下アプリ）の開発のための研究を行った．この目的には，アプリ開発によって本学の情報通信環境を改善すると同時に学生を開発に参加させることによって情報に強い学生を発掘し育てることが含まれる．今年度は，アプリが多様な携帯情報端末で動作し，開発を容易にするためにアプリに代わってWeb上に分散する情報を取得しアプリが扱いやすい形式に変換するサーバを開発した．このことによって，学生はアプリ本来の機能の開発に注力できるようになった．この開発はこれからのアプリ開発の一連の活動の基盤になるもので大きな成果であると考える．既に，本学の学生発案プロジェクトや社会情報学部の卒業研究でその成果が活かされた．文系の学生に対して，社会が要請する情報技術をどのように習得させるかは，教育的観点からも情報工学の観点からも重要な課題である．その課題に取り組むにあたって，アプリ開発での学生に対する指導や情報系の講義で扱う内容に社会の要請を反映させる目的で，情報系の国家試験であるITパスポート試験とネットワークスペシャリスト試験に受験し合格した．受験に先立って問題の出題範囲を確認することで，要求される情報技術者としての能力と問われる内容を確認した．また，実際に受験することによって学生に資格試験についてのより具体的なアドバイスができるようにした．また，試験に合格することにより，指導する立場として社会が要請する技術者としてのレベルに到達していることを確認した．

本学の研究促進奨励金を獲得し「計算機リソースの効率的な活用に関する研究」というタイトルの研究を行った．近年GPUの汎用性が高まり，CPUとGPUはより密に連携するようになってきた．本研究では，NP困難なクラスに属する問題にGPUを用いて取り組んだ．GPUを用いた処理の効率に関する検証やCPUを用いた既存のプログラムとの性能差等を比較した．今回予算で購入した機器を用いて，GPUによる計算の柔軟性が大きく改善していることを確認し，今後の本格的なシステム開発に必要な技術と知見を得た．ただし，現状ではメモリ帯域の問題があり，対象にしている問題の計算効率を大幅な改善するには，次年度リリースされる見込みの次世代アーキテクチャGPUの登場を待たなければならないことがわかった．

◆個人研究費の執行概要

主に，コンピュータの本体と周辺機器そしてソフトウェアの購入に用いた．

◆社会的貢献

等価変換計算モデルに基づくプログラミング言語ETIの公開，http://ext-web.edu.sgu.ac.jp/koike/eti/

櫻 井 道 夫

◆研究報告

1．環境と人間の生活についての生態学的考察

2．生命とは何か―進化学的探究

ヒトの地域的集合体，例えば集落，沖縄ではシマという共同体とそれを取り巻く自然環境と人為的環境との相互作用と適応に関する研究．「島嶼地域沖縄の商品流通・廃棄と地域経営」というテーマで個人的，あるいは共同研究で調査を行ってきたが，しばらく講義の準備その他，諸般の事情のため中断状態にあった．2年前には12年ぶりに八重山に出向いてみたが，昨年および今年とも現地調査を果たせずにすぎてしまった．

在宅研究の題目に　①沖縄離島の環境と生活，②自然人類学講義のための人類の進化と生態学を掲げその追究に取り組みたいと考えてきた．②のテーマは講義のことは別にして，ずっと追究してきた「生命とは何か―進化学的探究」の一環であるけれども，近年自然人類学研究の中心をなしている領域は「分子人類学」ともいうべきものに様変わりしている．つまり「分子進化」によってヒトの生物学的な成り立ちを探ろうという研究領域が拡大している．「ヒトゲノム解読」以来の文献の数は夥しく，追いつけないほどである．これらを今行っている講義に少しは取り入れているつもりであるが，進化およびヒトの起源についてその講義でどう理解されたのか調べてみた．これによって，講義を改善しようとしたが，うまくいったとは言えない．

◆個人研究費の執行概要

個人研究費の多くは，講義関係の図書・雑誌の購入と資料の収集，消耗品の購入に使われる．

分子生物学，遺伝学，生態学，進化学，人類学関係および環境学・食糧農業水産関係の図書・雑誌に約20万．

日本生態学会，個体群生態学会，日本動物行動学会，日本社会学会他，学会費に約5万．これらに加えてパソコンソフトに約3万円．

佐 藤 和 洋

◆研究報告

1．研究テーマと進捗状況

SODASという柔らかい（知的）DBシステムのシステムアーキテクチャを提案し，今後のDBシステムのあり方について検討している．提示アーキテクチャ実現のために，下記のサブテーマを設定して具体的に調査および開発研究を継続している：

①柔らかいDBシステムの研究：

・SODASシステムアーキテクチャの詳細化（問合せ言語，DB構造，実装方式）を検討中．

②ジャンクデータベースシステムの研究：マルチデータ型属性ベース DB システム

・SODAS の発展形として，個人ビューを核とした属性ベースのジャンクデータ管理体系の構築と実装方式，及びその応用形態について検討中.

③フォークソーシング＆フォークコンピューティングの構想

・Web 情報環境の下での様々な情報活動を“個”を中心とした社会情報システム論として捉え，その核をフォークソーシング＆フォークコンピューティングとして展開する基本的な在り方につい検討を進めている.

2．今後の構想

上記研究を通して，個人（パーソナル）とその集団のコンピューティング環境を支援する情報環境 DB システムの検討を進める予定である.

◆個人研究費の執行概要

1．第 161 回 DBS・第 119 回 IFAT 合同研究発表会，FIT2015，及び日本医療情報学会各大会への技術・研究動向調査出張費支出.

2．国内学会（情報処理学会，社会情報学会，日本医療情報学会，他）及び国外学会（米国 IEEE CS，他）の年会費支出.

3．研究教育環境整備のためにタブレット PC，周辺機器，消耗品等の購入.

高田　洋

◆研究報告

①社会階層と民主主義に関する研究，文献研究，データ分析.

②計量分析の方法論的研究，文献研究.

③社会調査法の方法論的研究，文献研究.

④統計分析ソフトウェア，数理解析ソフトウェアの研究.

⑤階層と社会意識（SSP）プロジェクトへの参加，研究会への参加.

⑥ 2015 年社会階層と移動（SSM）調査への参加

◆個人研究費の執行概要

①学会費，学会参加費　約 10 万円

②学会・研究会出張旅費　約 10 万円

③ソフトウェア，文房具，郵送料，印刷費など　約 20 万円

④書籍　約 5 万円

◆社会的貢献

①社会情報学会理事

②北海道社会学会監事，研究委員

③日本行動計量学会大会実行委員

④社会情報学会大会実行委員

早田和弥

◆研究報告

(1)　短歌韻律の実証的研究

(2)　高精細マンダラ描画法の確立

◆個人研究費の執行概要

(1)　アルバイター給与

(2)　画材購入，カラーコピー

皆川雅章

◆研究報告

2015 年度は，次の 3 つのテーマについて，これまでの研究を継続した.

①初年次におけるノート作成指導方法と，デジタル化したノートの修学指導活用

②聴覚障がい学生の講義情報保障支援を ICT を用いて行う方法の検討と実践

③民具資料，特にアイヌ衣服の文様特徴の研究と，そのデジタルアーカイブ化

①については初年次および 2 年次の CUP 科目において毎週，ノート作成の添削・指導を行い，その効果と継続性の検証を行った．②については，ノートテイカー学生との協働で，実際の教室環境における音声認識ソフトおよび機器の利用可能性の評価を行い，実用化に向けた取り組みを行った．③については，画像の撮影段階も含めたデジタル化の検討に着手した．今後も上記の①，②，③について研究を行うとともに，ICT を活用した教育実践を継続する.

◆個人研究費の執行概要

個人研究費は，主に学会・研究会参加費，消耗品の購入に使用した.

森田　彦

◆研究報告

今年も 1998 年より続けているイタリア，ペルージャ大学原子核理論研究グループとの共同研究を進めるため，8 月にペルージャ大学に滞在し集中的に研究打ち合わせを行った．今回は，ここ数年続けている核内核子相関の特徴を，1 核子および 2 核子運動量分布を通じて明らかにする研究をまとめることを目指した．核子相関については理論計算の進歩と実験技術の進展により，単なる理論解釈ではなく，データを通じて検証できるレベルに達しつつある．理論面では欧米の幾つかのグループで厳しい競争が続けられているが，我々は現状の到達点とでもいうべき包括的な理論分析を最初に提示する事を目標としている．8 月の集中議論により，必要とされる理論計算は出揃ったが，秋以降，理論精度の検証やそこか

ら導き出せる結論について，つまりどこまで確定的に述べることができるのかについて共著者間で議論を続けている．上で述べたように複数のグループで競っているので，万が一不確かな点を発表してしまうと，信用を失ってしまうので，慎重に議論をまとめているところである．そして，この春の論文投稿を予定している．

◆個人研究費の執行概要

個人研究費の主要な支出は，共同研究先であるイタリア・ペルージャ大学への旅費で，これに約 37 万円支出した．また，大規模な数値計算を行うことから北大情報基盤センターの計算機を利用している．この年間使用料として例年通り約 6 万円支出した．

著書・論文等の執筆

【経営学部】

赤 羽 幸 雄

◆講演等に関する記録

（講演会）

「守りから攻めへ　IT 利活用が可能性を拡げる」，一般財団法人さっぽろ産業振興財団, 北海道経済センター，札幌，5 月 26 日㈫.

「中小企業・小規模事業者のマイナンバー制度の導入支援について」，札幌商工会議所，北海道経済センター，札幌，9 月 3 日㈭.

「攻めの IT ／守りの IT」，一般財団法人さっぽろ産業振興財団，北海道経済センター，札幌，11 月 4 日㈬.

石 川 千 温

◆著作物（書籍や辞典項目など）の分担執筆

（テキスト）

小池英勝・中村永友・石川千温,「学生・社会人のための Word Excel Powerpoint」，札幌学院大学生活協同組合，2015 年 5 月，江別市，pp.169-212.

◆論文・研究ノート

（研究ノート）

中村永友・松井祐介・石川千温・渡邊慎哉・小池英勝,「情報教育課題合格ログデータによる受講生の類型化」，札幌学院大学総合研究所紀要，第 3 巻，pp.1-5, 2016 年 3 月.

◆講演等に関する記録

（研究会講演）

「クラウド時代のアクティブラーニング―アクティブラーニングに ICT は役に立つか―」，私立大学キャンパスシステム研究会第 6 分科会，立命館大学茨木キャンパス，大阪，2015 年 10 月 8 日.

「理工系座学におけるアクティブラーニング導入について」, 金沢大学第 5 回機械工学類 FD 研究会, 金沢大学，金沢，2015 年 12 月 15 日.

（シンポジウム講演）

「大学のクラウドサービス利用の問題点（仮称）」，広島大学情報メディア教育研究センター，広島大学，広島，2016 年 3 月 25 日.

碓 井 和 弘

◆論文・研究ノート

（論文）

「マーケティング研究と行動観察」，札幌学院大学総合研究所シンポジウム・ブックレット『マーケティングと行動経済学のコラボレーション』，シンポジウム・ブックレット（No.8），pp.4-16，2016 年 2 月.

◆講演等に関する記録

（講演）

「マーケティング研究と行動観察」，札幌学院大学総合研究所，札幌学院大学，江別市，2015 年 11 月 7 日.

河 西 邦 人

◆講演等に関する記録

（企業講演）

「ソーシャルビジネス事業継続のポイント」，日本政策金融公庫釧路支店，釧路市民活動センターわっと，釧路市，2015 年 9 月 18 日.

「地域課題解決のために社会的企業ができること」，日本政策金融公庫札幌支店，TKP 札幌カンファレンスセンター，札幌市，2015 年 11 月 10 日.

「マーケティング視点による観光振興」，（公財）北海道観光振興機構，札幌経済センター，札幌市，2016 年 3 月 8 日.

北 林 雅 志

◆論文・研究ノート

（書評）

「Hubert Bonin, Nuno Valério, and Kazuhiko Yago eds *Asian Imperial Banking History*」，経営史学，50 巻 4 号，pp.37-40，2016 年 3 月 25 日.

兒 玉 敏 一

◆講演等に関する記録

（出前講義）

「動物園から学ぶ経営学」，札幌山の手高校，札幌市，2015 年 11 月 9 日.

佐 々 木 冠

◆著書

（共著）

中村　渉・佐々木冠・野瀬昌彦「認知類型論」，くろしお

出版，2015 年 10 月 1 日，東京

◆著作物（書籍や辞典項目など）の分担執筆

（書籍）

Hideki Kishimoto, Taro Kageyama & Kan Sasaki, Valency classes in Japanese, Valency Classes in the World's Languages Volume 1: Introducing the Framework, and Case Studies from Africa and Eurasia, Andrej Malchukov & Bernard Comrie, Mouton de Gruyter，2015 年 9 月 25 日，Berlin，pp. 765-806.

佐々木冠・當山奈那,「日本語族における他動性交替の地域差」，有対動詞の通言語的研究，パルデシ・プラシャント　ナロック・ハイコ　桐生和幸，くろしお出版，2015 年 12 月 7 日，東京，pp.43-73.

◆講演等に関する記録

（市民講演会）

「「北海道の方言」の特性を探る」，白樺町内会福祉部，青葉会館，厚別区，2016 年 1 月 21 日.

玉 山 和 夫

◆論文・研究ノート

（論文）

「株式・債券・商品市場のブラック・スワン」，札幌学院大学経営論集，No.8，pp.1-23，2015 年 8 月 31 日.

「日本企業の低収益と低株式リターン」，札幌学院大学経営論集，No.9，pp.1-14，2016 年 2 月 15 日.

◆講演等に関する記録

（講演）

「株とバクチはどう違うの？」，江別市教育委員会，札幌学院大学，江別市，2015 年 11 月 14 日.

原　　晴 生

◆論文・研究ノート

（研究ノート）

「不正会計：不適切な会計処理等，３社の事例」，札幌学院大学経営論集，Vol.8，pp.25-36，2015 年 8 月 31 日.

三 好　　元

◆論文・研究ノート

（論文）

「1960～70 年代における韓国の中小企業金融政策と中小企業の地位の変化」，アジア経営研究，第 21 号，pp. 111-124，2015 年 8 月，査読有.

「信用組合の今後の経営戦略の方向性」，しんくみ研究会，第 5 号，pp.15-46，2015 年 4 月，委託研究.

山 本　　純

◆講演等に関する記録

（シンポジウム報告書）

「経営学部における調査系科目展開の一事例―商学調査実習から地域貢献プロジェクト実践へ―」，札幌学院大学社会情報学部，札幌学院大学，北海道江別市，2015 年 11 月 21 日，発行は 2016 年 2 月 3 日，pp.3-16.

【経済学部】

浅 川 雅 己

◆論文・研究ノート

（書評）

「「余白」への書き込みは続いていた―初期の限界を克服していくマルクスの姿勢（ケヴィン・B・アンダーソン『周縁のマルクス』社会評論社）」，図書新聞，3215 号，2015 年 07 月 13 日.

「佐々木隆治著『マルクスの物象化論―資本主義批判としての素材の思想』（社会評論社，二〇一二年）」，『唯物論』（東京唯研機関紙），89 号，2015 年 11 月.

井 上　　仁

◆論文・研究ノート

（ディスカッションペーパー）

Yuzo Honda and Hitoshi Inoue, Three Alternative Hypotheses on the Yen-Dollar Exchange Rate Over the Last 30 Years, Discussion Papers In Economics And Business, Graduate School of Economics and Osaka School of International Public Policy (OSIPP), Osaka University, 15-15，2015 年 6 月.

立花　実・井上　仁・本多佑三「量的緩和策の銀行貸出への効果」，Discussion Paper New Series，School of Economics，Osaka Prefecture University，No.2016-2，2016 年 3 月.

佐 々 木 達

◆論文・研究ノート

（論文）

「北海道における畑作地域の構造再編と地域経済の課題」，経済地理学年報，第 61 巻，pp.3-19，2015 年 4 月，査読有.

（研究ノート）

蘇徳斯琴・佐々木達「中国内モンゴル自治区におけるプロジェクト制農村開発に関する研究」，札幌学院大学経済論集，第 8 号，pp.13-28，2015 年 9 月.

（雑報）

「地域経済における「稼ぐ力」としての農業」，農中総研調査と情報，第 50 号，pp.20-21，2015 年 9 月

「地域経済分析とフィールドワーク」，社会情報学部シンポジウム報告書，pp.17-25，2016 年 2 月.

白 石 英 才

◆著書

（共著）

白石英才・Nadezhda Bessonova，『ニヴフ語音声資料 12』，札幌学院大学，H.27.12.31，江別市.

◆著作物（書籍や辞典項目など）の分担執筆

（辞書）

「lenition，iambic reversal ほか」，『英語学・言語学用語辞典』，中野弘三ほか，開拓社，H.27.11.25，東京，約 2 ページ.

（論文集）

白石英才・Bert Botma, Writing Practices in Nivkh, *Globalising Sociolinguistics*, Dick Smakman and Patrick Heinrich, Routledge，H.27.6.5，ロンドン，14 ページ.

土 居 直 史

◆論文・研究ノート

（ディスカッションペーパー）

Naoshi Doi and Hiroshi Ohashi, An Airline Merger and its Remedies: JAL-JAS of 2002, RIETI Discussion Paper, 15-E-100，2015 年 8 月.

（研究ノート）

「日本の航空産業の概況」，札幌学院大学経済論集，第 10 号，pp.29-44，2015 年 10 月.

中 村 永 友

◆著作物（書籍や辞典項目など）の分担執筆

（教科書）

小池英勝・中村永友・石川千温，「学生・社会人のための Word Excel PowerPoint」，札幌学院大学生活協同組合，2015.5，江別市.

◆論文・研究ノート

（研究ノート）

中村永友・石川千温・渡辺慎哉・小池英勝，「情報教育課題合格ログデータによる受講生の類型化」，札幌学院大学　総合研究所紀要，3，pp.1-6，2016.3.

中村永友，「混合正規分布の成分数推定に関する数値的検証」，札幌学院大学　総合研究所紀要，3，pp.7-15，2016.3.

中村永友・土屋高宏，「潜在変数を含む統計モデルにおけるパラメータ推定法」，札幌学院大学　総合研究所紀要，3，pp.17-22，2016.3.

平 澤 亨 輔

◆講演等に関する記録

（市民講演会）

「人口減少社会の中の北海道」，札幌学院大学，社会連携センター，札幌，2015 年 10 月 9 日.

山 田 智 哉

◆論文・研究ノート

（学術研究論文）

Tomoya Yamada Megan M. Romer, Donald St. P. Richards Kurtosis tests for multivariate normality with monotone incomplete data, An Official Journal of the Spanish Society of Statistics and Operations Research, 24-3, pp.532-557，2015 年 9 月，査読有.

【人文学部】

井 手 正 吾

◆論文・研究ノート

（論文）

本多　悠・井手正吾，「MMPI 疎外感尺度の基礎的研究」，札幌学院大学心理臨床センター紀要，15 号，pp. 11-23，2015/7，査読有.

山田威仁・本多　悠・井手正吾・武藤福保，「睡眠関連摂食障害患者の心理的特性」，臨床精神医学，第 44 巻第 10 号，pp.1411-1419，2015/10，査読有.

伊 藤 克 実

◆論文・研究ノート

（書評）

「大阪保育研究所編『集団づくりの〈見取り図〉を描く』」，北海道の臨床教育学，第 4 号，pp.71-72，2015 年 9 月.

臼 井　　博

◆論文・研究ノート

（論文）

「小学校から中学校への学校間移行の学校適応と学習動機に対する影響(5)―小学校 3 年から 6 年生の予測：縦断的研究―」，札幌学院大学人文学会紀要，98 号，pp.63-81，2015 年 10 月，査読有.

「小学校から中学校への学校間移行の学校適応と学習動機に対する影響(6)―小中学校の学級の目標構造の安定性と翌年の学業動機や学校適応感に対する影響―」，札幌学院大学人文学会紀要，99 号，2016 年 2 月，査読有.

「教育心理学（半期）の授業効果：授業開始時と終了時の重要概念に関する知識の変化」，札幌学院大学総合研究所紀要，第 3 巻，2016 年 3 月.

（雑報）

「最近の子どもの読書傾向―小中学生の読書調査から―」，SGU 教師教育研究，第 29 号，p.1，2015 年 3 月.

「子どもが伸びるとき―動機づけの心理学から―」，北海道高等学校長協会会誌，第 52 号，pp.76-97，2015 年 5 月.

「中学生，熱く未来を語る」，札幌手稲ロータリークラブ 45 周年記念誌，pp.18-19，2015 年 6 月.

◆講演等に関する記録

（講演会）

「子どもが伸びるとき―動機づけの心理学から」，北海道高等学校長協会，ホテルライフォート札幌，札幌市，

2015 年 1 月 7 日.
（講習会）
「青年の心理」，メンタルケア協会，北海道大学国際交流会館，札幌市，2015 年 4 月 26 日.
（コメンター）
臼井　博ほか「中学生の夢」，札幌手稲ロータリークラブ，教育文化会館，札幌市，2015 年 5 月 9 日.

臼杵　勲

◆著書
（単著）
「東アジアの中世城郭　女真の山城と平城」，吉川弘文館，2015 年 5 月 20 日，東京.

内田　司

◆論文・研究ノート
（論文）
「竹富島におけるツーリズムの展開と新来住者たちの移住物語(2)」，札幌学院大学人文学会紀要，98 号，pp. 41-62，2015 年 10 月，査読有.

大澤真平

◆著作物（書籍や辞典項目など）の分担執筆
（白書）
「さっぽろ　子ども・若者白書」をつくる会，「子どもの福祉，その背景と現状　―『子どもの貧困』を中心に―」，『さっぽろ　子ども・若者白書』，「さっぽろ　子ども・若者白書」をつくる会，2016 年 3 月 31 日.
◆講演等に関する記録
（市民講演会）
「子どもの貧困と社会的支援の現状と課題」，北海道高等学校教職員組合連合会，北海道高等学校教職員センター，札幌市，2015 年 5 月 30 日.
「子どもの貧困問題を考える」，未来のニセコを拓く会／公益財団法人北海道女性協会，ニセコ町民センター，ニセコ町，2015 年 11 月 8 日.
（団体懇談会）
「拡大する子どもの貧困　その背景を考える」，公益財団法人北海道青少年育成協会，かでる 2・7，札幌市，2016 年 2 月 10 日.

大塚宜明

◆論文・研究ノート
（論文）
大塚宜明・金成太郎・矢原史希・鶴丸俊明，「置戸後藤採集とされる細石刃石器群関連資料の検討―置戸黒耀石原産地研究の視点―」，石器文化研究会，21 号，pp. 3-15，2016 年 1 月 30 日.
「日本列島中央部における AT 下位石器群の地域化とその背景―ナイフ形石器製作技術および石材利用の分析から―」，国立歴史民俗博物館研究報告，第 200 集，pp. 1-35，2016 年 3 月 31 日，査読有.

岡崎　清

◆論文・研究ノート
（論文）
Kiyoshi Okazaki, “John Steibeck and Frank Norris”, *Steinbeck Studies*, Vol.38, pp.12-14. 日本スタインベック学会，2015 年 5 月，査読有.

葛西俊治

◆著書
（共著）
久保隆司編著『ソマティック心理学への招待』，第 7 章 葛西俊治「ダンスからの身体心理療法」，pp.145-158，2015，コスモス・ライブラリー.

川原茂雄

◆論文・研究ノート
（論文）
「『生活指導』とは何か(1)」，SGU 教師教育研究，第 30 号，pp.2-8，2016 年 3 月 10 日.

北田雅子

◆講演等に関する記録
（学会講演）
「禁煙治療セミナー～動機づけ面接の基礎～」，日本禁煙学会，熊本市国際交流会館，熊本，2015 年 11 月，研修スタイル.

木戸　功

◆著作物（書籍や辞典項目など）の分担執筆
（辞典）
「「社会問題化する高齢化社会」「高齢者福祉施設」「認知症」「地域福祉」」，現代家族ペディア，比較家族史学会，弘文堂，2015 年 11 月 15 日，東京，p.206，208，209.

小 出 良 幸

◆論文・研究ノート

（論文）

「火成岩のマグマ生成における化学的多様性の形成について」，札幌学院大学人文学会紀要，98，pp.1-39，2015年10月，査読有.

「深海底堆積物と層状チャートの成因について」，札幌学院大学人文学会紀要，99，pp.17-39，2016年2月，査読有.

（雑報）

「Book Review『科学の深淵に誘う人々』」，日経サイエンス，534巻，pp.131-133，2015年12月1日.

児 島 恭 子

◆著作物（書籍や辞典項目など）の分担執筆

（書籍）

「第1セッションの成果と課題」，歴史をひらく：女性史・ジェンダー史からみる東アジア世界，早川紀代・秋山洋子・伊集院葉子・井上和枝・金子幸子・宋連玉　編，お茶の水書房，2015年6月30日，東京，pp.75-83.

◆論文・研究ノート

（雑報）

「アイヌ語地名と神話・伝説」，地名と風土，9，pp.86-92，2015年11月15日.

眞 田 敬 介

◆著作物（書籍や辞典項目など）の分担執筆

（辞書）

「翻訳項目：①Cの項一部（corset～count1）　②Gの項全部」，オックスフォード英単語由来大辞典，澤田治美（監訳），柊風舎，2015年12月25日，東京，①pp.235-237　②pp.417-451，分担翻訳.

塩 見 啓 一

◆著書

（監修）

西　博志，「初めての手作り科学おもちゃⅢ」，アリス出版，平成26年3月，東京都.

◆著作物（書籍や辞典項目など）の分担執筆

（共著）

塩見啓一・西　博志，「私の授業が変わった子の出来事」，理科の教育12号，日本理科教育学会，東洋館出版，平成27年12月15日，東京都，pp.34-35.

◆論文・研究ノート

（論文）

塩見啓一・西　博志，「手作り科学おもちゃを活用した生活科における授業の改善」，北海道特別支援教育研究，第8巻第一号，pp.31-40，2015年3月，査読有.

◆講演等に関する記録

（校内研究会）

「特別支援教育の現状と特別支援学校の今後の役割」，北海道伊達高等養護学校，伊達高等養護学校，伊達市，平成27年11月27日.

菅 原 秀 二

◆論文・研究ノート

（雑報）

「ヨーロッパ（近代―イギリス）」，史学雑誌，第124編第5号，pp.330-333，2015年5月20日.

杉 山 四 郎

◆講演等に関する記録

（市民講座）

「アイヌ民族の碑が訴えていること　その3」，札幌学院大学コミュニティカレッジ，札幌学院大学社会連携センター，札幌，5/20・5/27・6/3（3回）.

土渕美知子

◆著書

（共著）

高玉和子・和田上貴昭，『保育を学ぶ人のための社会福祉』，大学図書出版，2016年3月（予定），東京都，（第15章を担当）.

◆講演等に関する記録

（研修会）

「社会的養護を担う児童福祉施設長研修会（西日本）」，（社福）全国社会福祉協議会，大阪ガーデンパレス，大阪市，2015年9月3日，シンポジスト.

「社会的養護を担う児童福祉施設長研修会（東日本）」，（社福）全国社会福祉協議会，全社協灘尾ホール，東京都，2015年12月3日，シンポジスト.

「平成27年度北海道児童養護施設等基幹的職員研修会」，北海道，札幌市，札幌市児童福祉総合センター，札幌市，2016年1月26日.

釣　晴彦

◆論文・研究ノート

（研究論文）

共著「実用英語教育」，SPELT，第5号，30P，2015年12月30日，査読有.

◆講演等に関する記録

（学会講演）

「学校運営の課題」，英語教育学会，北海道教育大学，札幌市，2015年5月31日.

（市民講演）

「小・中・高の教育課題」，千歳市教育委員会，千歳市公民館，千歳市，2015年9月13日.

（管理職講演）

「小・中・高の教育展望」，退職校長会，かめやホテル，千歳市，2015年12月6日.

寺岡眞知子

◆論文・研究ノート

（論文）

神林真理・寺岡眞知子「保育環境の効果的展開に関する一考察―絵本コーナーからの分析―」，函館大谷短期大学紀要，第32号，pp.1-10，2016年3月.

中野英子

◆論文・研究ノート

（書評）

「ポーリン・ボス著『あいまいな喪失とトラウマからの回復』」，『家族療法研究』，第32巻第3号，pp.314-315，2015年12月25日，日本家族研究・家族療法学会.

◆講演等に関する記録

（カウンセラー研修）

「家族療法の活用について」，函館カウンセリング協会，函館市総合保健センター，函館市，2015年9月12日

（福祉職研修会）.

「現場の支援者としての視点―家族療法から学ぶ―」，登別市社会福祉研究会，登別市総合福祉センター，登別市，2015年10月9日.

（家族会）

「精神障碍者への家族の対応について」，こころのリカバリー総合支援センター　リラの会，札幌市，2016年2月17日.

二通　諭

◆著書

（単著）

「特別支援教育時代の光り輝く映画たち」，全障研出版部，2015.8.9，東京.

◆著作物（書籍や辞典項目など）の分担執筆

（書籍）

「発達障害とひきこもり―オーダーメイドの支援」，ひきこもる心のケア，村澤和多里・杉本賢治，世界思想社，2015.8.31，京都，pp.116-130.

（キーワードブック）

「個別の教育支援計画」，キーワードブック特別支援教育，玉村公二彦・清水貞夫・黒田　学・向井啓二，クリエイツかもがわ，2015.4.30，京都，pp.72-73.

「個別の指導計画」，キーワードブック特別支援教育，玉村公二彦・清水貞夫・黒田　学・向井啓二，クリエイツかもがわ，2015.4.30，京都，pp.74-75.

◆論文・研究ノート

（論文）

「生育途上の『不適応』を抱えた大学生を支えたものと新たな困難への支援ニーズ」，教師教育研究，第29号，pp.7-16，2015.3

（雑報）

「映画で愛着障害・発達障害・精神障害・心理的虐待の様相をつかむ」，全国障害者問題研究会北海道支部会報，2015年度第4号・通巻190号，pp.7-13，2015.12.10

「映画のなかのダウン症者」，みんなのねがい，2016年3月号No.596，p.21，2016.3.1.

（巻頭言）

「教員養成と教師教育の今日的課題とどう向き合うか」，SGU教師教育研究，第30号，p.1，2016.3.10.

◆講演等に関する記録

（市民講演会）

「特別支援教育時代の光り輝く映画たち」，全国障害者問題研究会第49回全国大会岐阜2015・岐阜大会準備委員会，岐阜大学，岐阜県岐阜市，2015.8.9.

「特別支援教育時代の光り輝く映画たち」，全国障害者問題研究会第37回夏期学習会実行委員会，札幌学院大学，江別市，2015.9.12.

「映画で学ぶ発達障害の豊かな世界」，特定非営利法人ファイト，菊水ビル，札幌市白石区，2015.10.10

「通常学級で学ぶ特別な支援を要する子どもの素顔と支援の課題」，当別　母と女性教職員のつどい，当別小学校，当別町，2015.11.3.

（道生研基礎講座）

「発達障害を抱える子どもに安心と居場所のある学級づくり」，全国生活指導研究協議会北海道支部，北海道大学，札幌市北区，2015.10.24.

（就労支援者向け講習会）
「発達障害者の「働きたい」を支えよう　発達障害や精神的な困難を抱える学生への支援実践から見えてきたこと」，平成 27 年度厚生労働省委託事業「発達障害者就労支援者育成事業」（北海道・東北ブロック）　東京都ビジネスサービス株式会社，かでる２・７，札幌市中央区，2016.3.2.
（中堅実務者研修会）
「発達障害や精神的な困難を抱える学生の実相と支援のあり方―札幌学院大学の実践事例を手がかりに」，私立大学協会北海道支部，定山渓ビューホテル，札幌市南区，2015.6.19.
（特別支援教育コーディネーター研修会）
「通常学級における特別な支援を要する子どもたちへの教育的アプローチを考える」，恵庭市教育委員会，恵庭市民会館，恵庭市，2015.9.8.
（地域連携研修事業　特別支援教育に関する研修会）
「通常学級における特別な支援を要する子どもたちと特別支援学級の子どもたちへの教育的アプローチを考える」，えりも町立えりも小学校，えりも町立えりも小学校，えりも町，2016.2.29.
（校内研修会）
「特別支援教育実践にかかわる悩みや諸課題について」，恵庭市立柏陽中学校・若草小学校・恵庭小学校特別支援教育研修会，恵庭市立柏陽中学校，恵庭市，2015.8.21.
「通常学級における特別な支援を要する子どもたちへの教育的アプローチを考える」，江別市立大麻泉小学校，江別市立大麻泉小学校，江別市，2015.9.30.
（放課後児童支援員認定資格研修）
「障がいのある子どもの理解」，北海道（業務委託団体：北海道学童保育連絡協議会），北海道庁別館，札幌市中央区，2016.2.13.
「特に配慮を必要とする子どもの理解」，北海道（業務委託団体：北海道学童保育連絡協議会），北海道庁別館，札幌市中央区，2016.2.13.
（雑誌コラム）
「「サウンド・オブ・ミュージック」―ADHD 的性質の長所と可能性を歌い上げる」，連載―「Sweet Spot　映画に見るリハビリテーション」（以下『総合リハビリテーション』医学書院）４月号，2015.4.10.
「「現代任侠史」―障害者問題解決の道程に力を与える侠気と粋の文化の復権」，連載―「Sweet Spot　映画に見るリハビリテーション」（以下『総合リハビリテーション』医学書院）５月号，2015.5.10.
「「さいはてにて　やさしい香りと待ちながら」―人を助ける侠気はしみじみとした記憶として残る」，連載―「Sweet Spot　映画に見るリハビリテーション」（以下『総合リハビリテーション』医学書院）６月号，2015.6.10.
「「くちびるに歌を」―自閉症者の遅延反響言語に意味を与える着眼に心打たれる」，連載―「Sweet Spot　映画に見るリハビリテーション」（以下『総合リハビリテーション』医学書院）７月号，2015.7.10.
「「LUCY ／ルーシー」―人類は進化するほど人間性を衰弱させるというパラドックスに見舞われる」，連載―「Sweet Spot　映画に見るリハビリテーション」（以下『総合リハビリテーション』医学書院）８月号，2015.8.10.
「「あの日の声を探して」―戦争の実相を失声症の少年と殺人兵器化する普通の若者をとおして描く」，連載―「Sweet Spot　映画に見るリハビリテーション」（以下『総合リハビリテーション』医学書院）９月号，2015.9.10.
「「海街 diary」―人間観の変化が自分を捨てた親を許すことに接続」，連載―「Sweet Spot　映画に見るリハビリテーション」（以下『総合リハビリテーション』医学書院）10 月号，2015.10.10.
「「映画ビリギャル」―「学校不適応」として括られる子供たちへの教育的アプローチのあるべき姿」，連載―「Sweet Spot　映画に見るリハビリテーション」（以下『総合リハビリテーション』医学書院）11 月号，2015.11.10.
「「美術館を手玉にとった男」―残念な状況に埋もれている発達障害者に光を当てる」，連載―「Sweet Spot　映画に見るリハビリテーション」（以下『総合リハビリテーション』医学書院）12 月号，2015.12.10.
「「ラブ＆マーシー　終わらないメロディ」―精神疾患と格闘したビーチ・ボーイズのブライアン・ウィルソンの半生を描く」，連載―「Sweet Spot　映画に見るリハビリテーション」（以下『総合リハビリテーション』医学書院）１月号，2016.1.10.
「「心が叫びたがってるんだ.」―言葉の暴力性に対峙する言葉を封印した少女の回復の物語」，連載―「Sweet Spot　映画に見るリハビリテーション」（以下『総合リハビリテーション』医学書院）２月号，2016.2.10.
「「母と暮せば」―現下の世界と日本の反射映像としての普遍性」，連載―「Sweet Spot　映画に見るリハビリテーション」（以下『総合リハビリテーション』医学書院）３月号，2016.3.10.
「二通論の思いつき談義　⑰」，特定非営利活動法人北海道学習障害児・者親の会　クローバー『クローバー』平成 27 年度第１号，2015.5.29.
「二通論の思いつき談義　⑱」，特定非営利活動法人北海道学習障害児・者親の会　クローバー『クローバー』平成 27 年度第２号，2015.8.28.
「二通論の思いつき談義　⑲」，特定非営利活動法人北海道学習障害児・者親の会　クローバー『クローバー』

平成 27 年度第 3 号，2015.11.10.
「二通論の思いつき談義　⑳」，特定非営利活動法人北海道学習障害児・者親の会　クローバー『クローバー』平成 27 年度第 4 号，2016.3.10.

新國三千代

◆著作物（書籍や辞典項目など）の分担執筆
（報告）
「他機関の支援者による遠隔情報保障支援他 3 点」，“いつでもどこでも”の情報保障の実現に向けて，PEPnet-Japan 遠隔情報保障事業成果報告書，2016 年 3 月発行，筑波，pp.29，42-44.
◆講演等に関する記録
（研究会）
「札幌学院大学における障がい学生支援の取り組みについて」，私立大学キャンパスシステム研究会（CS 研）第二分科会，札幌学院大学，札幌，2015 年 6 月 18 日.
（セミナー）
「情報保障，IPtalk 入門」，北海学園大学法学部，北海学園大学，札幌，2015 年 7 月 16 日.

新 田 雅 子

◆論文・研究ノート
（論文）
「在宅医療，この 10 年（2006-2015）：高齢者の自宅，地域および医療からの排除の側面に着目して」，保健医療社会学論集，第 26 巻 1 号，pp.19-24，2015 年 8 月.
「哀しい思い出，いまの幸せ：山間部集落のひとり暮らし女性の語りから」，女性史研究ほっかいどう，第 5 号，pp.125-135，2015 年 8 月.
（書評）
「金子勇，『日本のアクティブエイジング：「少子化する高齢社会」の新しい生き方』（2014 年）」，現代社会学研究，第 28 号，pp.67-72，2015 年 6 月.

久 蔵 孝 幸

◆講演等に関する記録
（講演）
「高校生のための心理学講座」，臨床心理学科，社会連携センター，札幌，2015.8.10.
「虐待と子どもの発達～地域で支えるために」，長沼町，長沼町総合保健福祉センター「リフレ」，長沼町，2015.7.25.

D.W.ヒンクルマン

◆論文・研究ノート
（Journal Article）
M. Cotter, K. Sato, D. Hinkelman　Video Assessment of Team-teaching and Team-presenting Performances チーム・ティーチングとチーム・プレゼンティング・スピーチコンテストのビデオ評価，日本ムードル協会全国大会 2015 発表論文集/Proceedings of the 2015 Moodle Association of Japan Annual Conference，Vol. 3，pp.31-37，2015 年 7 月 31 日，Peer-reviewed，Paper Number 425.
D. Hinkelman, S. Knodell　How Conferencing Can Affect Motivation, Attitude and Production in EFL Writing Classes　EFL ライティングクラスでの話し合いがモチベーション，授業態度，著作物に与える得る影響について，札幌学院大学　人文学会紀要，第 98 号，pp.115-124，2015 年 10 月.
D. Hinkelman，R. Atkins，P. Schinckel　Emergent Literacy within a Child Development Program，札幌学院大学　人文学会紀要，第 98 号，pp.125-134，2015 年 10 月.

藤 野 友 紀

◆論文・研究ノート
（雑報）
「イメージがふくらむあそび」，北海道の保育，38，pp.9-15，2015 年 10 月 17 日.
◆講演等に関する記録
（実践報告会議）
「作業所における大人の利用者の発達理解の手がかりと発達診断」，社会福祉法人あかしあ労働福祉センター，あかしあ労働福祉センター，旭川，2015 年 6 月 8 日.

牧 野 誠 一

◆著書
（編著）
『北海道における自閉症の子どもたちへの対応の歴史』，かりん舎，2015 年 7 月 29 日，札幌.
◆論文・研究ノート
（論文）
「知的障害者の高等支援学校卒業後における学びの場の保障」，札幌学院大学人文学会紀要，第 99 号，pp.111-129，2016 年 3 月，査読有.
◆講演等に関する記録
（学会講演）
牧野誠一・板垣裕彦，「『北海道における自閉症児への支

援の歴史』主に教育の面から」，日本自閉症スペクトラム学会，札幌学院大学，江別市，2015 年 8 月 22 日.
（市民講演会）
「みんながよりハッピーと思える乳幼児療育をめざして―保護者や乳幼児への対応法の基本姿勢および機関連携についてより良い方法を考えながら―」，留萌南部地域幼児療育推進協議会療育部会，留萌市保健福祉センターはーとふる，留萌市，2015 年 9 月 4 日.
「北海道における発達障害児への教育の歴史」，札幌学院大学社会連携センター，札幌市，2015 年 11 月 12 日.

舛田弘子

◆論文・研究ノート
（論文）
「初年次学生の相互作用の促進を目指した授業の試み―詩「変化」を題材に―」，人文学会紀要，99，pp.1-16，査読有.

松川敏道

◆講演等に関する記録
（講演）
「障害者を支援するということ」，北海道保健福祉部福祉局，かでるホール，札幌市，2015 年 6 月 17 日.
「障害者を支援するということ」，北海道保健福祉部福祉局，札幌医科大学，札幌市，2015 年 10 月 21 日.
「障害者を支援するということ」，北海道保健福祉部福祉局，札幌医科大学，札幌市，2016 年 2 月 17 日.

水島梨紗

◆論文・研究ノート
（論文）
「高等学校英語教科書における語用論的解説についての論考」，札幌学院大学人文学会紀要，99，pp.41-59，2016 年 3 月，査読有.
◆講演等に関する記録
（学会講演）
「高校英語教科書の分析から語用論的指導の可能性を探る」，関西英語教育学会，神戸学院大学，神戸，2015 年 6 月 13 日.

村澤和多里

◆著作物（書籍や辞典項目など）の分担執筆
（書籍）
第 6 章「モノローグからダイアローグへ」，『ひきこもる心のケア―ひきこもり経験者が聞く 10 のインタビュー―』，杉本賢治編，世界思想社，2015.8.31，京都，pp.97-113.
終章「ひきこもり問題の臨界点」，『ひきこもる心のケア―ひきこもり経験者が聞く 10 のインタビュー―』，杉本賢治編，世界思想社，2015.8.31，京都，pp.169-183.
◆論文・研究ノート
（論文）
「若者支援における社会的承認の再構築」，教育，837，pp.26-34，2015.10.
◆講演等に関する記録
（講演）
「現代青年の心理」，チャイルドラインさっぽろ，札幌市社会福祉総合センター，札幌市，2015.9.10.
「変貌する思春期―現代の若者の自立をめぐる不安―」，紋別保健所，遠軽町保健福祉総合センター，遠軽町，2015.11.20.
（新聞記事）
「『ひきこもる心』経験者が探る」，朝日新聞，2015.12.9.

望月和代

◆著作物（書籍や辞典項目など）の分担執筆
（その他）
「XV 医療観察制度」，よくわかる更生保護，藤本哲也・他編著，ミネルヴァ書房，2016 年 2 月 15 日，京都，pp.188-189.
◆講演等に関する記録
（学会講演）
「社会復帰調整官のアイデンティティと展望」，日本更生保護協会，アルカディア市ヶ谷，東京都，2016 年 2 月 13 日.

安木尚博

◆論文・研究ノート
（雑報）
「子どもの感性を育む教師のあり方」，札幌学院大学教師教育研究，第 30 号，2016.3.10.

山本　彩

◆著作物（書籍や辞典項目など）の分担執筆
（書籍）
（インタビュイー山本　彩）「自閉症スペクトラムとひきこもり」，ひきこもりる心のケア，村澤和多里監修・杉本賢治編，世界思想社，2015 年 8 月 27 日，京都，pp.131-142.

◆論文・研究ノート

（単著）

「思春期以降の自閉スペクトラム症（ASD）をもつ人の家族に対する Community Reinforcement and Family Training（CRAFT）」，行動療法研究，41(3)，pp.193-203，2015 年 9 月 30 日，査読有.

◆講演等に関する記録

（特別講演会）

「臨床面接における実験精神」，札幌学院大学特別講演会，札幌学院大学，江別市，2015 年 10 月 24 日，コメンテーター.

（市民講座）

「MI と CRAFT を学んでみたい！」，札幌学院大学心理臨床センター市民講座，札幌学院大学，江別市，2015 年 11 月 7 日，司会.

（シンポジウム）

「ひきこもりと発達障がいの支援を考える」，札幌学院大学シンポジウム，札幌学院大学，江別市，2015 年 11 月 25 日，シンポジスト.

（研究会）

「面接時における行動と家族のアセスメント」，S.E.N.S.（特別支援教育士）北海道研修会，北海道大学，札幌市，2015 年 7 月 18 日，講師.

「他機関から見た矯正施設―関わりの現状と今後への課題―」，札幌少年鑑別所拡大研究会，札幌少年鑑別所，札幌市，2015 年 10 月 7 日，講師.

（研修会）

「支援者ケアの大切さ」，北海道強度行動障害支援者養成研修，コンベンションセンター，札幌市，2015 年 5 月 27 日，講師.

「支援者のメンタルヘルスを考える」，北海道強度行動障害支援者養成研修フォローアップ研修，函館市勤労者総合福祉センター　サンリフレ，函館市，2015 年 8 月 28 日，講師.

「支援者のメンタルヘルスを考える」，北海道強度行動障害支援者養成研修フォローアップ研修，かでる 2・7，札幌市，2015 年 9 月 4 日，講師.

「支援者のメンタルヘルスを考える」，北海道強度行動障害支援者養成研修フォローアップ研修，釧路市生涯学習センターまなぼっと，釧路市，2015 年 9 月 25 日，講師.

「発達障がい特性と心理支援・ソーシャルワーク」，帯広少年院，帯広少年院，帯広市，2016 年 1 月 5・6 日，講師.

「さいたま市支援者向け講座」，さいたま市，さいたま市障がい者総合支援センター，さいたま市，2016 年 1 月 8 日，講師.

「厚生労働省こころの健康づくり対策事業（思春期精神保健研修事業）ひきこもり対策研修」，国立国際療研究センター国府台病院，大正大学，東京都，2016 年 3 月 16 日，講師.

「ひきこもり支援機関関係職員等研修会」，北海道ひきこもり成年相談センター・札幌市ひきこもり地域支援センター，かでる 2・7，札幌市，2016 年 3 月 26 日，講師.

横山登志子

◆論文・研究ノート

（論文）

「生活困難を抱える母子家庭の母親理解に関する生成的実践―母親規範に回収されない理解―」，社会福祉学，第 56 巻第 1 号，pp.61-73，2015 年 5 月，査読有.

「スクールソーシャルワーカーとは何か―その機能と可能性―」，会報（北海道私立大学・短期大学教職課程研究連絡協議会），第 34 号.

（書評）

「書評　大賀有記著『ソーシャルワーク支援の発展的二重螺旋構造：役割喪失にともなう悲嘆作業過程の分析』」，社会福祉学，第 56 巻第 3 号，pp.254-256，2015 年 11 月.

渡 邉 知 樹

◆講演等に関する記録

（市民講演会）

「親と子のコミュニケーションはどうあればよいか.」，砂川教育委員会，砂川市立砂川中学校，砂川市，平成 27 年 10 月 1 日.

「大人の成長が子どもの成長を創る」，北広島教育委員会，北広島市ふれあい学習センター，北広島市，平成 27 年 12 月 12 日.

【法学部】

伊 藤 雅 康

◆著書

（共著）

愛敬浩二・伊藤雅康・植松健一・植村勝慶・大河内美紀・塚田哲之・本　秀紀，『憲法講義』，日本評論社，2015年4月30日，東京.

◆論文・研究ノート

（学術研究論文）

「婚外子法定相続分規定違憲決定における憲法論」，札幌学院法学，32巻1号，pp.1-39，2015年12月21日.

◆講演等に関する記録

（市民講演会）

「日本国憲法の歴史的意義と課題」，北海道中小企業家同友会・同友会大学，札幌総合卸センター共同会館，札幌，2015年4月9日.

小 澤 隆 司

◆論文・研究ノート

（研究ノート）

「法人役員処罰法（大正4年法律第18号）に関する一考察―山岡萬之助関係文書を手がかりとして」，札幌学院法学，31巻2号，pp.1-26，2015年3月.

神 谷 章 生

◆講演等に関する記録

（学会講演会）

私を含む4人「基礎研シンポジウム「反戦争法の野党共闘をどう実現するか」」，基礎経済科学研究所，慶應義塾大学，東京，2016年2月28日.

笹 川 敏 彦

◆著作物（書籍や辞典項目など）の分担執筆

（書籍）

「第4章・社債」および「第5章・組織再編」，『新会社法の基礎　第3版』，加藤　徹・相原　隆・伊勢田道仁編，法律文化社，2015年4月10日，京都，pp.184-194，195-221.

◆論文・研究ノート

（翻訳）

加藤　徹・小西みも恵・笹川敏彦・出口哲也，「フランス会社法（7）」，法と政治，66巻3号，pp.173-239，2015年11月30日.

加藤　徹・小西みも恵・笹川敏彦・出口哲也，「フランス会社法（8）」，法と政治，66巻4号，pp.345-382，2016年2月.

（判例研究）

「基準日後株主による取得価格決定申立てと債務超過会社における取得価格の算定基準」，札幌学院法学，32巻2号，pp.37-78，2016年3月.

佐藤眞紀世

◆講演等に関する記録

（市民講演会）

「メンタルヘルス問題から会社労務担当者を守る」，日本生命，日本生命札幌支店，札幌市，H28.1月・2月.

嶋 田 佳 広

◆論文・研究ノート

（論文）

「需要充足原理の胎動(2)社会法典第2編と住居費給付」，札幌学院法学，31巻2号，pp.265-382，2015年3月.

「ドイツ住宅手当の制度と法―2009年法を経て」，札幌学院法学，32巻1号，pp.41-145，2015年12月.

（翻訳）

「ドイツ住宅手当法」，札幌学院法学，32巻1号，pp.146-175，2015年12月.

千 葉 寛 樹

◆講演等に関する記録

（講演会）

「改正税法について」，北海道税理士会等，札幌他各地，7会場，平成27年6～10月.

（市民講演会）

「相続税の現状と今後のあり方」，まるい三越　外商部，まるいデパート，札幌，平成27年中に4回.

（新聞記事）

「消費税の軽減税率について」，北海道新聞取材記事，平成27年12月，一面記事.

松 本 祥 志

◆著書

（共著）

Shoji Matsumoto, Elmostafa Rezrazi, Kei Nakagawa, *The White Book on Fighting Terrorism*, ITEAS, 2015年，Rabat，Morocco.

Shoji Matsumoto, Elmostafa Rezrazi, Kei Nakagawa, *Le Livre Gris du Terrorisme*, Godefroy, 2015年，

Paris.

松本祥志・エルモスタファ　レズラジ・中川　恵,『難民キャンプの内幕―西サハラ紛争とティンドゥフ―』, 日本評論社, 2015 年, 東京.

松本祥志・他『戦後 70 年と宗教』, 文理閣, 2015 年, 東京.

Shoji Matsumoto, Elmostafa Rezrazi, Kei Nakagawa, *Morocco's War on Terrorism: The Case for Security Cooperation Today*, Gilgamesh Publishing, 2016 年, London.

◆論文・研究ノート

(論文)

International Responsibility for Polisario's Diversions revealed in OLAF Report, *African Bulletin, February 2015*, pp.1-4, 2015 年 2 月.

A Legal Reflection on the Swedish wrongful intention to recognize the Virtual SADR, *African Bulletin, October 2015*, pp.1-6, 2015 年 10 月.

Diversion of Food and Medicine in the Tindouf Camps, *African Bulletin*, December 2015, pp.1-4, 2015 年 11 月.

On Abusage of 'Occupation': Go Back to Basics, *African Bulletin*, March 2016, p.1, 2016 年 3 月.

「ウブントゥにおける差異と格差―チャリティから補完原則へ―」,『地域文化研究』, 17 号, pp.1-19, 2016 年 3 月.

◆講演等に関する記録

(国際会議)

「Question of Western Sahara」, 国際連合, 国連本部, ニューヨーク, 7 October 2015, UN Doc A/C.4/70//7.

(討論会)

松本祥志・Charles Sant Prot・Aziz Boucetta・Elmostafa Rezrazi,「アルジェリアと『イスラーム・マグレブ地方のアルカーイダ』との関係」, モロッコ・テレビ局 MEDI 1, MEDI 1 ラバト支局, ラバト, 2016 年 3 月 25 日, http://www.medi1tv.com/fr/pr.-matsumoto-shoji-le-maroc-devrant.

社会情報学部

石 井 和 平

◆論文・研究ノート

(雑報)

「北九州市における環境事業」, 北海道自治体学会ニューズレター, 75 号, pp.26-28, 2015.11.

大 國 充 彦

◆論文・研究ノート

(リサーチペーパー)

西城戸誠・大國充彦・久保ともえ・井上博登「太平洋炭鉱主婦会の記録：北海道炭鉱主婦協議会の会長の聞き取りと資料を中心に【改訂版】」, JAFCOF 釧路研究会リサーチ・ペーパー, Vol.5, 2015 年 6 月 28 日.

(シンポジウム報告)

山本　純・佐々木達・木戸　功・高田　洋他「SGU 調査系科目の現状と課題―課題の共有と発見に向けて―」, 札幌学院大学社会情報学部第 25 回「社会と情報に関するシンポジウム」報告書, 2016 年 2 月 3 日.

(日本社会学会社会学教育委員会報告書)

笹谷春美・奥村　隆・井腰圭介・工藤保則・土屋　葉・三井さよ・大國充彦「社会学教育ってなんだ：「社会学分野の参照基準」から考える」, 2016 年 3 月 31 日.

◆講演等に関する記録

(市民講演会)

「テレビ番組を分析してみよう！～情報を受け取るレッスン～」, 札幌市生涯学習センター, 札幌市生涯学習センター「ちえりあ」, 札幌市, 2015 年 11 月 5・11 日.

太 田 清 澄

◆講演等に関する記録

(市民講演会)

「北広島市の都市マスタープラン」, 北広島市商工会, 2015 年 8 月 17 日.

「北海道の自律構造を担う都市・地域のデザイン」, 札幌学院大学社会連携センター, 2015 年 10 月 16 日.

小 内 純 子

◆論文・研究ノート

(論文)

「アイヌの人々のメディア環境とアイヌ語学習」, 北海道大学大学院教育学研究院教育社会学研究室『調査と社会理論』研究報告書, 34, pp.125-140, 2015 年 5 月.

「フィンランドのサーミ・メディアの現状と利用状況」，北海道大学大学院教育学研究院教育社会学研究室『調査と社会理論』研究報告書，35，pp.137-155，2016 年 3 月.

「アイヌの人々のメディア利用と情報発信」，北海道大学大学院教育学研究院教育社会学研究室『調査と社会理論』研究報告書，36，pp.117-133，2016 年 3 月.

（書評）

「徳野貞雄・柏尾珠紀，『T 型集落点検とライフヒストリーでみえる家族･集落･女性の底力』（農文協, 2014）」，社会調査協会『社会と調査』，15，p.137，2015 年 9 月.

◆講演等に関する記録

（市民講座）

「地域の限界集落化と対抗する力」，札幌学院大学，社会連携センター，札幌市，2015 年 10 月 23 日.

小 池 英 勝

◆著作物（書籍や辞典項目など）の分担執筆

（書籍）

小池英勝・中村永友・石川千温「学生・社会人のための Word Excel PowerPoint」，株式会社アイワード，2015 年 5 月，札幌学院大学生活協同組合.

◆論文・研究ノート

（報告書）

「2014 年度『FD を推進するための活動補助事業』の実績報告」, 2014 年度「FD を推進するための活動補助事業」総括，pp.30-31，2015 年 7 月.

（研究ノート）

中村永友・松井祐介・石川千温・渡辺慎哉・小池英勝，「情報教育課題合格ログデータによる受講生の類型化」，札幌学院大学総合研究所紀要（2016）第 3 巻，第 1 号，pp.1-10，2016 年 3 月.

森 田　　彦

◆講演等に関する記録

（市民講座「ふるさと江別塾」）

「インターネットはいかにして生まれたのか？」, 江別市，札幌学院大学，江別市文京台，平成 27 年 11 月 14 日.

学会発表・研究会等での発表

【経営学部】

赤 羽 幸 雄

◆研究会

（司会）

日本イノベーション融合学会　会長　有賀貞一ほか，「IoT 時代に対応したデータ経営 2.0」，第 1 回札幌市 IT イノベーション研究会，札幌市産業振興センター，札幌，2015 年 6 月 23 日(月).

日本イノベーション融合学会　理事長　高梨智弘ほか，「イノベーティブ人財育成と社会との融合」，第 2 回札幌市 IT イノベーション研究会，札幌市産業振興センター，札幌，12 月 14 日(月).

◆シンポジウム

（司会）

日経 BP 社　日経デジタルヘルス編集長　小谷卓也ほか，「健康で安心して暮らせる社会へ」，第 3 回札幌イノベーションセミナー，札幌市産業振興センター，札幌，10 月 13 日(火).

（パネラー）

電子自治体推進パートナーズ　副会長　榎並利博ほか，「どうなるマイナンバー？　今こそ立ち上がれ，IT コーディネータ！」，ITC Conference 2015，ベルサール新宿，東京，10 月 30 日(金).

北 林 雅 志

◆学会

（報告）

「国際金融市場（1914-1930）」，日本金融学会 2015 年秋季大会，東北大学，仙台.

◆国際学会・会議

（報告）

The international Money Market from 1914 to 1930, 17th World Economic History Congress，京都国際会議場，京都.

佐 々 木 冠

◆学会

（講演）

「インターネット上の方言データ：有効性と限界」，日本語文法学会，学習院女子大学，新宿区.

（ポスター）

「関東地方の与格格助詞ゲの起源に関する一考察」，日本方言研究会，甲南女子大学，神戸市.

◆国際学会・会議

（発表）

Kan Sasaki, Osami Okuda & Hidetoshi Shiraishi, Transitivity alternation in the languages around Hokkaido, The 17th Annual Conference of the English Department, University of Bucharest, University of Bucharest, Bucharest，2015.6.4.

◆研究会

（発表）

「現代日本語における未然形」，北海道言語研究会，室蘭工業大学，室蘭市.

「北海道方言のヴォイスとアスペクト」，科研費・国語研共同研究プロジェクト合同研究発表会「ヴォイス・アスペクト・格」，国立国語研究所，立川市.

「日本語方言の斜格」，科研費・国語研共同研究プロジェクト合同研究発表会「ヴォイス・アスペクト・格」，国立国語研究所，立川市.

「自発述語形式のゆれ」，北海道方言研究会，北区民会館，札幌市.

原　　晴 生

◆研究会

（報告）

「IIRC における IR（統合報告）保証」，日本会計研究学会スタディーグループ第 1 回会合，早稲田大学，東京.

山 本　　純

◆シンポジウム

（報告者）

山本　純（第一報告）・他は佐々木達（第二報告）・木戸功（第三報告）・高田　洋（第四報告）・太田清澄（コメンテーター），「第 25 回「社会と情報に関するシンポジウム」，『SGU 調査系科目の現状と課題―課題の共有と発見に向けて―』，第一報告：経営学部における調査系科目展開の一事例―商学調査実習から地域貢献プロジェクト実践へ―」，札幌学院大学社会情報学部，札幌学院大学，北海道江別市，2015 年 11 月 21 日.

【経済学部】

浅 川 雅 己

◆学会

（分科会報告）

「本源的蓄積論と資本主義の現在」，経済理論学会，一橋大学，東京.

◆国際学術大会

（講演）

「代替社会経済の本質を探る―社会と自然における労働の媒介を手掛かりに―」，持続可能な東アジアを目指す韓日学術大会―韓国と日本における代替社会経済モデルに関する研究の現在と未来―，慶尚大学校，韓国晋州.

井 上　　仁

◆学会

（講演）

井上　仁・中島清貴・高橋耕史，「On the So-called Forbearance Lending」，日本経済学会 2015 年度春季大会，新潟大学，新潟市.

井上　仁・中島清貴・高橋耕史，「Unviable Relationship and Bank Lending: Evidence from Loan-level Matched Data」，日本金融学会 2015 年度秋季大会，東北大学，仙台市.

◆研究会

（講演）

井上　仁・中島清貴・高橋耕史，「Unviable Relationship and Bank Lending: Evidence from Loan-level Matched Data」，札幌学院大学経済部会研究会，札幌学院大学，江別市.

井上　仁・中島清貴・高橋耕史，「Unviable Relationship and Bank Lending: Evidence from Loan-level Matched Data」，神戸大学金融研究会，神戸大学，神戸市.

片 山 一 義

◆学会

（講演）

「北海道における私立大学・短大の二極化と大学経営―1990 年代以降の基礎データの分析から―」，大学評価学会，早稲田大学，東京.

◆研究会

（講演）

「北海道の私立大学と経営」，合同教育研究全道集会，札幌学院大学，札幌.

佐 々 木 達

◆学会

（講演）

「中国内モンゴルにおける草地利用の課題」，日本地球惑星連合 2015 年大会，幕張メッセ，千葉市.

「米市場における産地間競争の現局面」，東北地理学会，戦災復興記念館，仙台市.

「米価変動下の産地間競争と市場の再編方向」，経済地理学会，北海学園大学，札幌市.

◆国際学会・会議

（ポスター）

Characteristics of Interregional Competitionin the Rice Production Areas in Japan, The 10th China-Japan-Korea Joint Conference on Geography，華東師範大学，上海市.

◆シンポジウム

（講演）

「地域経済分析とフィールドワーク―大学が求められる地域貢献とは？―」，社会情報学部シンポジウム，札幌学院大学，札幌市.

白 石 英 才

◆国際学会・会議

（研究発表）

白石英才・Bert Botma，“Stress-dependent height harmony in Nivkh”, Manchester Phonology，マンチェスター大学，マンチェスター.

白石英才・Bert Botma，“Writing practices in Nivkh, Globalising Sociolinguistics”, ライデン大学，ライデン.

Pavel Iosad・Bert Botma・白石英才，“Phonetic (non-) explanation in historical phonology: Duration, harmony, and dissimilation”, Edinburgh Symposium on Historical Phonology，エジンバラ大学，エジンバラ.

白石英才・Bert Botma，“Stress-dependent height harmony in Nivkh”, Northeast Asia and the North Pacific as a Linguistic Area，北海道大学，札幌.

土 居 直 史

◆研究会

（講演）

「An Airline Merger and its Remedies: JAL-JAS of 2002」，グローバル化・イノベーションと競争政策研究会，経済産業研究所，東京.

◆ワークショップ

（コメンテーター）

「Masato Nishiwaki, “Does Vertical Relationship

Facilitate Upstream Collusion? An Empirical Study" へのコメント」, I.O. ワークショップ　寡占，競争とイノベーション，札幌学院大学，札幌.

中 村 永 友

◆学会

（講演）

中村永友・土屋高宏「離散型確率分布を通した連続型確率分布にしたがう乱数の生成」，日本計算機統計学会大会, 釧路市まなぼっと幣舞, 釧路市, 2015.11.27-28.

下田妙子・斎藤さな恵・吉村香子・南　純一・柳澤直武・清水金忠・中村永友「ビフィズス菌 BB536 株の摂取による貧血改善に関する単施設ランダム化二重盲検プラセボ対照平行群間比較試験」，第 19 回　日本病態栄養学会　年次学術集会，パシフィコ横浜，横浜市，2016.1.9-10.

（座長）

「一般セッション座長」，日本行動計量学会大会，首都大学東京，八王子市，2015.9.1-4.

「セッション 5B 座長」，日本計算機統計学会大会，釧路市まなぼっと幣舞，釧路市，2015.11.27-28.

◆研究報告会

（講演）

「オープンデータを活用した政策提言とそのための基礎システムの構築」，江別市大学連携調査研究事業補助金採択事業報告会，江別市役所，江別市，2015.7.7.

平 澤 亨 輔

◆学会

（座長）

「都市と農村」分科会，応用地域学会，慶応大学三田キャンパス，東京.

【人文学部】

伊 藤 克 実

◆シンポジウム

（シンポジスト）

大豆生田啓友・矢藤誠慈朗・伊藤克実,「保育の原点から考える　変わりゆくこと　変わらないこと」，全国保育士養成協議会主催　全国保育士養成セミナー，ホテルロイトン，札幌市，9 月 22 日.

臼 井　　博

◆学会

（ポスター発表）

「小学生の読書動機と読書行動との関連性」，日本パーソナリティ心理学会第 24 回大会，北海道教育大学札幌校，札幌市，2015 年 8 月 21 日.

内 田　　司

◆研究会

（発表者）

「現代の地域社会再生とむら研究の意義」，日本村落研究学会，北海道大学農学部，札幌，地区研究会，2015 年 11 月 21 日.

大 塚 宜 明

◆学会

（口頭発表）

大塚宜明「滋賀県大津市真野遺跡出土の旧石器時代資料について―細石刃石器群関連資料を中心に―」，旧石器文化談話会第 104 回定例会，同志社大学，京都.

大塚宜明・上峯篤史・金成太郎・栗本政志「滋賀県大津市真野遺跡出土の細石刃石器群関連資料について」，日本旧石器学会　第 13 回大会，東北大学，宮城.

大塚宜明・飯田茂雄・金成太郎・長井雅史・矢原史希・櫻井宏樹「置戸山黒耀石原産地遺跡の発見」，北海道考古学会月例研究会，北海道大学，北海道.

大塚宜明「置戸黒耀石原産地調査成果と展望」，第 2 回先史時代における置戸産黒耀石の利用解明を目的とした調査に関する研究会，札幌学院大学，北海道.

◆国際学会・会議

（ポスター）

Otsuka, Yoshiaki, The Background of Transitions in Microblade Industries in Hokkaido, Northern Japan, XIX INQUA 2015，名古屋国際会議場，愛知.

岡 崎　清

◆学会

（司会）

一之瀬真平「Sherwood Anderson とフロンティア」，日本英文学会北海道支部，北海道大学，札幌，2015 年 11 月 1 日.

◆研究会

（発表）

「Theodore Dreiser “Marriage: For One” について」，アメリカ文学翻訳研究会，中央大学駿河台記念館，東京，2015 年 12 月 20 日.

奥 田 統 己

◆国際学会・会議

（研究発表）

佐々木冠・奥田統己・白石英才，Transitivity alternation in the languages around Hokkaido，The 17th Annual Conference of the English Department，University of Bucharest，University of Bucharest，Bucharest，Romania，2015.6.4.

◆シンポジウム

（研究発表）

「静内地方の英雄叙事詩における行　―修論の宿題」，ひろがる北方研究の地平線，札幌学院大学社会連携センター，札幌市，2015 年 12 月 19 日.

葛 西 俊 治

◆学会

（講演）

「舞踏の方法を取り入れた精神科領域での安全なダンスセラピーについて」，日本ダンス・セラピー協会第 24 回学術研究大会，東京.

◆国際学会・会議

（講演）

Toshiharu Kasai，Significance of Slow and Small Movements in Japanese Dance Therapy，13th European Consortium for Arts Therapies Education，Palermo，Italy，2015.9.18.

.

川合増太郎

◆学会

（議長）

「北海道ドイツ文学会総会」，北海道ドイツ文学会，北海道大学，札幌，2015 年 12 月 12 日.

北 田 雅 子

◆学会

（口演）

「対人援助職の面談スキルの向上に動機づけ面接法が果たす役割」，第 24 回日本健康教育学会，前橋市中央公民館，群馬，2015 年 7 月.

「大学生を対象とした禁煙教育の継続介入による教育効果の検討」，第 9 回日本禁煙学会，熊本市国際交流会館，熊本，2015 年 11 月.

（ポスター）

瀬在　泉・北田雅子，「ヘルスプロモーション分野における「動機づけ面接」（MI）の有用性―RCT の検討より」，第 74 回日本公衆衛生学会，長崎新聞文化ホール，長崎，2015 年 11 月.

北田雅子，「高齢者のヘルスリテラシーの現状と課題～札幌近郊の高齢者を対象とした調査から～」，第 74 回日本公衆衛生学会，長崎ブリックホール，長崎，2015 年 11 月.

（座長）

「～一般講演 2　禁煙教育～」，第 9 回日本禁煙学会，熊本市国際交流会館，熊本，2015 年 11 月.

◆研究会

（講演）

北田雅子・境　泉洋，「MI と CRAFT を学んでみたい！～概要・デモンストレーション・トレーニング方法～」，札幌学院大学臨床心理センター，札幌学院大学，札幌，2015 年 11 月.

（座長）

「第 17 回禁煙指導研究会」，日本禁煙学会北海道支部，札幌ビジネススペース，札幌，2015 年 10 月.

木 戸　功

◆学会

（報告）

「NFRJ と質的研究」，日本家族社会学会，追手門学院大学，大阪，2015 年 9 月 5 日.

◆研究会

（報告）

「NFRJ18 における質的調査の構想：目的・対象・方法・記録・アーカイヴ化」，NFRJ18 準備研究会，上智大学，東京，2016 年 2 月 21 日.

児 島 恭 子

◆国際学会・会議

（パネラー）

伊東貴之・A.カヴァーニャ・児島恭子・上田貴和子・L.

キアラ，「A Historical Research on Natural Disasters of Medieval Japan from the Viewpoint of Gender」，国際歴史学会議，シャンドンホテル，済南（中国山東省）.

眞田敬介

◆国際学会・会議

（一般発表）

Keisuke Sanada,A Usage-Based Approach to Epistemic *Have to*: Its Preferred Grammatical Patterns and Subjectivity, The 13th International Cognitive Linguistics Conference, Northumbria University, Newcastle upon Tyne, UK.

◆研究会

（一般発表）

「認識的 have to の使用依拠的一考察」，認知言語学フォーラム，北海道大学，札幌，2015 年 7 月 4 日.

佐野友泰

◆学会

（ポスター）

「コラージュ作品の国際的比較Ⅱ―日本・マレーシア・タイ・インドネシア学生の作品比較―」，日本心理臨床学会第 34 回秋季大会，神戸国際会議場，神戸市，2015 年 9 月 19 日.

塩見啓一

◆学会

（ポスター）

牧野誠一・二通　諭・塩見啓一，「知的障害者が大学で学ぶ「オープンカレッジ」の北海道地区における活動の分析」，日本特殊教育学会，東北大学，仙台市，2015 年 9 月 19 日.

◆研究会

（助言者）

「知的障害特別支援学校の現状と課題」，全国知的障害特別支援学校長会，ホテルライフォート，札幌市，2015 年 8 月 5 日.

◆シンポジウム

（座長）

高橋道也・西　博志「特別支援学級における授業改善に向けて」，北海道特別支援教育学会，北海道教育大学，札幌市，2015 年 7 月 12 日.

釣　晴彦

◆学会

（パネラー）

「小・中・高の連携教育について」，実用英語教育学会，札幌大谷大学，札幌市，2016 年 2 月.

◆研究会

（コメンテーター）

「小・中・高の連携教育について」，鹿追町一貫教育研究会，鹿追町公民館，鹿追町，2015 年 6 月 9 月，2016 年 2 月.

寺岡眞知子

◆研究大会

（ポスター）

小田進一・増山由香里・神林真理・武井昭也・寺岡眞知子「子どもとのかかわりから見る文化財としての絵本の魅力・価値の検証」，全国保育士養成協議会第 54 回研究大会，ロイトン札幌，札幌，2015 年 9 月 23 日.

二通　諭

◆学会

（シンポジスト）

「映画に見る自閉症スペクトラム―当事者と家族のニーズを考える―自閉症スペクトラム児・者の課題と可能性―視点の転換を展望して―」，日本自閉症スペクトラム学会第 14 回研究大会，札幌学院大学，江別市，2015.8.22-23.

（ポスター）

牧野誠一・二通　諭・塩見啓一「知的障害者が大学で学ぶ「オープンカレッジ」の北海道地区における活動の分析　知的障害者に対する生涯学習の機会の保障の視点から」，日本特殊教育学会第 53 回大会，東北大学，仙台市，2015.9.19-21.

（話題提供）

「後期中等教育における合理的配慮の実践と課題　札幌学院大学における発達障害や精神的な困難を抱える学生の自助グループの取り組みと支援の実際」，日本特別ニーズ教育学会第 21 回研究大会，京都教育大学，京都市伏見区，2015.10.17-18.

◆研究大会

（発表）

「発達障害や精神的な困難を抱える学生が教育実習に取り組む際の課題と支援」，全国私立大学教職課程連絡協議会第 35 回研究大会，仙台大学，宮城県柴田郡柴田町船岡，2015.5.31.

（司会）
「ソーシャルワークの視点をもった学校教育をどう構築するか」，北海道私立大学・短期大学教職課程連絡協議会第 35 回研究大会，札幌学院大学，江別市，2015.7.5.

◆研究会

（司会）
「プロフェッショナル　発想の種　コーチング活用法」，第 1 回北海道肢体不自由療育セミナー，千歳市総合福祉センター，千歳市，2015.7.4.

◆シンポジウム

（座長）
「通常学級における発達障害等の困難を抱える児童生徒への指導と支援―学級集団のもつ教育力と可能性に焦点を当てて―」，第 54 回道民教合同研究さっぽろ集会，札幌市生涯学習センター　ちえりあ，札幌市西区，2015.6.27.

（シンポジスト）
「「ひきこもり」をめぐって―交錯する支援のリアリティ―発達障害支援の視点から」，全国障害者問題研究会第 37 回夏期学習会，札幌学院大学，江別市，2015.9.12.
「発達障害が背景にある生徒の不登校・ひきこもり支援」，札幌学院大学　連続講演会，札幌学院大学，江別市，2015.11.25.

新國三千代

◆研究会

（報告）
「留研報告」，札幌学院大学人文学部研究会，札幌学院大学，札幌

◆セミナー

（講演）
「1）札幌学院大学と北星学園大学の大学間連携，2）北海道大学の遠隔情報保障の支援」，PEPnet-Japan FD/SD セミナー，早稲田大学，東京，2015 年 8 月 27 日開催，3 月報告書発行

平 体 由 美

◆学会

（自由論題報告）
「国家政策なき保健行政―20 世紀初頭のアメリカ合衆国における保健行政の展開とロックフェラー財団の役割」，社会経済史学会第 84 回大会，早稲田大学，東京，2015 年 5 月 31 日.

（シンポジウム報告）
「アメリカ合衆国保健局とマラリア対策―コミュニティ・ヘルスワークが描いた住民の保健」，日本アメリカ史学会第 12 回大会，北海道大学，札幌，2015 年 9 月 27 日.

◆シンポジウム

（企画・司会）
松原宏之・上野継義・小野直子「20 世紀初頭アメリカ合衆国における医療と看護をめぐるポリティクス」，アメリカ医療史研究会，青山学院大学，東京，2015 年 10 月 17 日.

D.W.ヒンクルマン

◆学会

（講演）
Don Hinkelman, Justin Hunt, Yoshikazu Asada, Adam Jenkins, MAJ Community Hub: Social Networking Theme and Personalized Mailings，第 8 回日本ムードルムート Moodle の教育者と開発者全国学会，東洋大学，2016 年 2 月 22 日，東京都.
Kate Sato, Matt Cotter, Junior Koch, Don Hinkelman, Dream in English: A Moodle Metacourse Dream，第 8 回日本ムードルムート Moodle の教育者と開発者全国学会，東洋大学，2016 年 2 月 22 日，東京都.
Don Hinkelman, Matt Cotter, Junior Koch, Video Assessment of Student Performances: Live In-class Group Assessment with iPads，第 8 回日本ムードルムート Moodle の教育者と開発者全国学会，東洋大学，2016 年 2 月 23 日，東京都.

◆国際学会・会議

（講演）
Don Hinkelman, Blended Learning Ecologies, MoodleMoot Australia 2015 国際大会，Monash University，2015 年 7 月 6 日，Melbourne Australia, Keynote Presentation.
Don Hinkelman, Video Assessment of Student Presentations with Moodle, MoodleMoot Australia 2015 国際大会，Monash University，2015 年 7 月 7 日，Melbourne Australia.
Don Hinkelman, Kate Sato, Matt Cotter, Junior Koch, Team-based Curriculum and Materials Design，Japan Association of Language Teaching 2015 International Conference，Granship Shizuoka，2015 年 11 月 20 日，静岡市.

◆研究会

（講演）
Don Hinkelman，Flip the Classroom: Gamification with Progress Bar and Bring-your-own-device (BYOD)，全国語学教育学会北海道支部研究会 CALL-Plus Workshop，札幌学院大学，2014 年 10 月 31 日，江別市.

牧 野 誠 一

◆学会

（シンポジスト）

荒木穂積・二通　諭・牧野誠一・竹内謙彰・戸田竜也・中橋真紀人「映画に見る自閉症スペクトラム―当事者と家族のニーズを考える―」，日本自閉症スペクトラム学会第 14 回研究大会，札幌学院大学，江別.

（ポスター）

牧野誠一・二通　諭・塩見啓一「知的障害者が大学で学ぶ『オープンカレッジ』の北海道地区における活動の分析　知的障害者に対する生涯学習の機会の保障の視点から」，日本特殊教育学会第 53 回大会，東北大学，仙台，2015 年 9 月 19 日.

舛 田 弘 子

◆研究会

（口頭発表）

舛田弘子「説明的文章の「道徳的誤読」について(1)」，言語学談話会，札幌学院大学，江別市，2015 年 7 月 30 日.

舛田弘子「説明的文章の「道徳的誤読」について(2)―CR の知見を踏まえた再検討―」，人文科学研究部会研究会，札幌学院大学，江別市，2015 年 11 月 19 日.

舛田弘子・伏見陽児・立木　徹・工藤与志文「説明的文章の「道徳的誤読」について(3)」，教授学習研究会，東北大学，宮城県仙台市，2015 年 12 月 12 日.

松 川 敏 道

◆会議

（報告）

「大学における障害のある学生支援の取り組みについて」，障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律の実施に関する調査研究協力者会議，文部科学省，東京，2015 年 6 月 30 日.

水 島 梨 紗

◆国際学会・会議

（ポスター）

水島梨紗・亘理陽一，Do English education in Japanese high schools provide sufficient pragmatic instruction?, International Pragmatic Association，アントワープ大学，ベルギー，2015 年 7 月 30 日.

森　　直 久

◆国際学会・会議

（Symposium）

Mori, N., Kono, T., Brown, S., Reavy, P., Murakami, K., Wagoner, B., Embodied memory and beyond, 16th biennial conference of International Society for theoretical Psychology, Coventry University, Covernty, UK，2015.6.27.

山 添 秀 剛

◆学会

（研究発表）

「水平表現としての上下のメタファーについて」，日本英文学会北海道支部第 60 回大会，北海道大学，札幌，2015 年 11 月 1 日.

安 木 尚 博

◆学会

（発表）

「造形教育のあり方を考える」，北海道造形教育連盟委員総会研修会，ホテルライフォート，札幌市，2015 年 4 月 26 日.

◆研究会

（発表）

「子どもの感性と造形活動」，人文研究部会研究会，札幌学院大学，江別市，2015 年 7 月 23 日.

山 本　　彩

◆研究会

（講師）

Short Lecture　伊藤耕一・症例検討　加古勇輝・座長　北川信樹・特別講演　山本　彩,「発達障がいの家族支援と地域支援」，北海道精神科アウトリーチ支援研究会，TKP ガーデンシティアパホテル，札幌市，2016 年 2 月 27 日.

◆シンポジウム

（シンポジスト）

シンポジスト　飯田昭人・山本　彩・コメンテーター　村瀬嘉代子,「心理職の役割―その普遍性と個別性―「福祉領域を中心に」」，北翔大学　大学院生・若手心理臨床家セミナー，北翔大学北方圏学術情報センター「ポルト」，札幌市，2015 年 8 月 30 日.

基調講演　Hendrik G. Roozen・シンポジウム　吉田精次・境　泉洋・山本　彩・司会　黒田安計・コメンテーター　松本俊彦・開会挨拶　内山登紀夫,「コミュニ

ティ強化と家族訓練（CRAFT）の応用可能性「自閉症スペクトラムが疑われる事例へのCRAFTの活用」，日本コミュニティ強化アプローチ研究会，国立精神・神経医療研究センター，東京都，2015年9月7日.

企画者　小林　茂・石垣琢磨・司会者　小林　茂・佐藤さやか・山本　彩・指定討論者　富井恵子，「地域心理臨床に認知行動療法はいかに貢献できるか(4)―地方で実践と研修を充実させるには―」，日本心理臨床学会，神戸国際会議場，神戸市，2015年9月18日

企画・司会　大野裕史・境　泉洋・シンポジスト　野中俊介・松本俊彦・山本　彩・指定討論　杉山雅彦，「日本におけるコミュニティ強化と家族訓練（CRAFT）プログラムの現状と課題「ひきこもり・発達障害のCRAFT」」，日本認知・行動療法学会，仙台国際センター，仙台市，2015年10月3日.

◆勉強会

（講師）

「発達上の問題と家族療法の実際」，セカンドステップ北海道勉強会，札幌市教育文化会館，札幌市，2016年1月23日.

横山登志子

◆学会

（指定討論）

「講演『ケアの現在―現象学的研究の試みから』に対する指定討論」，北海道社会福祉学会，北海道大学，北海道（札幌市）.

◆研究会

（研究報告）

「スクールソーシャルワーカーとは何か―その機能と可能性―」，北海道私立大学・短期大学教職課程研究連絡協議会第35回研究大会，札幌学院大学，北海道（江別市）.

◆研究協議会

（発題者）

「卒業時到達水準に関する養成校と現場の共通認識に向けて―養成校での卒業時を見据えた事後教育と現場が新卒に求める力量から（養成校発題）」，日本社会福祉士養成校協会北海道ブロック社会福祉実習セミナー・医療領域の分科会発題，北星学園大学，北海道（札幌市）.

【法学部】

小澤隆司

◆研究会

（報告者）

「大正期の法人処罰―刑事訴訟法改正を中心として」，第10回帝国と植民地法制研究会，早稲田大学，東京，2015年12月12日

清水敏行

◆学会

（パネラー）

清水敏行・金　元重・春木育美・澤田克己，「社会運動から考える現代韓国社会（清水担当「市民運動を中心に」）」，現代韓国朝鮮学会，神田外国語大学，千葉市，2015年11月8日.

◆シンポジウム

（コーディネーター）

志賀健司ほか，「守ろう美しい北海道！　海ごみ・ポイ捨て防止大会」，北海道環境生活部，ホテルポールスター札幌，札幌市，2016年1月12日.

松本祥志

◆学会

（基調報告）

「ウブントゥにおける差異と格差」，地域文化学会，東京海洋大学品川キャンパス　楽水会館大会議室，東京，2015年6月7日.

◆国際学会・会議

（報告）

Question of Western Sahara，国際連合総会第四委員会，国連本部，ニューヨーク，October 7，2015.

Rethinking the Global Fight Against Terrorism，World Diplomatic Forum，11th Floor，6 Mitre Passage，Peninsula Square，ロンドン，December 4，2015.

El Mostafa Rezrazi & Shoji Matsumoto，Briefing on Moroccan-European Counterterrorism Cooperation，Atlantic Council，Africa Center，ワシントン，December 7，2015.

【社会情報学部】

石 井 和 平

◆シンポジウム

（コメンテーター）

「産業・雇用戦略による地域再生」，北海道自治体学会，北海道大学，札幌市，2015.05.16.

大 國 充 彦

◆学会

（話題提供者）

「社会学分野の参照基準について―期待する使われ方―」，北海道社会学会，旭川大学，旭川市，2015 年 6 月 28 日.

（コメンテーター）

「地域情報（情報の共有，アーカイブ）セッション」，社会情報学会，明治大学，東京都，2015 年 9 月 13 日.

◆研究会

（司会）

「SGU 調査系科目の現状と課題―課題の共有と発見に向けて―」，札幌学院大学社会情報学部第 25 回「社会と情報に関するシンポジウム」，札幌学院大学，江別市，2015 年 11 月 21 日.

太 田 清 澄

◆学会

（学会賞審査委員）

「日本都市計画学会・支部研究発表会　学会賞選考審査委員」，日本都市計画学会北海道支部，札幌学院大学社会連携センター，札幌市.

◆シンポジウム

（コメンテーター）

「社会と情報に関するシンポジウム」，札幌学院大学・社会情報学部，札幌学院大学，江別市.

小 内 純 子

◆学会

（報告）

酒井恵真・小内純子，「被災地・避難者支援における遠隔地自治体の役割と地域ガバナンス―北海道の事例」，地域社会学会第 40 回大会，東北学院大学，仙台市，2015 年 5 月 10 日.

◆研究会

（報告）

「北海道の農村集落が担いうる福祉的機能とは何か」，第 10 回人と農地にかかわる農村集落問題研究会，北海道大学，札幌市，2015 年 12 月 3 日.

高 田　　洋

◆研究会

（講演）

「投票態度，民主主義的信念，階層帰属意識の関連性に関する基礎分析」，SSP プロジェクト全体会議，金沢東急ホテル・会議室，金沢市.

「授業評価アンケートの分析と社会情報学部 FD の取り組み」，社会情報学部研究会，札幌学院大学，札幌市.

◆シンポジウム

（講演）

「社会情報学部『量的調査設計・量的調査演習』の現状と課題―仮説検証型による探索的な社会理解」，社会と情報に関するシンポジウム，札幌学院大学，札幌市.

皆 川 雅 章

◆学会

（講演）

「講義受講ノートの電子化による学習履歴の記録と活用」，2015 PC カンファレンス，富山大学，富山市，2015 年 8 月 20 日.

「民具資料のデジタルアーカイブ化―アイヌ刺繍文様のデジタル表現に関する 1 考察―」，教育情報学会年会，茨城大学，水戸市，2015 年 8 月 29 日.

「講義受講ノート作成指導におけるルーブリック評価導入の試み」，教育情報学会年会，茨城大学，水戸市，2015 年 8 月 30 日.

「初年次科目における講義受講ノート作成指導の結果に関する 1 考察―効果と持続性の観点から―」，初年次教育学会，明星大学，東京都日野市，2015 年 9 月 4 日.

「音声認識を用いた講義記録作成の試み」，2015 九州 PC カンファレンス in おきなわ，琉球大学，沖縄県中頭郡西原町，2015 年 11 月 8 日.

「音声認識を用いた講義改善の試み」，PC カンファレンス北海道 2015，北見工業大学，北見市，2015 年 11 月 14 日.

◆研究会

（講演）

「民具資料のデジタルアーカイブ化―アイヌ刺繍文様の運針パターンの抽出と文様のパラメトリック曲線作図―」，第 4 回デジタルアーカイブ研究会，岐阜女子大学，岐阜市，2016 年 2 月 11 日.

「講義受講ノートの作成指導方法に関する検討―ルーブリックによる評価と改善点指摘―」，第 16 回教育資料研究会，岐阜女子大学，岐阜市，2015 年 11 月 21 日.

「建学記念館資料のデジタルアーカイブ化の検討―札幌学院大学を例として―」，第 5 回デジタルアーカイブ研究会，岐阜女子大学，岐阜市，2015 年 11 月 21 日.

「ノート活用を組み込んだ講義設計―学習履歴の可視化と学習サイクルの構築―」，教育工学会研究会，新潟大学，新潟市，2015 年 12 月 12 日.

科学研究費補助金間接経費研究活動活性化事業

◆開催日

2015 年 9 月 14 日

◆申請者

奥田　統己

◆事業名

札幌学院大学言語学談話会特別研究報告会

◆実施内容

開催場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

事業内容：昨年度東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（AA 研）に寄贈されたアイヌ語音声・映像資料コレクションについて，その採録の過程から深く関わってきた本学教員を中心とした研究報告会を開催し，保存・整理・活用のありかたに関する報告，討論および意見交換を行った．そのなかでは，本資料の現時点までの整理作業の状況を報告・確認するとともに，「AA 研所蔵アイヌ関係資料の整理状況について」「A 研所蔵アイヌ関係資料の保存・整理の方針と方法について」「AA 研所蔵アイヌ語資料の今後の公開の方針について」をテーマとして参加者全員による意見交換を行い，今後の整理･公開の方針に関する共通理解の形成を促進した．

◆開催日

2015 年 10 月 1 日～2015 年 12 月 25 日

◆申請者

村澤　和多里

◆事業名

青少年の心理的発達のサポートのための連続講座

◆実施内容

本企画では，青年期の心理発達の問題に実践的にかかってきた研修者に講演をしていただき，実践的な介入方法を研究者間で共有することはもとより，地域社会の専門家，一部については一般市民にも還元する機会を創出することを目的とした．

1. 2015 年 10 月 24 日 14：30～16：30　札幌学院大学 SGU ホール
   特別講演会「臨床面接における実践精神」
   講演　中井久夫（精神科医）
   討論　片山昌哉（精神科医）
   望月和代（本学教員）
   山本　彩（本学教員）
   司会　村澤和多里（本学教員）

精神科医や臨床心理士などの支援の専門家 253 名の参加申し込みがあった．

わが国において思春期の精神療法の第一人者である中井久夫氏を招いて講演していただいた．講演では中井氏がこれまで携わってきた青年期の精神療法について歴史的経緯をふりかえるものであった．

2. 2015 年 11 月 25 日 18：30～20：30　札幌学院大学 B102 教室
   シンポジウム「ひきこもりと発達障がいの支援を考える―心理支援・特別支援・自立支援―」
   二通　諭　「発達障がいが背景にある生徒の不登校・ひきこもり支援」
   山本　彩　「ひきこもりと発達障がい―家族支援を中心に―」
   村澤和多里「ひきこもり青年との対話の回復について」

近隣のひきこもりについての支援者 15 名が参加した．

ひきこもり支援を，発達障害支援，家族支援，当事者の自立支援という 3 つの角度から論じた．

◆開催日

2015 年 11 月 21 日～2016 年 2 月

◆申請者

大國　充彦

◆事業名

第 25 回社会と情報に関するシンポジウム「SGU 調査系科目の現状と課題―課題の共有と発見に向けて―」の開催と記録

◆実施内容

標記シンポジウムを 2015 年 11 月 21 日に開催した．講演は山本純（経営学部）・佐々木達（経済学部）・木戸功（人文学部）・高田洋（社会情報学部）の 4 名の教員が行い，太田清澄（社会情報学部）がコメント，全体討論を行った．参加者は約 20 名であった．

シンポジウムの講演・質疑応答を録音し，テープ起こしを委託した．テープ起こし原稿を，講演者･コメンテーター・討論参加者に確認してもらい，報告書原稿を作成した．報告書を 200 部印刷（2016 年 2 月 3 日納品），本学教員に配布した．

大学という組織・機構の主要な目的の一つに地域との関係がある．地域貢献・地域連携は大学という「知の銀行」のフィールドである．研究者たちはキャンパスの外に出て地域の現場に入っていく．このダイナミズムは今に始まったことではなく，研究という営みが当初から持っている側面に過ぎないとも言える．シンポジウムには多くの参加者があり，有意義な質問・意見が数多く提起された．

◆開催日

2015年12月5日

◆申請者

神谷　章生

◆事業名

AKB48グループで社会科学する

◆実施内容

AKB48とその姉妹グループは現代日本社会の縮図であり，その展開は多様なインプリケーションを含む．その態様を分析する中で，東京一極集中と地方の問題，共同性の再生，ファンコミュニティのあり様から現代若者論など，社会科学，思想，人間発達論などへと展開しうる．

本企画では，気鋭の社会評論家として活躍している宇野常寛氏をお招きし，彼がAKB48を通じて積極的に発言しているものは何なのか，それを「リミッターを解除」（宇野氏談）して，私たちにぶつけてもらった．彼自身，札幌との縁は少なからずあり，札幌，地方都市から見たアイドル文化の展望も語る，きわめて刺激的な講演会であった．

企画は，本学の教員研究者，職員のみならず，在野の宇野ファン，研究者，市民にも関心を持たれ，当日は多くの発言を誘発し，成功裏に終えることができた．

◆開催日

2015年12月12日

◆申請者

石井　和平

◆事業名

「北海道におけるバイオエネルギー村の可能性」に関するシンポジウム

◆実施内容

再生可能エネルギーの先端地域であり，国から環境未来都市として選定されている北海道下川町で，バイオ村に関するシンポジウムを開催した．

熊本から来道された中坊真氏（九州バイオマスフォーラム所属）からは，九州，特に阿蘇の草資源（野草やススキなど）のバイオマスの活用事例を，牧田正代氏（森のエネルギー研究所所属）からは薪による木質バイオマスエネルギーの利用事例の紹介が行われ，地域に根ざし，地域に依存したエネルギー資源の発見と利用の重要性について改めて理解することができた．また下川町での調査経験の豊富な鈴木敏正氏（札幌国際大学教授）からは，社会教育の視点から自然エネルギー利用社会への地域づくりに関する話題を提供して頂いた．最後に，下川町職員の古内伸一氏から，木質バイオマスボイラーを活用したエネルギー自給型の集住化地区（一の橋バイオビレッジ）の視察を含めた紹介をして頂き，無事にシンポジウムを閉会することができた．

本校のキャンパスを離れての開催というチャレンジではあったが，バイオ村の現状を知ることもでき，有意義なシンポジウムであったことは確かである．

◆開催日

2015年12月19日～20日

◆申請者

白石　英才

◆事業名

シンポジウム「ひろがる北方研究の地平線」

◆実施内容

12月19日のシンポジウム1日目には中川裕教授（千葉大学文学部ユーラシア言語文化論講座）の基調講演「アイヌ語のVS語順」に引き続き9名の研究発表が文化，言語，文学のセッションにおいてなされた．会場となった社会連携センターは50名を超える参加者を集めて非常な活況を呈した．本学は北方研究の専門家を数多く擁し，その存在感は道内他私大を圧倒している．今回の行事でそれを内外に改めてアピールすることができた．また2日目の北海道博物館におけるアイヌ展示検討会も，4月にリニューアルなった北海道博物館の展示を専門家の目線から検討するという点で大変貴重な機会だった．

本邦における北方研究は現在，2020年に白老町において開館が予定されている国立アイヌ博物館（仮称）に向けて業界全体が活気づいている．本学がそうした時代の要請に応えうるキャパシティを備えた研究者集団を擁している以上，今後も北方研究の一翼を担い，本学の社会貢献の一助としたい．

成果公開

シンポジウム

第８回　札幌学院大学総合研究所シンポジウム

マーケティングと行動経済学のコラボレーション

日時　2015 年 11 月 7 日㈯　9：50〜14：30
会場　札幌学院大学　E502 教室（E 館 5 階）

開催趣旨

経営学の主要テーマの一つであるマーケティングの研究を，行動経済学などの分野とのコラボレーションを通して，学際的に深めていく．

プログラム

開会挨拶　9：50〜10：00
　鶴丸　俊明（札幌学院大学学長）

第Ⅰ部　講演　10：00〜12：00

1）10：00〜10：40
「マーケティング研究と行動観察」
碓井　和弘（札幌学院大学経営学部教授）

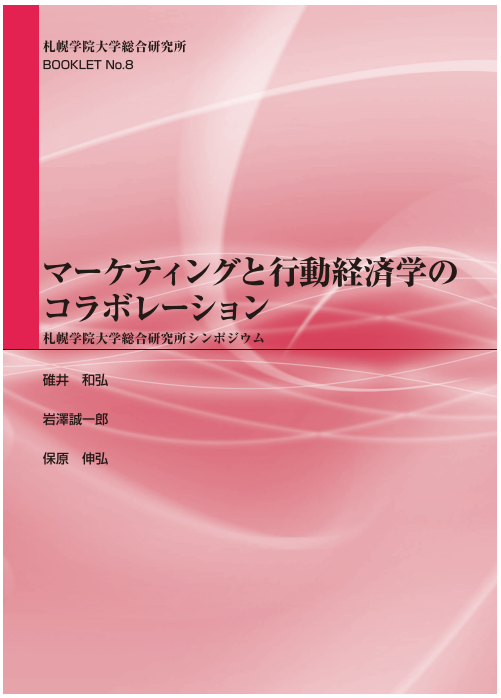
2）10：40〜11：20
「行動経済学とマーケティング」
岩澤誠一郎（名古屋商科大学経済学部学部長・同大学院教授）

3）11：20〜12：00
「マーケティングあるいは行動経済学のフロンティアとしての音楽心理学のフロンティア」
── 音楽心理学の最新の成果が行動経済学やマーケティングにどう生かされるか．
保原　伸弘（東京福祉大学社会福祉学部社会福祉学科経営福祉専攻専任講師）

第Ⅱ部　ディスカッション　13：00〜14：25
　司　会：玉山　和夫（札幌学院大学経営学部教授）
　討論者：岩澤誠一郎，碓井　和弘，保原　伸弘

閉会挨拶　14：25〜14：30
　北林　雅志（札幌学院大学経営学部長）

総合研究所ブックレット　No.8



【札幌学院大学総合研究所シンポジウム】

マーケティングと行動経済学の
コラボレーション

【札幌学院大学総合研究所シンポジウム】

マーケティングと行動経済学の
コラボレーション

はじめに：マーケティングと行動経済学のコラボレーション　札幌学院大学経営学部教授　玉山　和夫
（講演１）　マーケティング研究と行動観察　札幌学院大学経営学部教授　碓井　和弘
（講演２）　行動経済学とマーケティング　名古屋商科大学経済学部学部長・同大学院教授　岩澤誠一郎
（講演３）　マーケティングあるいは行動経済学の
フロンティアとしての音楽心理学のフロンティア
── 音楽心理学の最新の成果がいかに行動経済学やマーケティングに生かされるか.
東京福祉大学社会福祉学部講師　保原　伸弘

研究紀要

総合研究所紀要

第 3 巻（2016 年 3 月発行）

情報科学

・情報教育課題合格ログデータによる受講生の類型化［研究ノート］
中村　永友・松井　佑介・石川　千温・渡辺　慎哉・小池　英勝

・混合正規分布モデルの成分数推定に関する数値的検証［研究ノート］　中村　永友

・潜在変数を含む統計モデルにおける効率的なパラメータ推定［研究ノート］　中村　永友・土屋　高宏

言語学

・陸羽東線沿線地域方言で格助詞「サ」に後接する「バ」［研究ノート］　佐々木　冠

教職研究

・教育心理学（半期）の授業効果：授業開始時と終了時の重要概念に関する知識の変化［論文］　臼井　博

札幌学院大学 経営論集

No.8（2015 年 8 月発行）

論　文

・株式・債券・商品市場のブラック・スワン　～流動性と貨幣らしさ～　玉山　和夫

研究ノート

・不正会計　～不適切な会計処理等，3 社の事例～　原　晴生

No.9（2016 年 2 月発行）

論　文

・日本企業の低収益と低株式リターン　── 株主還元の意味を問い直す ──　玉山　和夫

・ガーデンについての一考察（第 1 報）　～新らしい庭園文化を発信する北海道のガーデン～　光武　幸

札幌学院大学 経済論集

第 10 号（2015 年 10 月発行）

論　文

・労働者階級の再生産戦略と家族　浅川　雅己

研究ノート

・中国内モンゴル自治区におけるプロジェクト制農村開発に関する研究　── 武川県五福号村を事例に ──　蘇徳　斯琴・佐々木　達

・日本の航空産業の概況　土居　直史

札幌学院大学 人文学会紀要

第 98 号（奥谷浩一教授退職記念号）（2015 年 10 月発行）

・奥谷浩一教授退職記念号によせて　岡崎　清

論　文

・火成岩のマグマ生成における化学的多様性の形成について　小出　良幸

・竹富島におけるツーリズムの展開と新来住者たちの移住物語（その 2）──「観光化する島」・竹富島の一員となることの意味を考える ──　内田　司

・小学校から中学校への学校間移行の学校適応と学習動機に対する影響（5）── 小学校 3 年時の学習動機，親子の活動共有，学校適応感から 6 年時の学業やレジリエンスの予測：縦断的研究 ──　臼井　博

・iPS 細胞（人工多能性幹細胞）時代の人間の性と性愛に関する一考察　安岡　譽・橋本　忠行

研究ノート

・How Conferencing Can Affect Motivation, Attitude and Production in EFL Writing Classes.
Don HINKELMAN and John Stephen KNODELL

・Emergent Literacy within a Child Development Program.
Don HINKELMAN, Robert ATKINS and Peter SCHINCKEL

・Investigating the Impact of Japanese Labour Laws on Limited Term Contracts for Foreign Language

Teachers at Japanese Universities.
K.J.M. SATO, Matthew COTTER, Wayne SKELTON and Peter SCHINCKEL
・奥谷浩一教授略歴・主要業績目録

第 99 号（杉山吉弘教授退職記念号）
（2016 年 2 月発行）
・杉山吉弘教授退職記念号によせて　岡崎　清

論　文

・初年次学生の相互作用の促進を目指した授業の試み ── 詩「変化」を題材に ──　舛田　弘子
・深海底堆積物と層状チャートの成因について　小出　良幸
・高等学校英語教科書における語用論的解説についての論考　──「英語表現Ⅰ」の事例をもとに ──　水島　梨紗
・小学校から中学校への学校間移行の学校適応と学習動機に対する影響（6）　── 小中学校の学級の目標構造の安定性と翌年の学業動機や学校適応感に対する影響 ──　臼井　博
・ハイデガーのヒューマニズム論　奥谷　浩一
・知的障害者の高等支援学校卒業後における学びの場の保障　牧野　誠一
・杉山吉弘教授略歴・主要業績目録

札幌学院法学

第 32 巻　第 1 号（2015 年 12 月発行）

論　説

・婚外子法定相続分規定違憲決定における憲法論　伊藤　雅康
・ドイツ住宅手当の制度と法 ── 2009 年法を経て　嶋田　佳広

翻　訳

・回想・鄭鍾昺「法の妥当根拠について」（1）……Zong Uk Tjong, Das Problem der Rechtsgeltung in der Lehre Radbruchs (1967)　鈴木　敬夫　訳

第 32 巻　第 2 号（2016 年 3 月発行）

研究ノート

・所有権放棄とはなんであるか　── 不動産所有権放棄の可否をめぐる議論の前提として ──　田處　博之

判例研究

・基準日後株主による取得価格決定申立てと債務超過会社における取得価格の算定基準　東京地裁民事第 8 部平成 25 年 9 月 17 日決定（金判 1427 号（2013 年）54 頁，資料版商事 355 号（2013 年）23 頁）　笹川　敏彦

論　説

・犯战争罪的法学　── 对千叶正士教授的《战争时期小野清一郎・尾高朝雄的法哲学》的批判 ── 铃木　敬夫

社会情報

2015 年度は発行なし

札幌学院大学後援会自費出版助成対象図書一覧

（刊行順）

【1】牧野誠一編著『北海道における自閉症の子ども達への対応の歴史 ～主に教育的支援の面から～』

かりん舎，2015 年 7 月 29 日刊

（目次）

第１章　我が国における自閉症指導の黎明期
第２章　北海道における自閉症教育の黎明期
第３章　北海道情緒障害教育研究会の活動
第４章　道内の自閉症教育の実践
第５章　自閉症児・者親の会　── その歴史と今後の展望 ──
第６章　教員養成機関・医療・福祉関係の活動
第７章　自閉症の子ども達への対応を振り返る

【2】村澤和多里監修『ひきこもる心のケア：ひきこもり経験者が聞く 10 のインタビュー』

世界思想社，2015 年 8 月 31 日刊

（目次）

第１部　ひきこもり支援の最前線
第２部　ひきこもりゆく「心」
第３部　発達障害とひきこもり
第４部　社会的排除とひきこもり

【3】白石英才，ナデジュダ・ベソノヴァ編『ニヴフ語音声資料 12（シュミット方言）』

札幌学院大学，2015 年 12 月 31 日刊

（目次）

第１部　子供の頃の思い出　ほか
第２部　よく考えて，それからニヴフ語で話して　ほか

著書買い上げ補助対象図書一覧

（刊行順）

【1】臼杵勲著『東アジアの中世城郭：女真の山城と平城』

吉川弘文館，2015 年 5 月 22 日刊行

（目次）

プロローグ　日本海対岸の中世城郭
Ⅰ　女真族とはどのような人々か
Ⅱ　金・東夏以前の城郭
Ⅲ　金・東夏代の女真城郭
Ⅳ　女真城郭と周辺地域の城郭
エピローグ　その後の女真城郭と日本列島

【2】二通諭著『特別支援教育時代の光り輝く映画たち』

全国障害者問題研究会出版部，2015 年 8 月 9 日刊行

（目次）

序　章　「アナと雪の女王」に潜む障害者問題と助成解放思想のメタファー
第 1 章　「高倉健」なるものと特別支援教育はどのように結びつくか
第 2 章　発達障害的性質を有する主人公
第 3 章　愛着上の問題を抱える子ども・青年・大人
第 4 章　「障害者の性」や性的マイノリティを俎上に載せる
第 5 章　「スクールカースト」の虚妄を剥ぐ
第 6 章　「夜明け前の子どもたち」に学ぶ障害の重い子どもたちの発達と教育
第 7 章　差別や排除のないインクルーシブな社会をつくる
終　章　特別支援教育精神は時代と国境をこえて

【3】佐々木冠ほか共著『認知類型論』認知日本語学講座第 6 巻

くろしお出版，2015 年 10 月 1 日刊行

（目次）

第 1 章　序章
第 2 章　文の統語構造と意味構造
第 3 章　語彙格の分析
第 4 章　北海道方言における形態的逆使役の類型的位置づけ
第 5 章　使役構文
第 6 章　言語の多様性を探る言語類型論
第 7 章　進化的視点から見る言語

学会発表旅費助成採択者一覧

学部	申請者	学会名	開催地	発表タイトル
経営学部	北林　雅志	XVIIth World Economic History Congress Kyoto 2015 8/2～8/6　国際学会	京都府 京都市 国立京都国際会館	“The Internationl Money Market from 1914 to 1930 – The Chartered Bank of India, Australia and China in London and New York –”
経営学部	佐々木　冠	The 17th Annual Conference of the English Department, University of Bucharest 6/3～6/8　国際学会	ルーマニア ブカレスト ブカレスト大学	“Transitivity alternation in the languages around Hokkaido”
経済学部	井上　　仁	日本経済学会　2015 年度春季大会 5/23～5/24　全国学会	新潟県 新潟市 新潟大学	“On the So-called Forbearance Lending”
経済学部	佐々木　達	The 10th China-Japan-Korea Joint Conference on Geography 10/6～10/13　国際学会	中国 上海市 華東師範大学	“Restructuring of Rice Production Area and Market in Japan”
経済学部	白石　英才	Globalising Sociolinguistics 6/16～6/21　国際学会	オランダ ライデン ライデン大学	“Nivkh Writing Practices: Literacy and vitality in an endangered language”
人文学部	大塚　宜明	日本旧石器学会　第 13 回大会 6/19～6/21　全国学会	宮城県 仙台市 東北大学	「滋賀県大津市真野遺跡出土の細石刃石器群関連資料について」
人文学部	奥田　統己	The 17th Annual Conference of the English Department, University of Bucharest 6/3～6/7　国際学会	ルーマニア ブカレスト ブカレスト大学	“Transitivity alternation in the languages around Hokkaido”
人文学部	北田　雅子	第 74 回日本公衆衛生学会総会 11/3～11/6　全国学会	長崎県 長崎市 長崎ブリックホール	「高齢者のヘルスリテラシーの現状と課題　～札幌近郊の高齢者を対象とした調査から～」
人文学部	木戸　　功	第 25 回日本家族社会学会大会 9/4～9/6　全国学会	大阪府 茨木市 追手門学院大学	「NFRJ と質的研究」
人文学部	児島　恭子	The 22th International Committee of Historical Science（第 22 回国際歴史学会議） 8/22～8/27　国際学会	中国 山東省済南市 山東ホテル	“A Historical Research of Natural Disasters of the Japan Ancient Times and the Medieval Time from the Viewpoint of Gender”
人文学部	眞田　敬介	The 13th International Congnitive Linguistics Conference 7/19～7/24　国際学会	イギリス ニューキャッスル ノーザンブリア大学	“A Usage-Based Approach to Epistemic Have to”
人文学部	佐野　友泰	日本心理臨床学会　第 34 回秋季大会 9/18～9/21　全国学会	兵庫県 神戸市 神戸国際会議場ほか	「コラージュ作品の国際比較Ⅱ　── 日本・マレーシア・タイ・インドネシア学生の作品比較 ──」
人文学部	ヒンクルマン D. W.	Moodle Moot Australia 2015（ムードルｅラーニング学会） 7/4～7/12　国際学会	オーストラリア ビクトリア州クレイトン モナッシュ大学	①“Blended Learning Ecologies: The Power of Face-to-face Learning with Moodle” ②“Video Assessment of Performances with Self/Peers/Instructors”
人文学部	牧野　誠一	日本特殊教育学会　第 53 回大会 9/19～9/21　全国学会	宮城県 仙台市 東北大学	「知的障害者が大学で学ぶ『オープンカレッジ』の北海道地区における活動の分析」

学部	申請者	学会名	開催地	発表タイトル
人文学部	水島　梨紗	International Pragmatics Association 7/24～8/2　国際学会	ベルギー アントワープ アントワープ大学	“Do English education in Japanese high school provide sufficient pragmatic instruction?: A quantiative study of English textbooks and teachers”
人文学部	森　　直久	The 16th Biennial Conference of International Society for Theoretical Psychology 6/24～7/2　国際学会	イギリス コベントリー コベントリー大学	“The third way to remembering and memory: Neither storage nor construction but body-environment contact”
法 学 部	松本　祥志	地域文化学会　2015 年度研究大会・総会（第 18 回） 6/6～6/8　全国学会	東京都 港区 東京海洋大学	「ウブントゥにおける差異と格差」

所員の動向

新任・退職・在外・国内研究員

新任

氏　名	職名	所属	
望　月　和　代	教授	人文学部	2015 年 4 月 1 日
安　木　尚　博	教授	人文学部	2015 年 4 月 1 日
山　本　　彩	准教授	人文学部	2015 年 4 月 1 日

退職

氏　名	職名	所属	
赤　羽　幸　雄	教授	経営学部	2016 年 3 月 31 日
兒　玉　敏　一	教授	経営学部	2016 年 3 月 31 日
山　田　昭　夫	教授	経済学部	2016 年 3 月 31 日
大　場　隆　広	准教授	経済学部	2016 年 3 月 31 日
川　合　増太郎	教授	人文学部	2016 年 3 月 31 日
小　林　好　和	教授	人文学部	2016 年 3 月 31 日
土　渕　美知子	教授	人文学部	2016 年 3 月 31 日
中　野　英　子	教授	人文学部	2016 年 3 月 31 日
牧　野　誠　一	教授	人文学部	2016 年 3 月 31 日
渡　邉　知　樹	教授	人文学部	2016 年 3 月 31 日
小　杉　伸　次	教授	法学部	2016 年 3 月 31 日
佐々木　　健	准教授	法学部	2016 年 3 月 31 日
松　本　祥　志	教授	法学部	2016 年 3 月 31 日
向　　裕　加	講師	法学部	2016 年 3 月 31 日
太　田　清　澄	教授	社会情報学部	2016 年 3 月 31 日
櫻　井　道　夫	教授	社会情報学部	2016 年 3 月 31 日

在外・国内研究員はなし

外部資金等概要

科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）一覧

科学研究費補助金

研究代表者	研究種目	研究課題	直接経費	間接経費
臼杵　　勲	基盤研究（A）	初期遊牧国家の比較考古学的研究	4,700,000	
奥田　統己	研究成果公開促進費（データベース）	アイヌ語音声データベース	1,600,000	
			6,300,000	

学術研究助成基金助成金

研究代表者	研究種目	研究課題	直接経費	間接経費
新田　雅子	若手研究（B）	北海道農村地域における低所得高齢者の生活史と生活困難に関する調査研究	500,000	
中村　永友	基盤研究（C）	大規模欠測を伴う空間系列的超大量非典型データの統合的モデリング	700,000	
平体　由美	基盤研究（C）	20 世紀アメリカ医療史の展開 ── 望ましき身体と機構	1,300,000	
佐々木　健	若手研究（B）	子の意思尊重原理と子のための手続代理人：日独墺比較研究	500,000	
大場　隆広	若手研究（B）	戦後日本における養成工の役割 ── トヨタ, デンソー, 日立製作所を事例に ──	200,000	
白石　英才	基盤研究（C）	サハリン・アムール地域の言語地図	1,200,000	
村澤和多里	基盤研究（C）	心理的・社会的自立の基盤が脆弱な児童・若者への包括的支援枠組みについての研究	800,000	
清水　敏行	基盤研究（C）	民主化以降の韓国と台湾における政治と市民社会の相互作用の比較研究	500,000	
佐々木　冠	基盤研究（C）	通言語的観点から分析する逆使役的関連形態法の広がり	1,400,000	
児島　恭子	基盤研究（C）	イチョウ巨樹の乳信仰に関する歴史研究	700,000	
小内　純子	基盤研究（C）	農山村における新しいソーシャル・サポート・システム構築に関する研究	700,000	
大澤　真平	基盤研究（C）	子ども・若者の貧困とその経験：社会的文脈を組み込んだ分析視角から	500,000	
横山登志子	挑戦的萌芽研究	複合的困難を抱える DV 被害母子の生活再建期における「積極的分離」	900,000	
			9,900,000	

分担金

研究分担者	研究種目	研究課題	直接経費	間接経費
佐々木　冠	茨城大学・基盤（B）・岡崎班	必異原理の射程と効力に関する研究	220,000	
佐々木　達	東洋大学・基盤（C）・川久保班	TPP・コメ輸入圧力下における日本の稲作と農山村の再編方向に関する地理学的研究	280,000	
白石　英才	北海道博物館・基盤（C）・水島班	シュミット線とサハリン先住民の植物資源：環境の多様性から見た文化の地域的多様性	50,000	
土居　直史	関西学院大学・基盤（B）・土井班	技術革新とネットワーク外部性を考慮した両面寡占市場に関する理論的・実証的研究	700,000	
大澤　真平	北海道大学･基盤（B）・松本班	地方都市における貧困の世代的再生産の構造と政策的対応に関する実証的研究	50,000	
北田　雅子	北里大学・基盤（C）大野班	家族・産業システムに働きかける禁煙継続のための保健指導プログラムの開発	100,000	
藤野　友紀	立教大学・基盤（B）・石黒班	海外にルーツがある文化的に多様な子ども達の表現活動を中心とした学習共同体の研究	50,000	
森　　直久	立教大学・基盤（A）・河野班	知のエコロジカル・ターン：人間的環境回復のための生態学的現象学	400,000	
森　　直久	青山学院大学・新学術領域・高木班	虚偽自白発生防止を重視した被疑者面接技法の開発	675,000	
森　　直久	北海道大学・新学術領域・仲班	法と人間学	200,000	
横山登志子	大阪府立大学・基盤（B）・山野班	効果的なスクールソーシャルワークモデルの評価と理論構築	300,000	
小澤　隆司	早稲田大学･基盤（A）・浅古班	帝国と植民地法制に関する比較法制史研究	200,000	
佐々木　健	立命館大学･基盤（B）・二宮班	家事事件当事者の合意による解決と家事調停・メディエーション機能の検証	150,000	
大國　充彦	中央大学・基盤（A）・中澤班	東アジア産炭地の再定義：産業収束過程の比較社会学による資源創造	680,000	
小内　純子	北海道大学･基盤（A）・小内班	先住民族の労働・生活・意識の変容と政策課題に関する実証的研究	50,000	
小内　純子	山口大学・基盤（B）・横田班	大規模災害における創発型自治体支援とそのフィードバック効果に関する研究	600,000	
高田　　洋	統計数理研究所・基盤（B）・前田班	パラデータを活用した訪問調査法の精度管理と不能バイアス補正に関する研究	350,000	
			5,055,000	

科学研究費助成事業　成果報告

〈科学研究費補助金〉

◆研究種目名

基盤研究（A）（一般）

◆研究期間

平成 26 年度～平成 30 年度

◆研究課題名

初期遊牧国家の比較考古学的研究

◆研究代表者名

人文学部教授・臼杵　　勲

◆研究実績の概要

本年度は前年度の資料調査時に，調査担当を中心に研究方針と実施計画の確認を行い，また人骨調査については，石田肇と連携研究者の長岡朋人が調査計画を策定した．以上に基づき，9 月にモンゴルでの現地発掘調査と整理，人骨調査を実施した．また，3 月に関連資料を有するブリヤート自治共和国内の研究機関において所蔵資料の調査を実施した．

現地発掘調査は，モンゴル国ホスティン・ボラク遺跡群において，鉄生産・窯業生産・墓地遺跡の測量・発掘調査を継続した．本年は一般調査・試掘による窯址の分布の確認と試掘（KBS3 地点），窯址関連以降の発掘（KBS2 地点），炭化物サンプルの採取，製鉄工房部（KBS1 地点）の調査を実施した．KBS3 地点では，数基の廃棄土坑を検出し，多数の窯体片を採集し，窯の形態に関する資料を得た．試掘では新たな地点と遺構を確認した．製鉄工房では南シベリアなどと共通する形態の炉址が確認された．並行して土壌サンプルと年代測定用の炭化物を採取した．調査後，出土資料の整理作業を行い，図化・写真撮影を行った．年代測定結果では，各遺構・地点の年代幅が紀元 3～後 1 世紀の中に収まることが確認でき，操業に関連性が強いことを確認した．人骨についてはモンゴル国立大学所蔵資料の調査を実施し，次年度以降の詳細調査の準備を整えた．

ロシア科学アカデミーシベリア支部モンゴル学・仏教学・チベット学研究所とブリヤート国立博物館の所蔵資料の調査を実施し，遺物等の資料作成，種子・製鉄関連サンプルを得た．以上の資料については共同研究と成果公開に関して，上記研究所との間に協定を結んだ．

匈奴の生産・定住についての史料の集成作業，考古学・人類学・歴史学に関する文献・論文等のデータベースの作成を継続して進めた．

1 月に研究参加者らによる，打ち合わせを行いこれまでの成果の確認と次年度の調査計画を検討した．

◆研究種目名

研究成果公開促進費（データベース）

◆研究期間

平成 27 年度

◆研究課題名

アイヌ語音声データベース

◆研究代表者名

人文学部教授・奥田　統己

◆研究実績の概要

本計画の目的は，アイヌ語アイヌ文化研究者と音声データベースの専門家との共同作業によって，これまで採録されてきた音声資料をインターネット上でオンラインデータベース化し，きわめて危機的な状況にあるアイヌ語の研究・教育および今後の再活性化に寄与することである．

本計画に参加するアイヌ語アイヌ文化研究者は，これまでもアイヌ語資料の記録･整備･公開を積極的に行なってきた．そのなかでとくに本計画が学術的価値を持つのは，ア．これまでテープや CD などの媒体で公開してきた資料を含め，単語や文の単位で音声を検索できかつ日本語訳や文脈などをも得られるかたちで，公開すること，イ．資料の絶対量のみならず，40 年以上前の録音を含むなど記録の時期の幅においても，アイヌ語研究史上最大規模の音声データベースとなること，ウ．オンライン化することで公開可能な資料の量が増え，また入手の困難が解消できること，などの諸点にある．

〈学術研究助成基金助成金〉

◆研究種目名

若手研究（B）

◆研究期間

平成 24 年度～平成 27 年度

◆研究課題名

北海道農村地域における低所得高齢者の生活史と生活困難に関する調査研究

◆研究代表者名

人文学部准教授・**新田　雅子**

◆研究実績の概要

H24 年度は，調査対象地域およびインタビュー対象者の確保を主眼として活動した．道東部酪農地帯のＳ町と農林業を主幹産業とする道北部Ｏ町の，いずれも高齢者保健福祉関連部署に協力をあおぎ，ご紹介いただいた各１名に対するライフヒストリーの聞書きに着手した．調査実施にいたるまでに直面した課題として，もともと人口の少ない農村部において，独居の高齢者で，依頼の趣旨を理解し，私宅での調査を承諾できる人が希少であること，そこに「低所得層」という条件を加えると，該当者を見つけることが難しいという現実があった．このため研究計画を軌道修正する必要が生じた．また，プライベートな内容におよぶライフヒストリーを成果とする場合，居住地域はもちろんのこと，固有名詞は徹底して匿名化せざるをえず，Ｓ町やＯ町の地域概況は雑駁な表現にとどめる判断をした．

そこで H25 年度と 26 年度は，Ｓ町とＯ町でのフォローアップ調査に加え，栗山町日の出地区，および十勝清水町松沢地区における地域福祉実践活動に関するヒアリングを実施し，研究視角を広げた．また，H26 年度にはこれまでの調査実績をふまえ，「農村女性史」という営みを地域高齢者福祉の基盤としての〈継承〉に位置づけるという研究的展開に行き着いた．

H27 年度は，Ｏ町の一事例を論文化した．また，Ｓ町の一事例については本人の入院という事態に遭遇し，家族へのヒアリングを行うことができた．加えてＳ町で新たに１名，別のＡ町でも２名に対する聞書きを開始した．結果として，独居高齢女性５名のライフヒストリーと，閉校になった小学校舎を活用し小規模多機能事業所を開始した，十勝清水町松沢地区の老人クラブ「松寿会」の取り組みを，「高齢者福祉の理念としての〈継承〉」というタイトルで報告書としてまとめる方向性が固まった（現段階では未校了）．

◆研究種目名

基盤研究（C）（一般）

◆研究期間

平成 25 年度～平成 27 年度

◆研究課題名

20 世紀アメリカ医療史の展開 ── 望ましき身体と機構

◆研究代表者名

人文学部教授・**平体　由美**

◆研究実績の概要

本共同研究は，医療保険制度と優生学運動の研究に限られていたアメリカの医療史の裾野を広げ，さまざまな論点を多角的にとらえなおすことを目的として行われたものである．合計６回にわたる共同研究会では，社会史，政治史，産業史，政治学の専門家が一堂に会し意見をたたかわせただけでなく，日本史や中国史，イギリス史など，研究の蓄積が豊かな分野の研究者をお招きして講話をたまわり，アメリカ医療史研究との比較について議論することができた．そこで得られた知見を各自が個別の調査と考察で練り上げ，さらに次の共同研究会で議論を展開した．この３年間にわたり，我々は自らの知見を広げただけでなく，学会報告やシンポジウムを通して，日本のアメリカ研究界に少なからぬ貢献をしたと考える．

これまでのアメリカ研究は，理念や心情，アイデンティティなどに焦点をあて，緻密な分析を行うものであった．本共同研究はそこに医療史の方法を提示することで，ある意味「裏口」からアプローチする可能性を提示した．たとえば社会史において人種は，差異を出発点として平等なシティズンシップを追求する運動として描かれる．医療史ではこれが逆転する．すなわち，誰でも等しく感染・発症する可能性があるという現実を出発点として，社会がこれまで構築してきた差異をいかにそこに実現するかという運動が出現する．この構造を明らかにすることによって，身体や病という現実が，いかに心情やアイデンティティと衝突を繰り返しつつ，実際の制度や機構を作り上げてきたかについて，光を当てることができた．個別化に向かいがちなアイデンティティ研究に対し，世界共通の理論に基づく，人種や性の差異にほとんど左右されない医療の歴史の方法論が，より豊かな可能性を提供することが明らかになった．

本共同研究の成果は，2016 年中に論集として発表することを予定している．

◆研究種目名

若手研究（B）

◆研究期間

平成 25 年度～平成 27 年度

◆研究課題名

子の意思尊重原理と子のための手続代理人：日独墺比較研究

◆研究代表者名

法学部准教授・**佐々木　健**

◆研究実績の概要

本研究の補助事業期間最終年度となる平成 27 年度では，当初の研究計画としてはオーストリアにおける「子ども補佐人」法制の実態分析を行い，これまでのドイツ「手続補佐人」法制の実態分析と合わせた上で日本法への示唆を抽出し，公表することに重点を置いていた．しかし，最終年度の研究主眼であったオーストリア法制の具体的運用に関する実態調査にまで至ることができず，制度発足の歴史的経緯や制度概要の把握，関連資料の収集，実定法との関連から 2013 年親子法改正による子の福祉規定（ABGB138 条）の確認，配慮権手続の手続期間短縮に向けた家庭裁判所援助制度の把握に留まった．

子ども補佐人制度オーストリアにおける子ども補佐人制度については，ドイツ法制と具体的職務や専門養成等の点で若干異なり，また，現時点に於いて詳細が報告されていないこともあるため，今後その内容をまとめた論文を執筆・公表することで，より手続代理人制度が活用される一助としたいと考えている．

なお，採択初年度より，日弁連子どもの権利委員会における手続代理人制度の研究会等を通じて実際の手続代理人の活動からいかなる課題が存在するか確認しているが，同研究会においてはドイツ法制の運用等をもとに課題解決への示唆を行った．

本研究における具体的な研究実績としては，日本法の制度運用上の課題を踏まえ，ドイツ手続補佐人制度の運用実態から，専門性の確保や報酬・費用償還等の観点より示唆を抽出した「ドイツ手続補佐人制度の運用と日本法への示唆」を執筆し，二宮周平・渡辺惺之（編）『子どもと離婚』（信山社，2015）253 頁以下に公表したことが挙げられる．将来的により手続代理人制度が適切に活用されるための要素として，専門養成の向上に向けた発達心理学との学際的な協働の必要性，地域間の専門性格差の是正，一般市民への情報アクセスの拡充，国費負担の必要性について言及した．

◆研究種目名

基盤研究（C）（一般）

◆研究期間

平成 25 年度～平成 28 年度

◆研究課題名

大規模欠測を伴う空間系列的超大量非典型データの統合的モデリング

◆研究代表者名

経済学部教授・**中村　永友**

◆研究実績の概要

本研究の目的は人工衛星で観測される磁気圏プラズマ速度データの統合的な分析を行うための種々の問題解決である．データの特徴的な形式は「離散×不等間隔×方角データ×擬頻度×非対称分布×ノイズ的データの存在×複数成分×大規模×時系列的」という，これまでの統計科学が個別に扱ってきたデータ形式が混在した，非正規・非典型データである．これらの各要素は正則化等の変換により従来の統計手法で処理することは可能であるが，手法をただ単に組み合わせただけでは十分有意が情報抽出はできない．本研究はこれらのここの問題解決を順次行い，時空間統合モデルを作り，最終的な目標としては人工衛星搭載可能なソフトウェアの開発である．

今年度は大規模欠測に関する理論的考察とそのための実装を行った．欠測に対する処置として，データ増大法と積分による埋め込み法の比較検討を行った．その結果，確率分布が比較的単純な場合には積分による埋め込み法が有意であることが確認された．この件の検討にあたって離散確率分布にしたがう乱数の生成を通して，連続型確率分布にしたがう乱数生成法を提案し，ある程度多量の乱数が必要な場合は，ボックス・ミューラー法などの正規乱数生成法より，生成時間や正規性の特徴において優れた生成法であることが確認された．

また欠測がある場合の混合分布の成分数推定の理論的考察を通して，潜在変数を含む統計モデルにおける効果的なブートストラップ標本を通したパラメータ推定法を提案した．

◆研究種目名

若手研究（B）

◆研究期間

平成 25 年度～平成 28 年度

◆研究課題名

戦後日本における養成工の役割 ── トヨタ，デンソー，日立製作所を事例に ──

◆研究代表者名

経済学部准教授・**大場　隆広**

◆研究実績の概要

本研究は「養成工」と呼ばれる労働者を研究対象としており,「養成工」とは「戦後の新制中学（戦前は小学校）を卒業後，その費用と給与（奨学金）を企業が負担する，座学と実習からなる 3 年程度の企業内教育を受けた技能者」のことである．本研究（養成工研究）の目的は，第一に戦後日本の製造業発展の原動力を探ることであり，第二に今後の日本を左右する技能の継承問題，海外の人材育成問題の解決に寄与することである．まず，戦後一貫して現在まで養成工教育を存続させている三社（トヨタ自動車，デンソー，日立製作所）を事例に，設立当初から現在までの養成工の役割を明らかにし，養成工の役割についての，企業間・産業間の共通点と相違点を確認する計画である．

研究成果としては以下の 3 点が挙げられる．まず第一に，養成工を含めた戦後の企業内学校の数量データの蓄積が進んだことが挙げられる．収集できた年度は限られるものの，労働省が実施した調査資料を収集することができ，これによってどの地域のどの企業がどのような企業内教育を実施していたのかを量的に把握できるようになった．

第二に，電気機械メーカーの日立製作所に関する資料の蓄積が進んだことがあげられる．特に日立製作所の労働組合に関する資料と，養成工の資料を収集できた．

第三に，既に収集したトヨタ自動車の養成工とデンソー養成工の資料に，新たに収集した企業内学校のデータ，日立製作所の資料を加えることで,「養成工教育を中心とした企業内教育は戦後のどの時期まで拡大したのか」「養成工の現場での意義はどのようなものであったのか」,「養成工は労使関係にどのような影響を与えたのか」について検討できる条件が整った．

◆研究種目名

基盤研究（C）（一般）

◆研究期間

平成 26 年度～平成 28 年度

◆研究課題名

サハリン・アムール地域の言語地図

◆研究代表者名

経済学部准教授・**白石　英才**

◆研究実績の概要

9 月 8 日から 9 月 22 日にかけて，ロシア連邦ハバロフスク管区およびサハリン州にて現地調査を行った．ハバロフスク管区においてはハバロフスク市内で 1 名，ニコラエフスクで 4 名，チリャーで 1 名，またサハリン州においてはネクラソフカで 1 名の話者と面会，集中的に調査した．調査項目は前年度に引き続き，2 音節語根における各母音フォルマントおよびアクセントの計測を目的とした調査票に基づく．前年度に引き続いて調査できた被調査者には，前回調査の漏れあるいは補足の聞き取りを実施することができた．

またネクラソフカにおいては，シュミット方言の話者から集中的に聞き取りを行い，単語レベルのみならず，まとまったテキスト，特に会話資料を収集することができた．シュミット方言は北部方言とも呼ばれ，話者数が少ないニヴフ語においても特に話者数が少ない方言である（推定で 5 名）．この方言の記述は非常に少なく，またテキストが出版されたことはこれまで一度もない．今回の資料は『ニヴフ語音声資料 12　ナデジュダ　グリゴリエヴナ・ベソノヴァ』として音声 CD 付で公刊したが，これは画期的であった（WEB でも同時公開）．話者のベソノヴァ氏はシュミット方言の研究が進むことを願って，長らく研究者に協力を求めていた．今回，ベソノヴァ氏のそうした要望にわずかながらでも応えることができたことは喜ばしく，今後の研究活動の継続の観点からも望ましい．言語学者の地道な努力が被調査者および現地コミュニティにその成果・意義を認められた瞬間を実感できた．

◆研究種目名

基盤研究（C）（一般）

◆研究期間

平成 26 年度～平成 28 年度

◆研究課題名

心理的・社会的自立の基盤が脆弱な児童・若者への包括的支援枠組みについての研究

◆研究代表者名

人文学部准教授・**村澤和多里**

◆研究実績の概要

平成 27 年度は，平成 26 年度の研究を継続しつつ，より実践的な研究調査に着手した．

具体的には，下記のような調査ならびに研究を行った．1．平成 26 年度に行った若者自立支援実践者を対象にした聞き取り調査の内容の一部をまとめ，研究代表者が監修ならびに執筆し「ひきこもる心のケア ── ひきこもり経験者が聞く 10 のインタビュー ──」という書籍として刊行した．2．平成 26 年度にひきつづき北海道湧別郡遠軽町「北海道家庭学校」での実践について，心理師の姜氏の聞き取り調査を行った．3．福島県の郡山若者サポートステーションにおける若者自立支援について，代表の小林直輝氏に聞き取り調査を行った．4．全国若者・ひきこもり協同実践交流会 in 福島（第 11 回）に参加し，近年の若者自立支援の動向についての情報収集を行った．5．鹿児島県にあるラグーナ出版（精神障害者自立支援施設）において，精神障碍者の自立支援についての特異な取り組みについての調査を行った．6．北海道の地方部（ニセコ町）において，不登校児童の居場所つくりに参加，観察を行った．7．栃木県の児童養護施設「ネバーランド」において，児童の養育環境とネグレクト状況のおよぼす心理的影響と，そのような児童たちの社会的自立支援の課題について聞き取りを行った．8．不登校からひきこもりに至る問題の発生と進展について，心理学，社会学，教育学にまたがる資料を収集し，レビュー論文を執筆・投稿した（審査中）．

◆研究種目名

基盤研究（C）（一般）

◆研究期間

平成 27 年度～平成 31 年度

◆研究課題名

民主化以降の韓国と台湾における政治と市民社会の相互作用の比較研究

◆研究代表者名

法学部教授・**清水　敏行**

◆研究実績の概要

申請書における研究実施計画に基づき，以下の調査研究を行った．

第一に，韓国の国会図書館において台湾政治に関する韓国人の研究成果を調査した．その結果，それに関する論文と書籍を複写，又は購入することができた．かなりとは言えないが，若干というかある程度の研究がなされていることがわかった．第二に，台湾では中央研究院の政治学研究者に会い，台湾政治の現況（総統選挙）についてインタビューする一方，台湾政治に関する書籍（中国語）を購入してきた．第三に，韓国に行き 2016 年 4 月に予定されていた国会議員選挙の展望について韓国政治研究者にインタビューする一方，市民運動の研究者にも会い，韓国の市民団体の現況について政治とのかかりを中心にインタビューした．またソウルにある NGO センターを訪問するなど資料を収集した．第四に，日本における台湾研究の論文，単行本を購入，複写して収集した．

研究実施計画では，台湾の研究者による政治研究の成果（英語文献）を収集することとしていたが，実施することができず，次年度の課題となる．2015 年度の調査では，上記で収集した資料を読み解く作業であり，それはまだ進行中であるが，台湾政治の現況，韓国における台湾政治の研究状況について大まかなところを把握することができた．

◆研究種目名

基盤研究（C）（一般）

◆研究期間

平成 27 年度～平成 29 年度

◆研究課題名

通言語的観点から分析する逆使役化関連形態法の広がり

◆研究代表者名

経営学部教授・**佐々木　冠**

◆研究実績の概要

2015 年度は方言語形収集用のプログラムを実装したサーバを研究室に導入するなどして，逆使役構文に関連するデータの収集を行なうとともに研究会を実施して意見交換を行なうことを目標としていた．しかしながら，この目標は半分しか達成することができなかった．

データ収集に関しては十分納得のいく進捗が見られた．2015 年 9 月に研究室にサーバを設置し，インターネット上の方言語形の収集を開始した．申請者は 2007 年から 6 年間インターネット上の方言語形を Yahoo! API を利用するかたちで収集してきた．しかし，2013 年に Yahoo! Japan が API によるサービスを終了したため，独自に語形収集を行なうプログラムを走らせる必要が出た．2015 年度から実施しているこの研究計画で科研費を用いて語形収集プログラムを実装したサーバを研究室に設置した．

設置したサーバでは北海道方言の自発述語，福島方言の自発述語のデータを収集すべく語形登録を行なった．北海道方言に関しては，自発述語の標準語形と「ラ入れ」「サ入れ」形式をともに登録しデータの収集を行なった．その結果，標準語形に関してはかなりの数のデータを集めることができた．「ラ入れ」形式と「サ入れ」形式に関してはあまり多くの語形を収集することができなかった．

研究室に設置したサーバにはルーマニア語の再帰動詞も登録した．こちらは非標準的な用法の収集を目指したものであるにもかかわらず，かなりの量のデータを得ることができた．

リトアニア語に関しても研究協力者の櫻井映子氏にリトアニアに出張してもらいデータ収集を行なってもらうことができた．

一方，研究会は開催することができなかった．これは研究代表者が日本言語学会の大会運営委員長になってしまったことにより，「多忙で研究会を組織できない」とパニックに陥ったためである．

◆研究種目名

基盤研究（C）（一般）

◆研究期間

平成 27 年度～平成 29 年度

◆研究課題名

イチョウ巨樹の乳信仰に関する歴史研究

◆研究代表者名

人文学部教授・**児島　恭子**

◆研究実績の概要

巨樹と人間の関係史のなかでも特異なイチョウ巨樹信仰の歴史を明らかにすべく，研究協力者とともに乳信仰の様相を調査した．平成 27 年度に調査したのは以下にある対象木である．兵庫県朝来市乳ノ木庵・豊岡市大生部兵主神社・丹波市常龍寺・多可町青玉神社，広島県福山市吉備津神社，京都府米原市了徳寺・米原市諏訪神社，福井県小浜市若狭姫神社・おおい町日枝神社・敦賀市金山彦神社・鯖江市三峯・勝山市白山神社，青森県青森市姥神社・青森市山寺跡・東北町新舘八幡神社，岐阜県高山市国分寺，千葉県市原市若宮神社・市原市飯香岡八幡神社，和歌山県みなべ町丹河地蔵堂・九度山町北又，奈良県御所市一言主神社，埼玉県飯能市高山不動・東松山市岩殿観音・都幾川町関堀・松伏町大川戸八幡神社・和光市長照寺・川口市峯八幡宮．

これらの事前の文献調査等により乳信仰があるとされていたイチョウのなかには，一般的なイチョウ信仰の解説としてそう記されているだけで，実際には信仰がなかったとみなされるものがあり，注意が必要であることがわかった．いっぽう，かつて乳信仰があったことが遺物等で確認できるところもあったが，実態についてはすでに聞き取りが不可能になっていたところが多い．

丹波市常龍寺や鯖江市三峯などのイチョウ巨樹は，中世の山城（と関連する寺）に守護木として存在し，廃城・廃寺になった跡に存在し続け地元の住民に守られてきた巨木で乳信仰に移行してきたと考えられる例である．また，九度山町北又をはじめとするタイプは，今は過疎の山村の一角であるがかつては重要な交通路であったところにおそらく宗教者によって植えられたものがひっそりと残存している例であり，これまで言及されなかった歴史的意義についての仮説を得た．

◆研究種目名

基盤研究（C）（一般）

◆研究期間

平成 27 年度～平成 30 年度

◆研究課題名

農山村における新しいソーシャル・サポート・システム構築に関する研究

◆研究代表者名

社会情報学部教授・**小内　純子**

◆研究実績の概要

今年度予定した研究の 3 つの柱について以下のような取組を行った.

(1) 住民生活，集落生活をサポートする施策の展開という観点から農業政策と福祉政策の整理：集落との関わりで見ると農業政策は 1970 年代に大きく変化し，さらに 2000 年の中山間地域等直接支払制度以降，質的な深化を遂げてきている．農業政策と集落の関わりを焦点に政策の整理を行い，福祉的な観点からの検討も行った．この点を整理して研究会で報告した.

(2) 住民生活のサポートという観点から統計データや各種資料の分析と類型化する試み：国勢調査，農林業センサスのほか，社会福祉協議会の便覧や NPO 法人一覧などを用いて分析と類型化を試みた．その分析結果を用いて, 本研究が対象とする北海道栗山町と清水町，および秋田県大仙市と横手市の農村を取り上げることの妥当性と位置づけを明確化した.

(3) 選定した調査地に対する機関調査と集落調査の実施：今年度は，北海道清水町と秋田県横手市の調査を実施した．清水町に関しては，8 月に役場，社会福祉協議会，2 月に農協，松沢地区連合会・農事組合，松沢地区老人会の調査を行った．松沢地区には，“松沢之郷”という閉校した小学校を利用した介護施設が存在している．NPO 法人で運営されているが, 運営を担っているのは松沢地区の農家の人たちである．どのような経緯で設立に至ったのかを，集落活動との関わりで明らかにした.

一方，横手市については，12 月に市役所，NPO 法人に対する機関調査と 2 月に住民組織「共助組織」に関する調査を実施した．共助組織は主に除雪を担う組織であるが, NPO 法人の側からの働きかけにより組織されていった経緯があり，その経緯の把握を行った.

◆研究種目名

基盤研究（C）（一般）

◆研究期間

平成 27 年度～平成 29 年度

◆研究課題名

子ども・若者の貧困とその経験：社会的文脈を組み込んだ分析視角から

◆研究代表者名

人文学部准教授・**大澤　真平**

◆研究実績の概要

初年度の研究としてパイロット的なヒアリング調査を実施した．特にジェンダー視点から女性のライフコースに焦点を絞り，子ども期から若者期に貧困にある女性のライフコース研究として何を明らかにすべきかについて，理論的な検討を行うためのヒアリングを実施した.

ヒアリング調査は 2007 年度に行った子ども期に貧困にあった若年女性 4 名であり，いずれも 10 年来継続して関わりを持ちながらヒアリングを行ってきた方である．特に女性のライフコースとして，生育家族内に留まるケース，稼働所得による単身「自立」を果たしたケース，結婚により離家を果たしたケース，福祉サービスによる「自立」のケースと，特徴的なケースにある対象者からヒアリングを行い，理論構築に大きな示唆を得ることができた.

これらのヒアリング調査をもとに，総勢 10 名のジェンダーないし「子どもの貧困」「女性の貧困」についての研究者との 2 度の研究会に参加し，ジェンダー視点からの女性のライフコース研究について理論的な視座について報告・議論を行った．そのなかで，世帯内の「女性の貧困」の表れ，貧困にある人々の「主体性」の発揮のあり方, 貧困への出入とライフコースの時間軸の関係など，いくつかの理論的な柱となる特徴をつかむことができた.

現在，これらのヒアリング調査と報告・議論をふまえた先行研究等の再検討を進めており，その成果をまとめる作業を行っているところである．また書評などの執筆を通じた整理もすすめている.

◆研究種目名

挑戦的萌芽研究

◆研究期間

平成 27 年度～平成 28 年度

◆研究課題名

複合的困難を抱える DV 被害母子の生活再建期における「積極的分離」

◆研究代表者名

人文学部教授・**横山登志子**

◆研究実績の概要

①母子生活支援施設における事例研究は，施設の支援記録を時期区分に分けたうえで，前向きな意味をもたせた分離への支援がどのようになされたのかを分析した．支援の早い時期で分離の可能性が検討され，さまざまな出来事を経験しながら紆余曲折を経て最終的には母親が分離を主体的に決断できているが，その間，支援者の限界レベルを上げながらぎりぎりの支援がなされている状況がよみとれた．最終的に介入による分離ではなく，母みずからが分離を決断できたのは，職員によるねばりづよい生活密着型の母子支援，担当職員と母親の安定した関係性を基軸にした直面化を含む支援，関係機関との連携，状況の極まり，母親の SOS 発信／職員の SOS 受信能力などであった．

②関係機関へのヒアリングは，上記事例分析と平行して，先進的な実践を行っていると思われた母子生活支援施設（京都，2ヶ所）と民間の DV シェルター（大阪，1ヶ所）に，活動内容と分離ケースについての支援内容を聞いた．母子生活支援施設においては当該事例のような分離ケースの経験は切実であり，分離を主体的に選択できるような母親への支援について，実践的意義が確認された．

③当該事例の母親へのインタビューは本人の同意を得て合計 3 回実施した．施設入所前，施設入所中，分離への判断，現在の思いなどを聞いた．このデータは母親の立場からみた分離へのプロセスと判断内容を検討する素材とする．また，それ以外にも当該施設の入所者・退所者を対象としたグループワークでの発言内容なども得られたため，データ化した．

受託研究

◆研究代表者
経営学部教授・三好　　元
委託機関名
全国信用組合中央協会
研究種目名
しんくみ研究センター研究委託費
研究期間
2015 年度
研究題目
信用組合の経営戦略
研究費
200,000 円

◆研究代表者
経営学部教授・渡邊　愼哉
委託機関名
江別市
研究種目名
受託研究
研究期間
2015 年 7 月～2016 年 3 月
研究題目
札幌市近郊都市における地域住民幸福度に関する調査研究
研究費
686,100 円

◆研究代表者
経済学部准教授・井上　　仁　ほか
委託機関名
内閣府経済社会総合研究所
研究種目名
受託研究
研究期間
2015 年度
研究題目
経済の好循環と日本経済再生に向けた国際共同研究
研究費
220,000 円

◆研究代表者
経済学部教授・中村　永友
委託機関名
江別市
研究種目名
受託研究
研究期間
2015 年度
研究題目
江別市傾斜メッシュに関する研究
研究費
0 円

委託機関名
札幌学院大学
研究種目名
専門委員
研究期間
2015 年 9 月～2016 年 3 月
研究題目
学内 IR に関する分析
研究費
0 円

その他の研究資金

◆研究代表者
経済学部教授・中村　永友
助成機関名
情報・システム研究機構統計数理研究所
資金名称
共同利用研究（研究代表）
研究課題
一部の観測領域でランダムな欠測のあるデータへの混合分布モデルの適用
課題番号
27-共研-2014
研究期間
平成 26～27 年度
研究助成額
80,000 円

助成機関名
情報・システム研究機構統計数理研究所
資金名称
共同利用研究（研究分担，研究代表者：土屋高宏）
研究課題
欠番のある Eulerian 分布とその応用
課題番号
27-共研-2069
研究期間
平成 26～27 年度
研究助成額
80,000 円

◆研究代表者
人文学部講師・大塚　宜明
助成機関名
高梨学術奨励基金
資金名称
若手研究助成（研究代表）
研究課題
先史時代における置戸産黒曜石の利用解明を目的とした原産地調査
研究期間
2015 年度
研究助成額
520,000 円

◆研究代表者
人文学部教授・北田　雅子
助成機関名
日本禁煙学会
資金名称
日本禁煙学会調査研究事業助成
研究課題
喫煙防止および禁煙教育プログラムの効果評価の検討
研究期間
2015～2016 年
研究助成額
200,000 円

◆研究代表者
人文学部教授・寺岡眞知子
助成機関名
一般社団法人　全国保育士養成協議会
研究種目名
ブロック研究助成金分担者（代表者：北海道文教大学・小田進一）
研究期間
平成 26 年 9 月 1 日～平成 27 年 8 月末
研究題目
子どもとのかかわりから見る文化財としての絵本の魅力・価値の検証
研究助成額
150,000 円

◆研究代表者
人文学部教授・D. W. ヒンクルマン
助成機関名
Moodle Association of Japan
資金名称
MAJ 財団研究・開発補助金（研究代表）
研究課題
Open content course sharing website design.
研究期間
2015 年度
研究助成額
222,000 円

◆研究代表者
社会情報学部教授・小池　英勝
助成機関名
札幌学院大学
資金名称
2015 年度「FD を推進するための活動補助」
研究期間
2015 年 7 月～2016 年 3 月
研究助成額
243,300 円

国際交流

研究所員海外出張一覧

【経営学部】

佐々木　冠：①ルーマニア，6/3～6/8，The 17th Annual Conference of the English Department での口頭発表

邵　　藍蘭：①台湾，7/2～7/6，資料収集
②中国，11/5～11/10，IFRS 教育ワークショップ
③台湾，12/4～12/13，資料収集
④韓国，3/12～3/14，研究打ち合わせ

【経済学部】

浅川　雅己：①韓国，2/21～2/23，持続可能な東アジアを目指す韓日学術大会の報告者

片山　一義：①アメリカ，1/26～2/2，海外留研の準備，留研先大学の視察，事前打ち合わせ，及び Faculty Sponser と会談

佐々木　達：①中国，10/6～10/13，第 10 回中日韓三国地理学会議への参加，学会発表

白石　英才：①イギリス，5/26～5/31，第 23 回マンチェスター音韻学会（国際学会）にて研究発表
②英国・オランダ，6/16～6/21，学会発表（国際学会：Globalising Sociolinguistics）および共同研究者と意見交換，打合せ
③ロシア，9/8～9/22，ニヴフ語アムール方言および西サハリン方言の現地調査
④英　国，12/1～12/6，The Second Edinburgh Symposium on Historical Phonology にて研究発表

【人文学部】

臼杵　　勲：①モンゴル国，8/31～9/12，モンゴル国中央県ムングンモリット村内遺跡調査・出土資料整理

奥田　統己：①ルーマニア，6/3～6/7，ACED-17，Theoretical Linguistics and Applied Linguistics Section での研究発表のため
②デンマーク，8/23～9/2，コペンハーゲン大学所蔵アイヌ語音声資料調査のため

葛西　俊治：①イタリア，9/14～9/21，第 13 回ヨーロッパ・アートセラピー教育コンソーシアム大会発表

眞田　敬介：①イギリス，7/19～7/24，第 13 回国際認知言語学会に参加及び研究発表

佐野　友泰：①フィリピン，6/22～6/28，東フィリピン大学にてコラージュデータ収集
②モンゴル，12/4～12/9，モンゴル人文大学にてコラージュデータ収集

諸　　洪一：①韓国，3/6～3/9，史料収集（慶応 2 年平山図書頭朝鮮派遣計画）

平体　由美：①アメリカ，8/9～8/17，ロックフェラー財団文書館での資料調査

D. W. ヒンクルマン：①オーストラリア，7/4～7/12，国際大会「Moodle eMoot Australia 2015」ムードルｅラーニング学会への参加及び発表

水島　梨紗：①ベルギー，7/24～8/2，国際学会（International Pragmatics Association）参加および研究発表
②アメリカ，2/6～2/14，ゼミ研修にともなう研究活動および文献調査

森　　直久：①イギリス，6/24～7/2，国際理論心理学会第 16 回大会への参加と研究発表

【法学部】

家田　愛子：①台湾，12/4～12/13，共同研究打合せ

佐々木　健：①オーストリア，3/9～3/14，現地調査・資料収集

清水　敏行：①台湾，1/14～1/17，台湾政治の調査
②韓国，3/3～3/7，韓国における台湾研究の現況等について

松本　祥志：①モロッコ，5/13～5/17，国際会議“ISLL Terrorism and Morocco”で報告
②ニューヨーク，10/6～10/16，西サハラ・ティンドゥフ難民キャンプでの人道援助不正流用について，国連総会第四委員会で報告するため.
③アメリカ・イギリス，12/6～12/16，米国大西洋評議会及び英国グローバル外交フォーラム主催のそれぞれ国際セミナーで“ISIL Terrorism”について報告
④ダクラ，3/16～3/28，国際会議 Crans Montana Forum に出席（ダクラ），難民・テロ関連フォーラムで報告（ラバト）

【社会情報学部】

太田　清澄：①フィンランド・スウェーデン・ブルガリア，8/31～9/27，地域開発（まちづくり）フィールド調査

小内　純子：①フィンランド，8/16～8/24，フィンラ

ンドのサーミメディアと教育に関する調査のため

森田　　彦：①イタリア, 8/2〜9/3, イタリア　ペルージャ大学原子核物理グループ（Ciofi教授）との共同研究打ち合わせのため

運　　営

研究支援委員会議題一覧

2015 年度　総合研究所長　中村　永友（経済学部）
　　研究支援委員　原　　晴生（経営学部），井上　　仁（経済学部）
　　児島　恭子（人文学部），松本　祥志（法学部）
　　大國　充彦（社会情報学部）

第 1 回研究支援委員会

日時　2015 年 4 月 16 日㈭　13：30～
場所　総合研究所

Ⅰ．報告事項

1．2014（平成 26）年度研究支援委員会事業実績報告書について
2．2014（平成 26）年度研究関係予算執行状況について
3．研究関係予算について
4．研究促進奨励金の採択結果について
5．研究用機器備品等の再利用者募集について
6．札幌学院大学研究助成年間スケジュールについて
7．教員教育研究業績システムへのアクセス方法の変更について
8．「研究活動の不正行為への対応ガイドライン」の HP について
9．総合研究所年報の発行方法について

Ⅱ．審議事項

1．総合研究所研究員の選出について
2．事業計画について
3．科学研究費助成事業・間接経費執行計画について
4．著書買い上げ補助について
5．間接経費研究活動活性化事業の募集について
6．2016（平成 28）年度研究促進奨励金（重点研究）募集スケジュールについて
7．研究活動における不正行為防止のための倫理教育の実施について

第 2 回研究支援委員会

日時　2015 年 5 月 11 日㈪　15：00～
会場　総合研究所

Ⅰ．報告事項

1．研究機器再利用者の決定について
2．研究機器再利用者の募集（再募集）について
3．2015（平成 27）年度科学研究費助成事業交付決定（内定）について
4．2012（平成 24）年度在外・国内研究員の成果報告提出状況について
5．札幌学院大学総合研究所年報 2014　原稿提出状況について
6．日本学術振興会特別研究員（PD）について
7．「CITI Japan プロジェクト」による研究倫理教育について
8．今後の在外・国内研究員制度について

Ⅱ．審議事項

1．2015（平成 27）年度事業計画（案）について

第 3 回研究支援委員会

日時　2015 年 6 月 11 日㈭　13：30～
会場　総合研究所

Ⅰ．報告事項

1．研究機器再利用者（再募集）の決定について
2．2012（平成 24）年度研究促進奨励金成果報告提出状況について
3．2016（平成 28）年度研究促進奨励金（重点研究）申請状況について
4．学会発表旅費助成の募集について
5．総合研究所シンポジウムについて
6．人文研究部会の刊行要領の変更について

Ⅱ．審議事項

1．札幌学院大学における公的研究費不正防止計画について
2．科研費間接経費研究活動活性化事業募集（第 1 期）の申請状況並びに選考について

第 4 回研究支援委員会

日時　2015 年 7 月 16 日㈭　13：30
会場　総合研究所

Ⅰ．報告事項

1．2016（平成 28）年度札幌学院大学後援会　学術図書自費出版助成について
2．2016（平成 28）年度札幌学院大学選書の募集について

3．2016（平成 28）年度在外・国内研究員の変更について
4．2016（平成 28）年度予算編成方針（日程（案））について
5．総合研究所シンポジウムの進捗状況について

Ⅱ．**審議事項**
なし

第 5 回研究支援委員会

日時　2015 年 9 月 10 日㈭　13：30～
会場　総合研究所

Ⅰ．**報告事項**
1．2016（平成 28）年度　科学研究費助成事業の募集について
2．2016（平成 28）年度　科学研究費助成事業学内説明会について
3．2016（平成 28）年度　札幌学院大学後援会学術図書自費出版助成の募集について
4．2016（平成 28）年度　札幌学院大学選書の募集について
5．総合研究所シンポジウムの進捗状況について
6．2015（平成 27）年度後期からの『教員研究関係マニュアル』の変更について

Ⅱ．**審議事項**
1．学会発表旅費助成の申請状況及び選考について
2．2016（平成 28）年度　予算要求について

第 6 回研究支援委員会

日時　2015 年 10 月 15 日㈭　13：30～
会場　総合研究所

Ⅰ．**報告事項**
1．札幌学院大学選書の申請状況について
2．総合研究所紀要の論文の募集について
3．総合研究所シンポジウムの開催について

Ⅱ．**審議事項**
1．札幌学院大学後援会学術図書自費出版助成の申請状況及び選考について
2．札幌学院大学選書の再募集について
3．科研費間接経費執行計画及び研究活動活性化事業（第 2 期）の募集について
4．2016（平成 28）年度　予算要求について

第 7 回研究支援委員会

日時　2015 年 11 月 12 日㈭　13：30～
会場　総合研究所

Ⅰ．**報告事項**
1．2016（平成 28）年度科学研究費助成事業の申請状況について
2．2016（平成 28）年度予算要求について
3．札幌学院大学選書再募集の申請状況について
4．総合研究所シンポジウムの参加状況について
5．研究倫理教育 CITI-Japan の受講状況について

Ⅱ．**審議事項**
1．研究活動活性化事業（第 2 期）の申請状況及び選考について
2．「札幌学院大学組織規程」の一部改正について
3．札幌学院大学選書の再々募集について

第 8 回研究支援委員会

日時　2015 年 12 月 10 日㈭　13：30～
会場　総合研究所

Ⅰ．**報告事項**
1．2015（平成 27）年度　教員研究費等の執行期限について
2．マイナンバー制度の導入に伴う，研究費等で賃金または報酬・謝金等を支払う場合の個人番号提出への協力依頼について
3．紀要・論集発行の案内方法について
4．研究倫理教育 CITI-Japan の受講状況について

Ⅱ．**審議事項**
1．2016（平成 28）年度予算要求第 1 次査定結果及び復活要求について
2．在外・国内研究員制度の変更に伴う関係規程の一部変更（案）について

第 9 回研究支援委員会

日時　2016 年 1 月 14 日㈭　13：30～
会場　総合研究所

Ⅰ．**報告事項**
1．研究倫理教育 CITI-Japan の受講状況について
2．札幌学院大学選書の申請状況（再々募集）について
3．後援会学術図書自費出版助成制度の廃止について
4．紀要・論集発行の案内方法等について

Ⅱ．**審議事項**

1．2016（平成 28）年度研究促進奨励金の審査員について
2．総合研究所年報（研究活動報告等）の原稿提出について

第 10 回研究支援委員会

日時　2016 年 2 月 10 日㈬　13：30～
会場　総合研究所

Ⅰ．**報告事項**

1．2016（平成 28）年度　研究促進奨励金の募集について
2．2016（平成 28）年度　研究促進奨励金の審査について
3．事業実績報告について
4．2016（平成 28）年度　日本学術振興会特別研究員（PD）について
5．研究倫理教育の受講状況について
6．総合研究所年報（研究活動報告）原稿の提出について

Ⅱ．**審議事項**

1．体制整備等自己評価チェックリストの再提出について
2．科研費間接経費執行計画の変更について
3．2016（平成 28）年度　総合研究所客員研究員の委嘱について
4．2017（平成 29）年度在外・国内研究員の選考方法について
5．「札幌学院大学教員研究経費支給規程」の一部変更（案）について

第 11 回研究支援委員会

日時　2016 年 3 月 10 日㈭　13：30～
会場　総合研究所

Ⅰ．**報告事項**

1．2016（平成 28）年度　予算要求最終結果について
2．2016（平成 28）年度　研究促進奨励金の再募集について
3．2016（平成 28）年度　研究促進奨励金の審査（再募集）について
4．教員研究費の執行に関わる変更点について
5．総合研究所年報（研究活動報告）の原稿提出状況について
6．研究倫理教育の受講状況について
7．平成 28 年度学術研究振興資金の選考結果について
8．2016（平成 28）年度　在外・国内研究員の派遣期間の変更について

Ⅱ．**審議事項**

1．2015（平成 27）年度　事業実績報告書について
2．「札幌学院大学教員研究経費支給規程」の一部変更（案）について
3．総合研究所特設部会「札幌学院大学地域連携部会」の設置申請について

札幌学院大学 総合研究所　年報　2015

2016 年 7 月 29 日発行

発行者　札幌学院大学 総合研究所
〒069-8555 北 海 道 江 別 市 文 京 台 11 番 地
電話 011―386―8111(代)
代表者　中 村 永 友

印刷所　株式会社　アイワード
〒060-0033 札幌市中央区北 3 条東 5 丁目 5 番地91
電話 011―241―9341

SCU